

平成 15 年度 埼玉大学附属図書館

自己点検・評価報告書

国立大学法人化への道

平成 16 年 3 月

附属図書館自己評価等実施委員会

はじめに

平成 11 年の大学設置基準の一部改正に伴い、各大学は教育研究水準の向上を図り、当該大学の目的と社会的使命を達成するため、各大学における教育活動・研究活動などの現況について、自ら点検・評価を行い、その結果を公表するものとした。埼玉大学でも、「埼玉大学自己評価等委員会規程」が定められ、それを受けて附属図書館では「埼玉大学附属図書館自己評価等実施委員会内規」を規定し、これまで平成 5～8 年度、平成 11 年度、平成 12 年度、平成 13 年度に自己点検・評価を行い、それぞれについて報告書を作成してきた。

今回の平成 15 年度報告書は、これまでの実施手順に従い、本年度附属図書館自己評価等実施委員会において提案・協議された点検・評価項目について図書館内の委員を中心に検討を加え、各部門担当者が原稿の作成・編集を行い、附属図書館自己評価等実施委員会において最終的に調整し、承認されたものである。

この報告書の体裁は、図書館の事業と機能、およびその基盤にかかわる、1 サービス、2 資料、3 電子図書館的機能、4 管理・運営、5 社会貢献、6 その他について、原則として各項目ごとに、今までの状況、平成 14～15 年度の実績、そして評価・問題点・課題を分析する形でまとめられている。

平成 16 年度より埼玉大学は国立大学法人として新たな一步を踏み出す。この報告書は国立大学附属図書館としては最後のものとなる。既にこの報告書にある図書館利用アンケートなどの結果の一部は国立大学法人へ向けての中期計画・中期目標に反映されている。

さらにこの報告書を公表することにより、大学内外の意見を求め、図書館としてのさらなる検証を加えながら、点検・評価結果を今後の図書館活動・業務に反映させ、より充実した大学図書館とするための糧としたい。なお、後尾に附属図書館業務に関する統計等の関連データをまとめて掲げている。参考としていただければ幸いである。

平成 16 年 3 月

埼玉大学附属図書館自己評価等実施委員会委員長
附属図書館長
檜山 哲夫

平成15年度

埼玉大学
附属図書館

自己点検・
評価報告書

平成十六年三月

埼玉大学
附属図書館

目次

はじめに

1 サービス

- (1) 学生の自主学習の支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- (2) 情報提供・利用支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
- (3) 資料の利用環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
- (4) 留学生支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

2 資料

- (1) 資料の整備・充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
- (2) 資料の配置・管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

3 電子図書館的機能・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

4 管理・運営

- (1) 法人化に伴う対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
- (2) 定員削減への対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
- (3) 学内情報関連施設との連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
- (4) 建物等の維持・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
- (5) 施設・設備・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

5 社会貢献

- (1) 地域社会へのサービス・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
- (2) 地域社会との交流・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

6 その他

- (1) 21世紀総合研究機構への参加・・・・・・・・・・・・・・・・・・23

終わりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

<資料編>

1 業務関係資料

- (1) 業務統計(平成10~14年度)
- (2) 情報リテラシー教育支援活動等の実施状況(平成15年度)
- (3) 業務日誌(平成15年度)
- 2 埼玉大学附属図書館自己評価等実施委員会内規
- 3 埼玉大学附属図書館自己評価等実施委員会名簿
- 4 埼玉大学附属図書館利用に関するアンケート(平成15年12月実施)集計結果

1 サービス

(1) 学生の自主学習の支援

ア 自習環境の整備

・今までの状況と問題点・課題

附属図書館の閲覧席としては、2号館2階の第1閲覧室に100席、2号館3階の第2閲覧室に80席、1号館3階の第3閲覧室に138席、1号館3階の自由閲覧室に198席、1号館2階の参考図書室に84席、及び平成13年度末に地域と大学の情報交流プラザが21世紀総合研究機構棟に移設されたことに伴い、その跡地に海外情報の広場10席を設置し、合計610席となっている。

埼玉大学所蔵資料のオンライン目録のOPAC用端末は、参考図書室に4台、第1、第2閲覧室及び1～3階の雑誌室にそれぞれ1台合計9台設置しており、利用者が自由に検索できるようになっている。平成11年3月に、インターネット利用、論文作成等のために、情報端末(パソコン)18台を参考図書室に設置した。利用頻度が高く、端末数は不足でいつも待ち行列ができていた状態である。ただ、初歩的な使用技術の不足している学生も多いため、カウンターで使い方等を聞かれることが多い。このため後述のように、講習会を頻繁に開いている。また自分のパソコンを持ちこんでインターネットや論文作成に利用できるように情報コンセントを参考図書室、第1閲覧室、第3閲覧室、自由閲覧室の窓寄りの閲覧机に合計104口設置した。

現在本学の学内で長時間情報端末が無制限に利用できるのは図書館だけであり、学生のニーズに応え好評である。利用の際の情報端末の基礎的な操作の指導やトラブルに図書館職員が即応している。

OPACは、利用しやすさに問題がないとはいえない。特に英語表記がないため、外国人が利用しにくいことが課題であった。

・平成14,15年度の実績

OPACにおける英語表記については、平成15年度に留学生経費の措置を受け、英文化を行っており、平成15年度末に予定している図書館システムのバージョンアップとともに英語表記を実現する予定である。

情報機器については、少なからぬ修理・メンテナンスの経費と、多くの利用者への支援のための図書館職員の労力を必要としている。また、利用者のモラル、マナーの向上、あるいは不正アクセス等の防止策の検討が必要である。学生の情報機器利用技術向上のため、総合情報処理センター等と連携して支援方法等を考える必要がある。なお、ウイルス対策ソフトは入れているもののセキュリティー対策が万全とはいえない。

情報端末の利用に関わる利用者のモラル、マナーの向上については、職員が日常的に指導している。不正利用の防止のため情報端末付近への注意事項の掲示も指導の一環として実施している。

閲覧座席の増加策として、1号館3階の埋蔵文化財調査室の跡地にグループ利用が可能なように試行的に机とイスを設置した。これにより、座席数は24増加し634席となっている。

・評価・問題点・課題

本学の学生数に見合った閲覧席のさらなる増設のためさらにアメニティー空間の確保等のためにも増改築が必要であると考えられる。閲覧座席の増加策として試行的に実施した、グループ利用が可能な部屋について具体的な運用方針を策定する必要がある。また、建物全体のスペースの有効利用を更に積極的に推進する必要がある。

情報端末については、平成11年3月導入から既に5年が経過しており、最近アンケートにも記されているように、頻繁にエラーを発生する、フリーズする、レスポンスが遅いなど学習及び研究に支障を来している状態で、ハードウェア面からもソフトウェア面からも更新すべき時期に達している。また、情報端末の台数増加及びプリンタの設置等についても要望が大変大きく、情報環境の整備という観点から改善が課題となっている。更新に当たってはセキュリティ対策上また学内構成員個々の利用環境管理上からも、総合情報処理センターとの連携をはかっていく必要がある。

イ 情報リテラシーの育成

(ア) 新入生オリエンテーション

・今までの状況と問題点・課題

例年4月に新入生(平成12年度からは3年次編入生及び大学院新入生も含めた)を対象としたオリエンテーションを行ってきている。会場は1号館3階自由閲覧室を利用している。内容は、図書館の開館時間、館内の閲覧室等の構成と資料や設備の配置、図書の貸出・返却、目録や配架による資料の探し方、その他、諸サービスや注意事項についての説明である。平成13年度までは参加者全員に、図書の貸出時に必要なIDカードの発行もあわせて行っていた。

平成11年度は、4月12～13日の2日間、図書館を閉館して1日6回計12回行った。参加者は、ID登録が793名、説明会参加者が786名であった。

平成12年度は、4月11日～14日の4日間、1日2回計8回行った。この年度から、学部新入生に加えて、3年次編入生及び大学院新入生も対象とした。なお、図書館を開館してオリエンテーションを実施した。内容は、前年度同様であるが、パワーポイントによるスライドを充実させた。参加者は、ID登録が1,185名(学部新入生1,038、3年次編入生27、大学院新入生120)、説明会参加者が1,035名であった。

平成13年度は、4月11日～13日の3日間、1日2回計6回行った。参加者は、ID登録が989名(学部新入生827、3年次編入生26、大学院新入生136)、説明会参加者が903名であった。また、4月9日には夜間に経済科学研究科新入生のためのオリエンテーションを実施した。4月26日には留学生のためのオリエンテーションを英語で実

施した。8月24日には8月入学者2名に対し、図書館利用の説明、館内ツアー、IDカード交付を内容とするオリエンテーションを実施した。

平成13年度までの評価の問題点・課題としては、学部新生向けオリエンテーションを各学部の新生ガイダンスの中を含めることを検討すること、また留学生が増加していることから、利用促進のための更なる工夫と、図書館職員の業務としての語学研修、留学生センター等との緊密な提携などがあった。

・平成14, 15年度の実績

平成14年度は、4月10日～12日の3日間、1日3～4回計11回行った。参加者は、14年度から学生証が図書館IDカードを兼用することとなりID登録が不要となったため、説明会参加者が524名と前年の約半数であった。また、4月8日夕方に経済科学研究科新生のためのオリエンテーションを実施した。4月25日には留学生26名のためのオリエンテーションを英語で実施した。10月26日には秋季入学者11名に対し、図書館利用の説明、館内ツアーを内容とする同様のオリエンテーションを実施した。

平成15年度は、4月9日～16日の6日間、1日2～4回計17回行った。説明会参加者は920名であった。また、4月8日夕方に経済科学研究科新生のためのオリエンテーションを実施した。4月24日には留学生15名のためのオリエンテーションを英語で実施した。10月24日には秋季入学者13名に対し、図書館利用の説明、館内ツアーを内容とする同様のオリエンテーションを実施した。

・評価・問題点・課題

新生を対象とした図書館オリエンテーションは、時期的に各講義の初回と重なることが多いため、図書館に来やすい時間帯を各学部と調整しておくことが望ましい。15年度は英語や体育など必須科目の時間帯を外して開催したが、参加にはかなりムラがあった。オリエンテーションは、図書館がどのようなサービスを提供しているか、概略を理解してもらう大切な機会でもあるので、参加者の増加方策について更に検討する必要がある。

留学生はその人数に比して図書館利用度は高いが、年度初めのオリエンテーションへの参加はそれほど多くない。留学生センターとの連絡を密にして参加率を高めることと、4月以外にも継続的にオリエンテーションを実施することを検討すべきであろう。

(イ) 各種ガイダンス、講習会等

・今までの状況と問題点・課題

平成12年5月11、16、24日に「欧米の学術雑誌をパソコンで読む！」と題して、電子ジャーナルの利用ガイダンスを開催した。内容は、Academic Press社のIDEAL、Elsevier Science社のSD-21の利用方法や利用環境等について、パソコン画面の投影によるデモンストレーションを交えて説明を行った。3回あわせて16名の参加があった。平成12年5月24日にOCLC First Search ECOのトライアル利用説明会を実施し、

参加者は6名であった。平成12年10月20日には経済学部対象の電子ジャーナル説明会を附属図書館3階会議室で行い参加者は7名であった。

平成13年度は、情報リテラシーに関連して次のような講習会等を実施した。

大学院生のための文献検索講習会（理工系、文科系）

電子ジャーナル（SD21）利用説明会

E-Journal ADVANCED CLASS [電子ジャーナル利用講習会上級編]

工学部建設工学科2年生対象の情報基礎（計算機概論）の講義の第3回目として「文献検索入門」の講義と実習を図書館が担当した。

平成13年度までの評価の問題点・課題としては、大学院生向け利用案内の作成がある。今後、各種ガイダンス等の内容のさらなる充実を図っていくことが必要であり、そのためには教官との連携や担当職員の研修の充実が必要であることが検討課題となった。

・平成14、15年度の実績

平成14年度から、共通教育「広域総合科目」の中の「知的探求への扉」に附属図書館として授業参加し、「情報と知的探求」「探求の道具としての図書館」のテーマで2コマの講義を担当した。

また、平成14年度に、工学部建設工学科1、2年生対象の情報基礎（計算機概論）の講義において「文献検索入門」の講義と実習を図書館が担当した。

さらにテーマ別オリエンテーションとして、次の講習会を実施した。

初めての電子ジャーナル（解説編、実習編）（理工系、文系）

ゼミに役立つ論文検索入門（理工系、文系）

見て、触って、わかるオンライン・データベース

工学・化学系のためのSciFinder講習会

E-Journal & Online-Database skill-up Training（理工系、文系）

卒論・修論準備文献検索（理工系、文系）

なお、電子ジャーナル講習会を開催する際の担当者養成研修として、国立大学図書館協議会電子ジャーナルタスクフォースが企画した「電子ジャーナル・ユーザー教育担当者研修会」に職員を派遣し研鑽を積ませた。

平成15年度は、平成14年度同様「知的探求への扉」に継続参加した。

また、「情報基礎」での「文献検索入門」の講義と実習を、全学部に対象を拡大し合計27コマで講義を担当した。（経済学部分はプレゼミとして設定された講習会を担当）

さらにテーマ別のオリエンテーションとして、次の講習会を実施した。

SciFinder講習会

Academic Search Elite（EBSCOhost）の効果的な使い方

卒論・修論準備文献検索（基礎、応用）

市民のための情報講座

・評価・問題点・課題

「情報基礎」での「文献検索入門」は、OPAC や NACSIS-Webcat といった基本的な検索ツールについて、学生一人一人が実体験しながら検索の方法を理解していくように構成したため、非常に好評であった。今後は、使用するテキストのオンライン化や自習又はフォローアップ用の課題の提供などを計画していく必要がある。

法人化に伴い全学的な共通教育の見直しが行われることになっており、その中で情報リテラシー教育の支援をどのように進めていくべきかを関係各部署と調整して検討する必要がある。

また、アンケート結果を見ると、講習会の開催案内が十分に浸透していない傾向があるので、図書館ホームページはもとより、各教員から参加を強力に促すように協力を仰ぐなど、より積極的な広報活動を進める必要がある。

(2) 情報提供・利用支援

ア 広報の充実

・今までの状況と問題点・課題

ホームページ

図書館ホームページでは、ページ構成を、「お知らせ」、「情報の検索/所蔵資料」、「附属図書館案内」の三つに大きく分け、電子ジャーナルのトライアル等の新しいサービスの開始については、その都度「お知らせ」の部分に掲載した。平成13年度には、より魅力的なホームページとするため、デザインの変更等の検討を行った。

附属図書館報「むさしの」

平成11年度は、9月に第56号を発行し、サービス面の記事としては、CD-ROMサーバによるCD-ROMデータベースの利用サービスについての詳細な説明と、情報端末、情報コンセント、学生購入希望図書についての簡略な案内を載せた。

平成12年度は、7月に第57号を発行し、サービス面の記事としては、電子ジャーナル導入と利用についての詳細な説明と「地域と大学の情報交流プラザ」の開設や留学生のための整備についての簡略な案内を載せた。

平成13年度評価の問題点・課題としては、ホームページの見やすさの工夫、作成しやすさの工夫についての検討がある。また館報をメール配信している大学もあり、本館でも検討してみる必要があることが検討課題となった。

・平成14、15年度の実績

ホームページの内容(コンテンツ)を大幅に見直し、一覧性を持った誘導型のホームページに構成変更を行った。利用者からの要望が多い電子ジャーナルのアルファベット順タイトルリストや文献検索法の解説なども盛り込んだ。

館報「むさしの」の最新号を電子版第1号として作成し、学内教職員、国立大学図書館協議会加盟館や埼玉県大学・短期大学図書館協議会や県内文化施設にメールによる配

信を行った。併せて、学生向けに PDF データから印刷を行い、図書館入口に備え付けた。

「図書館概要」も見やすさとシンプルさを追求して、折りたたみ形式のものを作成した。

また、新たに購入した図書のリストと選定委員による書評をホームページに載せるようにした。

・評価・問題点・課題

広報活動は、継続性が求められる活動であり、そのためには責任ある広報体制を確立することが必要である。特にホームページは新鮮さが求められるものであり、最新の技術動向を把握し、どう取り込むかなどを常に考えていくことができる体制をとる必要がある。また、館報を電子版のみとしたが、冊子体の再刊も今後の検討課題であろう。

イ 電子ジャーナルの利用支援

・今までの状況と問題点・課題

広報としては、ホームページにトライアル等のお知らせを掲載した。また、電子ジャーナル利用ガイダンス等を平成 12 年度から実施した。

なお、「むさしの」第 57 号（平成 12 年 7 月発行）に、「電子ジャーナルの利用について」を掲載し、実際の利用のしかたについて広報した。

平成 13 年度は、教職員・大学院生向けの電子ジャーナル利用ガイダンスを、理工系、文科系、留学生向けに分けて実施した。文科系では募集人数の 3 倍に達した。ホームページには、電子ジャーナルのトライアル等の「お知らせ」を随時掲載した。また、新しい電子ジャーナルのトライアルのポスターを掲げ（英文を含む）、カウンターでチラシを配布した。

平成 13 年度評価の問題点・課題としては、大学院生、留学生を対象とした初心者講習会を年数回開催するなど、より幅広く利用説明会等を開催すること、また、ホームページ等でも電子ジャーナルの利用について幅広く広報を行うこと、窓口職員に対して最新情報技術を使いこなすための技術講習を継続的に行うことなどが挙げられた。

・平成 14、15 年度の実績

平成 14 年度には、「初めての電子ジャーナル（解説編、実習編）」（理工系、文系）及び「E-Journal & Online-Database skill-up Training（理工系、文系）」を開催した。

平成 15 年度には、Academic Search Elite（EBSCOhost）の効果的な使い方を開催した。

・評価・問題点・課題

平成 15 年度から全学対象に実施している「情報基礎」において、電子ジャーナルを実体験するようなカリキュラムとしており、有用性がかなり理解されてきている。

今後は、より幅広く利用説明会等を開催する必要がある。特に情報を使いこなす技術

の習得が強く求められている大学院生、留学生を対象とした初心者講習会を年数回開催する必要がある。

また、ホームページ等でも電子ジャーナルの利用について幅広く広報を行う必要がある。

窓口職員に対しても最新情報技術を使いこなせる技術講習が継続的に必要となっている。

(3) 資料の利用環境

ア 雑誌室・書庫の冷房の整備

・今までの状況、対策と問題点・課題

雑誌室・書庫は、送風機、除湿機が各階に設置されているが、冷房の設備はない。そのため夏季には、雑誌室・書庫の室温は35℃前後まで上昇し、夜間でも30℃を超えていることもあり、利用者の利用環境を著しく阻害しているだけでなく、資料の保存にも悪影響が懸念される状況である。このため、温度、湿度の細かなデータを採取し、これをもとに予算要求の検討を行った。

平成13年度には、2、3階の雑誌室に扇風機を各1台設置した。冷房設備のない新着雑誌コーナーは、夏季には扇風機を使用しているが、平成13年度は扇風機を1台から3台に増やした。また、閲覧室の一部のフィルターの洗浄を行った。

なお、営繕要求をしていた新着雑誌コーナーへの冷房の設置については、平成13年度に経費が措置され、設置が実現した。

平成13年度評価の問題点・課題として、冷暖房の効率的運転のため、全館のフィルターの洗浄を行う必要を指摘した。

また雑誌室・書庫は通風が悪く、除湿機が設置されているが、1階は特に湿度が高くカビが生じている状況となっているので、全体の空調のバランスに工夫と目配りが必要であることも指摘された。

・平成14、15年度の実績

全館のフィルターの洗浄を実施した。また書庫1階の図書カビとり作業を実施した。

・評価・問題点・課題

冷暖房の効率的運転のため、継続的に全館のフィルターの洗浄を行う必要がある。

雑誌室・書庫は通風が悪く、除湿機が設置されているが、1階は特に湿度が高くカビが生じている状況となっているので、全体の空調のバランスに工夫と目配りが必要である。また、設置の除湿機は騒音が大きく、勉学の妨げとなることに留意する必要がある。雑誌室は以前書庫として利用してきた経緯があり、閲覧室と共通に利用するサービス形態に変更した後も、以前の空調のままの設備であるため、全体の空調を抜本的に見直し改善する必要がある。

例年、夏季期間には、電力容量の契約上の都合などから、空調の一時停止などの要請があるが、この時期は前期試験の準備時期でもあり、多くの利用者が入館する。勉学に支障をきたさないよう配慮する必要がある。

イ 閲覧室の照明の改善

・今までの状況と問題点・課題

平成9年度に、新着雑誌コーナー、第3閲覧室、自由閲覧室の照明器具を同じワット数で、より明るく消費電力の少ないものと取り替え、平成12年度には照明器具のPC

B使用安定器の総入れ替えを行った。

明るさについては、夜間及び曇天時に、閲覧室の窓寄り及び壁面で、一部照明が届きにくいところがあることが指摘された。

平成13年度には、閲覧スペースの照明器具の状況を点検し、故障中のものについては修理した。また、照度の測定を実施した。

平成13年度評価の問題点・課題としては、閲覧室の中で、特に夜間の窓側付近で照明の届きにくい机や書架について、机の再配置や新たな照明器具の取り付けを行う必要があることが指摘された。このための予算措置を検討する必要がある。

・平成14、15年度の実績

当面の措置として、特に照明の届きにくい第1閲覧室及び第2閲覧室の東西窓側付近の机に照明器具を取り付け利用してもらうこととした。

・評価・問題点・課題

閲覧室の中で、照明の届きにくい書架について、照明器具の取り付けを行う必要がある。また全体的に照明器具の配置見直しを行うための予算措置を検討する必要がある。

(4) 留学生支援

ア 留学生用設備の整備

・今までの状況と問題点・課題

平成10年度には、中国語、韓国語に対応したパソコンソフトを一部の情報端末に導入し、平成12年度には残りのすべての情報端末に導入した。

平成11年度には、日英併記の各種の館内案内板、書架の分類表示等のサインを作成し、閲覧室、参考図書室等に掲げた。「埼玉大学附属図書館利用案内」として英語版、中国語版、韓国語版をそれぞれ作成し、ホームページからもこれらが見られるようにした。

平成13年度は、IDカード、ILL、購入希望図書等の英語版による各種申請書類を作成した。

留学生が母国や世界の情報をカレントに入手できるよう、海外衛星放送受信設備経費の要求を行ってきたが、平成13年度に文部科学省から予算の配分があった。

さらに、文部科学省から次の経費の配分があり、それぞれ実施した。

日英併記のサイン：閲覧室の低書架の分類表示及び書庫の案内等。

学習用視聴覚資料提供サービス：DVD等の視聴設備及びソフトの整備。

情報検索サービス：CD-ROMデータベースの検索用システムの整備。

平成13年度評価の問題点・課題として、「地域と大学の情報交流プラザ」の跡スペースを活用した留学生用設備の充実を検討することと、外国人との日常会話ができる語学力の習得、接遇の仕方等絶えざる窓口職員の研鑽などがある。

・平成14、15年度の実績

留学生経費の措置を受け、「地域と大学の情報交流プラザ」の跡スペースに海外衛星放送受信装置を設置し、母国のニュース、ドラマなどを自由に鑑賞することができるスペース「海外情報の広場」として開放した。

・評価・問題点・課題

「海外情報の広場」は、留学生向けの最新情報取得ツールとしてはもちろん、日本人学生にも語学習得ツールとして利用されている。ただ、設置場所が比較的通常の動線から外れたところにあるため、残念ながら現在までのところ利用がそれほど多くない。利用率の向上を図る工夫が必要となろう。

イ 留学生用図書整備

・今までの状況と問題点・課題

附属図書館の図書館資料整備費の中から留学生用として、日本語・日本事情に関する図書及び雑誌、人民日報、朝鮮日報等の外国語新聞、外国語による参考図書等を購入している。また、平成 12 年 9 月に留学生指導教官に対して推薦図書の調査を行い、留学生向け図書の購入の参考とした。

平成 10 年度、11 年度に文部科学省から留学生用図書費の配分を受け、図書を整備した。さらに平成 13 年度にも留学生用図書費の配分を受け、留学生向けの基本図書、参考図書、日本語・日本事情図書を重点的に整備した。

平成 13 年度評価の問題点・課題として、留学生向け図書の受入状況等をホームページ等で広報する必要が指摘された。また、留学生向け図書資料経費の継続的要求も必要であろう。

・平成 14、15 年度の実績

留学生向け図書資料経費を継続的に要求した結果、予算措置があった。これら措置された基本図書購入費、参考図書購入費、視聴覚資料購入費などにより留学生用図書の整備を実施した。

・評価・問題点・課題

留学生向け図書資料経費の継続的な要求が必要である。

2 資料

(1) 資料の整備・充実

ア 資料選定委員会による資料選定の充実

学習・教育・研究活動に必要な図書館資料の選定をきめ細かく、かつ、適正に行うため、附属図書館委員会のもとに図書館資料選定委員会を設置した。この委員会は附属図書館長、附属図書館委員会委員、館長が指名する教員、図書館職員で構成されている。平成 13 年度においては、選定資料の対象を、学生用図書、継続的に購入している参考図書、高額資料、留学生用図書とし、特に、学生のための適正な図書資料を充実させるため、選定委員が新刊書を随時推薦し、委員長（館長）の承認を経て購入することとした。推薦にあたっては、メールなどを活用し、迅速化を図った。

従来から全教員を対象にして年 2 回実施している学生用図書の推薦（教育、学習に必要な資料の推薦 - 毎春実施、授業のための参考書の推薦 - 毎秋～冬実施）に加え、上記の方式を取り入れたことにより、学生用の新刊書の整備充実が進んだ。

さらに平成 15 年度からは、要望が多かった随時推薦受付の対象を全教員に拡大した。これにより年 2 回の推薦でカバーできなかった図書の購入が可能となった。

また、教務委員会で決定され平成 16 年度から実施予定の『「成績評価基準の明示と厳格な成績評価の実施」および「単位制度の実質化」のための具体的方策について』の中で、新たな予算措置を講じて図書館へシラバス関連図書の重点配備を行うことが予定されており、なお一層資料の整備充実が期待される。

シラバス関連図書については、平成 14 年度から参考図書室の一角に別置スペースを用意し常備資料として運用を行っている。

イ 学生用図書の充実

学生が自ら学習し、調査研究するための基本的な図書については、上記の資料選定委員会を始めとするさまざまな手段を通して充実を図っているが、今回実施したアンケートの中で利用者からのもっとも強い要望として示されたものは「蔵書の充実」であった。具体的な意見としては、「資料が古くて利用できないので最新の資料をもっとたくさん揃えてほしい」「蔵書数が圧倒的に少ない」「埼玉大学にない学部（医学など）に関連する図書が弱い」などが多く出てきた意見であった。

一方で学生用図書経費は、学生数がほぼ倍増しているにも拘らず増額措置がとられず、横ばい状態もしくは最近のように漸減傾向となっており、必要最小限の図書も購入がままならない状況である。学生の勉学の基本的材料である学生用図書についての確固とした予算措置が必要であろう。

ウ 電子ジャーナルの整備・充実

・今までの状況と問題点・課題

附属図書館では、平成 11 年度から電子ジャーナルの導入整備に取り組み、電子ジャ

ーナルの導入、試行、利用説明会の開催等を実施してきた。利用可能な電子ジャーナル数がコンソーシアム契約などの利点からかなり増えたこともあり、利用数は着実に増加し普及が進んでいる。

平成 13 年度は JSTOR (117 誌)、IDEAL (270 誌)、SD21 (1200 誌) の電子ジャーナルを導入しサービスを行った。所要経費については、JSTOR、IDEAL は図書館の資料整備費と部局で負担することとし、SD21 については高額なこともあり、半分を学長裁量経費から残りの半分を課金制の受益者負担とした。

平成 13 年度評価の問題点・課題として以下のことが指摘された。

利用者にとって有意義な電子ジャーナルを選定するために他国立大学とともにコンソーシアムに参加し、本学では購入していない多くの雑誌にもアクセスできるよう努力する。また年々高騰する料金と逆に減少している教官校費を考えると、将来的にはこのような全学的に自由に利用する情報基盤整備の基礎となるものについて、全学で支援する共通経費等で予算措置をすることが望ましい。電子ジャーナルの利用は電子図書館の機能の整備の基礎となるものであり、自然科学系教官、学生を中心に利用希望が強く積極的な導入が期待されている。今後、継続的に教育・研究支援のために電子ジャーナル経費を確保し、利用者へのサービスを充実させる必要がある。

・平成 14、15 年度の実績

国立大学図書館協議会電子ジャーナルタスクフォースが構築支援している各社のコンソーシアムへの参加を進めている。前述のようにこのような全学的に自由に利用する情報基盤整備の基礎となるものについては、全学で支援する共通経費等で予算措置をすることが望ましい。そのため法人化後の中期目標・中期計画の中では共通経費化を要求している。

・評価・問題点・課題

法人化後の埼玉大学は、研究力の強化により外部資金の獲得を目指すことが大きな目標の一つとなっている。そのためにも電子ジャーナルなどの情報基盤整備は不可欠である。特に、電子ジャーナルは電子図書館の機能の基礎となるものであり、購読可能なタイトルを大幅に増加させるような手段を講じるべきである。今後、継続的に教育・研究支援を行う上で、電子ジャーナル経費を確保し、利用者へのサービスを充実させるためには、全学で支援する共通経費等で予算措置をすることが必須であろう。

また、海外大手出版社による学術雑誌の寡占化に対抗するための活動として学協会・図書館等が協同して始めた、SPARC/JAPAN への積極的な参加を教官に呼びかけ発展をはかっていく必要がある。

(2) 資料の配置・管理

ア 資料の配置・配架の見直し

・今までの状況と問題点・課題

平成 7 年度からの資料の集中化の推進により、毎年研究室から 4 千～1 万冊の図書・雑誌が返却されている。書庫の書架は、分野により満杯になっているところがあり、研

研究室からの返却図書がそのままでは配架できない状況がある。閲覧室の書架も、全体的にスペースが少なくなっており、分野によっては満杯のところもある。そのため新規受入図書が配架できない箇所が生じている。

以上のことに対処するため、平成 12 年度末に学長裁量経費により書庫内の図書の配置を見直し、並べ替えた。具体的には以下の作業を実施した。

書庫 4 層の旧制浦和高等学校図書を、2 号館 1 階雑誌室へ移動した。また、空いたスペースを使い、集中化による研究室からの返却図書等を入れられるように書庫内の図書の配置を全面的に見直し、並べ替えた。研究室からの返却図書で処理が遅延しているものの整理を行い、書庫に配架した。

平成 13 年度には、閲覧室の開架図書のうち、内容が古く、利用頻度が少ない図書を随時書庫へ移動している。また、利用者の便を図るため、移動作業により整備した書庫内の配架状況表を作成して設置した。

平成 13 年度評価の問題点・課題として、返却図書等の配架場所についての検討、退官・異動による返却図書の処理の迅速化、また寄贈図書の整備などが指摘された。

・平成 14、15 年度の実績

平成 14 年度には、学長裁量経費の措置を受け、返却図書約 25,000 冊及び寄贈図書約 3,300 冊の整備を実施した。

平成 15 年度も、学長裁量経費により寄贈図書約 2,500 冊の整備を実施した。

・評価・問題点・課題

退官・異動による返却図書の処理は、依然ルーティンでこなしきれない状況が続いている。返却図書の処理計画を立て、定期的に経費を要求して、迅速な処理を行うようにする必要がある。また、寄贈図書の整備内容も充分とはいえず、あわせて整備のための予算措置が必要である。また、アンケートでも指摘された学生用参考図書書架にある古い参考書などについて撤去を含む配架の見直しも今後の課題であろう。

3 電子図書館的機能

・今までの状況と問題点・課題

平成 8 年に学術審議会から「大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について」の建議が出された。以後、この建議の主旨に沿い埼玉大学附属図書館でも整備が進められてきた。平成 9 年には附属図書館にホームページを作成し、情報提供を開始した。平成 10 年には電子図書館的機能検討小委員会から図書館委員会に「埼玉大学附属図書館の電子図書館的機能について（答申）」が提出され電子図書館的機能についての検討と議論が本格的に開始された。その結果、平成 11 年からは、CD-ROM 媒体のデータベースサービスを導入し、さらに電子ジャーナルを導入し、サービスを開始した。また、同年に「埼玉大学教育研究情報システム」を作成し、サービスを開始した。さらに、遡及入力事業を 10 年計画で開始した。平成 12 年 7 月には電子ジャーナル検討委員会が設立され、電子ジャーナルの種類、試行、導入、予算確保の方法等を検討している。平成 13 年 3 月には補正予算で、IT 関連措置として電子図書館システムの機器の一部が導入された。平成 13 年度には、電子図書館システム機器のソフトウェア調整およびテストを行い、新規システムを導入した。

21 世紀総合研究機構の事業部門のなかに「電子図書館プロジェクト」を計画し、承認された。「電子図書館プロジェクト」は、情報発信のための学術情報の電子化を推進するため、関係教官および職員により持続的・計画的・組織的に、調査・研究・開発を行うものである。第 1 期としては、「生産原論文庫」資料のデータベース化を計画しており、その作業の経費獲得のために、平成 14 年度科学研究費補助金の申請を行った。しかし残念ながら措置はされずに終わった。

平成 13 年度評価の問題点・課題としては以下のようなことが挙げられた。

「電子図書館プロジェクト」を進めるにあたって、今後対象資料やデータベース化の方法などについて具体的な検討を進める必要がある。上述のように、「生産原論文庫」資料のデータベース化作業経費獲得のために行った平成 14 年度科学研究費補助金の申請は措置はされなかったが、事業を進める上で経費獲得が課題であり、科学研究費補助金を含む外部資金の導入などについて積極的に取り組んでいく必要がある。

・平成 14、15 年度の実績

引き続き「生産原論文庫」資料のデータベース化のための経費獲得のために、平成 15 年度科学研究費補助金の申請を行ったが再び措置されずに終わった。

平成 15 年度には、幸い学長裁量経費の措置を受けることができ、手書き資料を中心とする画像データ化及び資料整理作業を現在進めている。

・評価・問題点・課題

「生産原論文庫」データベース化計画のための経費獲得を継続的に進めていく必要がある。今回作成した画像データを試行的に公開することによってこのデータベースの意義をPRし、外部資金獲得に努める必要がある。

4 管理・運営

(1) 法人化に伴う対応

平成16年4月からの国立大学法人化を円滑に行うに当たって、以下の準備を行った。

資産台帳のデータ整備

これまで図書原簿(冊子体)、目録カード、物品請求等命令書及び電子データとして保有していた蔵書の情報を資産台帳として確定するために、データ整備を行った。その際、図書現物の確認作業を行うとともに重複図書及び破損図書の廃棄処理を行った。

図書の現物確認

図書館内に配架されている図書及び各学部の研究室等に備付けられている図書について、現物が存在することをリストを基に確認する作業を平成15年夏に実施した。

(2) 定員削減への対応

・今までの状況

第9次定員削減計画の中で平成11年度末に雑誌情報係1名の削減を行った。

サービス対象の学生数等については、附属図書館2号館が新築された昭和55年当時の学生数(6,139人)に比べ、現在は45%増の8,871人(平成15年5月1日)となっている。入館者は年間382,368人(平成14年度)で1日平均1,279人となっており、利用者数はここ数年減少傾向にあるが、参考質問等は増加しており、サービス利用の形態が変化していることが伺える。また、図書館蔵書は、多種多様な研究者の要望から、ほとんど廃棄することなく維持してきており、平成15年3月31日現在、751,864冊となっている。一方、図書館資料の多種・多様化(図書、雑誌、通信、新聞、追録等の紙媒体、CD-ROM、電子ジャーナル、電子図書、電子新聞、オンラインデータベース等の電子媒体)が急速に進んでおり、これに対応したサービス面における積極的な利用支援が期待されている。

平成14年2月には図書館電算システムを入れ替えた。これによって従来手作業で行っていたものを改善し、可能な限りのオンライン化を実現した。

貸出・返却のカウンター業務の軽減を図るために、自動貸出・返却システム2台を特別整備費として概算要求していたが、平成15年3月に追加予算として措置され、同システムが1台導入された。

・評価・問題点・課題

第10次定員削減計画(平成13年4月1日～平成18年3月31日)が進められており、附属図書館においても1名の定員削減が予定されている。サービス業務を基本とする図書館においてこれ以上の定員削減はすでに限界をこえたものになっており、サービ

スの維持は不可能な状況となっている。このため、2年の削減時期の延期要望をしている。今後、館内組織再編をはじめ、業務のアウトソーシングやサービス業務の見直しなど、具体的な検討が必要となっている。

(3) 学内情報関連施設との連携

将来構想委員会のもとの「総合情報メディアセンター設置検討ワーキンググループ」に、附属図書館から情報管理課専門員が委員として、新しいセンター構想の検討に参加している。情報関連諸施設との緊密な連携が求められており、附属図書館も積極的に参画していく必要がある。

法人化を迎えるに当たって学内組織改編が行われている。情報関連諸施設としての全学的な整合性を図る必要があり、図書館も積極的に関与していくことが必要である。現在、法人化後の学長・理事予定者(次期館長を含む)及び総合情報処理センター長との話し合いも積極的に進めている。

(4) 建物等の維持

建物等の維持に関連して、課題となっているものは以下のとおりである。

・今までの状況と問題点・課題

1号館屋上ペントハウス上部のクーリングタワー囲い鉄部の塗装が剥がれ錆が発生している。また、縦の雨樋の塗装が剥がれている。

第1・2・3閲覧室床はPタイルで靴音が騒音となり耳障りとなっている。

旧宿直室の改修と多目的室への用途変えの可能性が検討されて来た。

図書館前に自転車が放置されている

平成13年度には、～ について営繕関係で要求し、～ については駐輪禁止の立て札を設置したが、これについては全学的観点から整備が必要である。

・平成14、15年度の実績

平成15年度に、旧宿直室を女性用更衣室として改修した。放置自転車については、全学的な措置により改善された。また正面入口を中心にペンキの塗り替え、手すりの修理などを行った。

・評価、問題点、課題

については、放置しておく被害が広がり必要以上に経費がかかるので、早めに改修する必要がある。については、カーペット床に張り替え利用改善を図る必要がある。

(5) 施設・設備

施設・設備関連のセキュリティ、衛生、空調等の状況について列挙すると以下のとおりである。

・ **今までの状況**

- 全館冷暖房設備が充分でない。
- 館内放送が隔々まで届かない。
- 閲覧室・階段室及び非常階段に非常用照明器具がない。
- 新着雑誌コーナーに冷暖房設備がない。
- 1号館積層書庫及び2号館雑誌室に冷暖房設備がない。
- 冷暖房装置の電源スイッチの適切な場所への改善が必要である。
- 予算上、空調設備等のメンテナンスを行っていない。
- トイレ手洗い洗面台が手動水栓になっている。
- トイレ入口ドアの改修が必要である。

・ **平成 15 年度の実績**

- ～ については営繕関係要求書を提出している。
- ～ については教育研究環境整備費で要求している。

・ **評価、問題点、課題**

エネルギーの節約などから事務室系統の冷暖房設備を独立させた方が良い。現在、1～2号館は集中冷暖房設備が設置してあるが、2階以上と1階事務室では夏期・冬期とも著しい温度差があるので改善する必要がある。

防災訓練をした結果、館内放送が聞こえない部屋、場所があるので、至急改善する必要がある。

消防法による誘導灯は設置してあるが、閲覧室では書架などで見通しが悪いので天井と階段踊場に設置する必要がある。

雑誌室は学生にも開放しているので出入りが頻繁に有り、夏は蒸し風呂状態、冬は冷凍庫状態であり改善する必要がある。

1階事務室奥の機械室に全館冷暖房装置の電源スイッチがあり、夜間及び休日開館時において、学生アルバイトが電源のON、OFFを行っている。2名のアルバイトの内、1名がそのために貸出カウンターから離れてしまい、非常時に残りの1名では対処できない事態に成りかねない。2階カウンター付近に遠隔スイッチを増設する必要がある。

定期的にメンテナンスを行う必要がある。

、 多人数の利用があるので、衛生上、自動水栓や自動ドアに改修するのが望ましい。

なお、今回実施したアンケートからは、特に冷暖房装置に対する苦情が目立った。集中冷暖房設備における温度管理が適切に行えない状況となっており、「暑くて気分が悪

くなる」「室温が異常なので何とかしてほしい」といった暖房の効きすぎの箇所があるかと思えば、「暖房が全然効いていない」「寒くて勉強に差し支える」という声もあった。利用者が快適に図書館を利用できるよう、環境を整備することが必要である。

5 社会貢献

(1) 地域社会へのサービス

ア 図書館の公開

・今までの状況と問題点・課題

当館では従来から一般の市民等の利用を認めていたが、利用に必要な事項を明確にするため、平成7年4月に「埼玉大学附属図書館一般市民等利用細則」を制定し施行した。

図書館サービスの内容としては、資料の閲覧、複写等を行っている。

むつめ祭期間中の開館

平成12年度から、むつめ祭期間中(11月3日~5日)も開館することとした。学内はもとより一般市民にも好評であり、附属図書館のPRもできた。期間中3日間の入館者数は、2,865人であり、この時期の通常の土・日の入館者数の2倍近くあった。

教育学部の授業公開

平成12年10月16~19日に実施された教育学部授業の一般公開「教育学部開放週間」に併せて、附属図書館の一般市民向けリーフレットを200部作成し、教育学部受付で配布した。参加者が、図書館の利用に関心を示し、リーフレットの効果が確認できた。

学外者の利用状況

平成12年度の学外利用者数は900名(他大学学生510、他大学研究者10、企業等機関研究者74、一般市民306)であった。

また、平成12年に実施した入館者調査によると、平日(11月21日(火))の学外からの利用者は34名(他大学学生10、小中高教員4、一般市民20)で全入館者の2.2%、休日(12月10日(日))は23名(他大学学生7、小中高教員1、一般市民15)で全入館者の8.2%であった。一般市民は、12月10日の神奈川県からの1名を除き、ほとんど本学周辺地域から来館している。

平成13年度の学外者の利用願提出数は平成14年1月末現在1,402名であり、その内一般市民は408名である。

平成13年度もむつめ祭期間中(11月23日~25日)に開館した。3日間の入館者数は、3,266人であり、昨年度の入館者数の14%増であった。

11月14日に行われた教育学部の授業の一般公開「教育学部オープンキャンパス」に併せて、附属図書館の一般市民向けリーフレットを一部改訂し配布した。

平成13年度評価の問題点・課題としては、一般市民の利用の支援方法を検討すること及び近隣の公共図書館との協議・情報交換を行っていく必要があることが指摘された。

・平成14、15年度の実績

一般の利用者に対する図書の貸出を平成15年4月から実施した。併せて学外者用の

附属図書館利用申請書を用意して記入を願い、学外者利用実態の把握に努めている。16年2月末での利用実績は、入館件数 891 件，利用証発行 500 件，貸出人数 173 人，貸出冊数 386 冊となっている。

・評価・問題点・課題

一般市民に対する大学図書館のサービスは、情報公開法の施行に伴って変化した。今後は利用目的を記入させるような手続きをとることはできなくなる。利用実態をどのように採取するか検討が必要である。なお、法人化後に施行される図書館利用細則の中に情報公開法に関わる利用に関する内容を盛り込んである。

また、法人化後の中期目標・中期計画の中に地域公共図書館等とのネットワーク構築によるOPACの公開利用を目指すことを盛り込んだ。一般市民への貸出図書を、市民が近隣の公共図書館に返却することなどについても図書館間で予め協議をしておく必要がある。

イ 埼玉大学高等学校生徒向け公開講座受講生への図書館サービス

・今までの状況と問題点・課題

この公開講座は、平成 12 年度から始まったもので、埼玉県立浦和高等学校の生徒を受入れ、本学の通常の授業に本学学生と一緒に聴講できるよう試行したものである。大学で実施している高等学校生徒向けの公開講座ガイダンスの一環として、附属図書館では「埼玉大学附属図書館利用案内」を配布するとともに、「学生生活の手引」をもとに「附属図書館の利用方法」の説明を行っている。利用できる範囲として、科目等履修生と同等の扱いで、図書の貸出も5冊2週間までできる。また、図書の購入希望にも応えられるようにしている。利用状況について言えば、平成 12 年度は、ほとんど利用がなかった。カウンターで確認している入館者数は5名、図書の貸出はなかった。

平成 13 年度からは参加校も浦和高等学校のほか、県立浦和北高等学校、県立川口北高等学校、県立大宮高等学校の3校が加わり、大学として同公開講座の拡大充実を図っている。それによって、高校生の利用がかなり増え、夜間はその姿が目につくようになった。平成 13 年度は入館者数 145 名、貸出冊数 25 冊である。

平成 13 年度評価の問題点・課題としては、公開講座への取組みにあわせた図書館サービスの検討及び受講高校生への広報の検討などが指摘された。

・平成 14、15 年度の実績

高等学校生徒向けの公開講座ガイダンスの一環として、附属図書館では「埼玉大学附属図書館利用案内」を配布するとともに、「学生生活の手引」をもとに「附属図書館の利用方法」の説明を行った。14 年度の利用は、入館者数 53 名、貸出冊数 6 冊であった。

・評価・問題点・課題

大学の公開講座への取組みにあわせ、図書館のサービスも検討していく必要がある。

(2) 地域社会との交流

ア 「大学情報発信プラザ」の活動とボランティア導入

・今までの状況と問題点・課題

埼玉大学開学 50 周年の記念事業の一環として、「地域と大学の情報交流プラザ」を附属図書館 1 号館 3 階に、平成 11 年 11 月 26 日に開設した。学内の利用者に埼玉県立図書館や博物館などの資料や情報を提供するとともに、地域の人々に対し埼玉大学の歴史、学術研究に関する資料及び情報の提供を行う双方向の情報交流の場とすることを目的とした。

開室に先だって、研究者データの公開及び学内資料・地域資料の所蔵に関する調査を行い、「埼玉大学教育研究情報システム」を作成し、公開した。開室時に、埼玉大学関係資料 700 点、地域資料 230 点を収集・展示した。附属図書館所蔵のグーテンベルク 42 行聖書、死者の書、死海写本の複製を常設展示している。また、新規収集資料の整理、埼玉大関係新聞記事スクラップ作成等を随時行っている。プラザにおける利用者支援、資料の収集・整理、広報等の活動は地域のボランティアの協力を得て行った。

平成 12 年 4 月より 3 名の地域ボランティアにより、週 3 日(1 日 3 時間)開室した。平成 12 年 4 月から平成 13 年 3 月までの 1 年間の利用人数は 118 人(開室日数:135 日)であった。

平成 13 年 3 月に、ボランティアと館長を交えた懇談会を行った。

教育学部の授業公開及びむつめ祭期間にあわせてプラザも開室した。むつめ祭時 3 日間の利用人数は、47 人であった。

平成 12 年 6 月の第 47 回国立大学図書館協議会総会の研究集会において、「大学情報公開と地域連携への取組み」と題して、プラザについて発表を行った。

『大学図書館研究』60 号(2001.8)に「埼玉大学附属図書館における大学情報公開と地域連携への取り組み」と題して、プラザについての紹介記事を投稿した。

平成 13 年度は 7 名のボランティアで、月～金の 5 日間開室(月と金是一日、火、水、木は半日)。平成 13 年 4 月から平成 14 年 1 月までの利用人数は 272 人(開室日数:188 日)であった。

むつめ祭時 3 日間の利用人数は、128 人であった。

埼玉大学 21 世紀総合研究機構の発足に伴い、その事業部門の一つとして、本学の情報発信により重点を置いた「大学情報発信プラザ」と名称を改め、平成 14 年度に 21

世紀総合研究機構棟へ移設し、活動を行っている。

・平成 14、15 年度の実績

平成 14 年度は 4 名のボランティアで、月～金の 4 日間開室(月、水、木、金の半日)、平成 14 年 4 月から平成 15 年 3 月までの利用人数は 321 人(開室日数：164 日)であった。

平成 15 年度は 3 名のボランティアで、月～金の 3 日間開室(月、水、金の半日)、平成 15 年 4 月から平成 15 年 9 月までの利用人数は 146 人(開室日数：70 日)であった。

・評価・問題点・課題

新規学内資料の収集が十分ではないので、学内資料に関する情報を常にチェックし網羅的な収集を目指す必要がある。また、そのためにも、様々な機会を通じて大学情報発信プラザの活動を学内に対して周知することも必要と思われる。

地域資料情報の収集資料の対象機関、対象資料を拡大する必要がある。ただし、どのような資料・どのような機関まで含めるか、市町村レベルの図書館・博物館等まで対象にするかどうかは今後検討するべきである。新しい資料の収集、機関情報の更新を、迅速・確実に行うための方法を検討したり、県内の機関を案内するホームページもよりわかりやすくしたりする必要がある。

ボランティアの活動内容をプラザの資料収集や広報などにも拡大するとともに、募集を積極的に行い、もっと人数をふやしてプラザの開室時間を長くすること、ボランティア同士や、ボランティアと図書館職員の意見交換の機会も作ること、公開講座などの開催により、プラザに対する関心を掘り起こすことなどが課題である。

イ さいたま市中学生社会体験チャレンジ事業への協力

・今までの状況と問題点・課題

埼玉県では、中学生が地域の中での様々な社会体験活動をとおして、多くの人々とふれあい、学校で得られない経験を積むことで、豊かな感性や社会性、自律心を養い、たくましく豊かに生きる力をはぐくむことをねらいとする「中学生社会体験チャレンジ事業～5つのふれあい3daysチャレンジ～」を展開している。平成 12 年度は、県内全公立中学校の 3 分の 1 にあたる 141 校を、平成 12 年度は 3 分の 2 にあたる 280 校を対象としている。平成 12 年度、浦和市では市立中学校 6 校を「中学生社会体験チャレンジ事業」のモデル校に指定し、事業実施期間を 11 月 20～22 日の 3 日間とした。

附属図書館では、浦和市立岸中学校の 2 年生 2 名及び浦和市立大久保中学校の 1 年生 5 名を受け入れた。体験内容としては、外国雑誌の仕分け、図書の配架、カウンター

での貸出・返却等の作業を行った。21日の入館者調査の実施にあたっては、調査票の配付や集計等の作業も行った。

平成13年度はさいたま市となったが、平成12年度と同じく岸中学校の2年生2名及び大久保中学校の1年生5名を受け入れた。岸中学校は10月31日から11月2日まで、大久保中学校は11月19日から11月21日までのそれぞれ3日間で、3日間のうち1日を事務局で分担し、残りの2日間を附属図書館で分担した。体験内容としては、外国雑誌の仕分け、図書の配架、カウンターでの貸出・返却等の作業を実施した。

・平成14、15年度の実績

平成14年度は岸中学校の2年生2名、大久保中学校の1年生7名及び上大久保中学校の2年生6名を受け入れた。岸中学校は7月2日から7月4日まで、大久保中学校は11月20日から11月22日まで、上大久保中学校は平成15年2月3日から2月5日のそれぞれ3日間で、3日間のうち半日を事務局で分担し、残りの2.5日間を附属図書館で分担した。体験内容としては、外国雑誌の仕分け、図書の配架、カウンターでの貸出・返却等の作業を実施した。

平成15年度は上大久保中学校の2年生6名及び大久保中学校の1年生5名を受け入れた。上大久保中学校は6月16日から6月18日まで、大久保中学校は11月11日から11月13日までのそれぞれ3日間で、3日間のうち半日を事務局で分担し、残りの2.5日間を附属図書館で分担した。体験内容としては、外国雑誌の仕分け、図書の配架、カウンターでの貸出・返却等の作業を実施した。

・評価・問題点・課題

参加した中学生の感想は概ね非常にためになったというものが多い。全学的な見地から、引き続きこの事業への協力を行う必要がある。これまでの実施内容を再検討、評価するとともに、受入れ希望校が増加した場合の対応等も検討しておく必要がある。

6 その他

(1) 21世紀総合研究機構への参加

平成13年10月1日に発足した、「埼玉大学21世紀総合研究機構」の事業部門として、「大学情報発信プラザ」ほかを申請し、承認された。機構棟1階に公開スペース「大学情報発信プラザ」と関連するボランティア室、プラザ資料室、学術資料調査研究室、学術資料室、プロジェクト作業室及び埋蔵文化財資料室が配置されている。本事業部門は、以下の3つのプロジェクトからなり、いずれも今まで附属図書館において行われていた事業を核に発展させたものである。

ア 大学情報発信プラザ

附属図書館3階「地域と大学の情報交流プラザ」の事業を引き継いで、運営をボランティアの方々の協力により行っている。学内刊行物の収集及び本学50周年記念事業で収集した当時の写真等を保管展示している。

イ 学術資料調査研究室

旧制浦和高等学校等の旧蔵資料、本学50年史編纂収集資料や、今後生産される本学の研究・教育関係資料、本学に関係する文書・報道・雑誌・パンフレット・メディアなどの資料を収集し、公開することを計画している。対象資料や具体的な方法については、今後検討する必要がある。

本村遺跡発掘資料を集中的に収集・保存し、本学周辺地域を中心とした歴史的・文化的研究の基礎的資料として収集を行っている。また、定期的に研究成果を展示公開している。

ウ 電子図書館プロジェクト

学術資料の電子化を中心に、電子図書館的機能をもつ新たな図書館サービスの展開のために必要な、調査・研究・開発・試行を行うことを計画している。

第1期として、平成12年度に寄贈された「生産原論文庫」を核とした「生産原論ITデータベース」の開発を行うことを計画している。平成15年度に学長裁量経費の措置を受け、寄贈資料のうちの一部の画像データ化を進めている。「生産原論」に関わるホームページとのリンク及び運用などにも関わっていくことを検討する必要がある。

終わりに

本報告書は、平成 14、15 年度の附属図書館の業務・機能そしてその基盤に関する自己点検・評価の結果をまとめたものである。以下に総括的に結びを記すこととする。

本附属図書館の目的は、附属図書館規程によれば、1 教育研究に関する資料の収集・管理と提供、2 学術情報の処理・提供システムの整備、3 他大学図書館等との協力による学術情報の相互提供を通じて学内外における教育研究の発展に寄与することとされている。本報告書は、この目的を念頭に置きながら、図書館機能の変化・発展に伴う、特に「電子図書館的機能」の充実の必要性や、近年大学および附属図書館が強く求められている社会的な貢献のあり方等を加味し、6 つの項目を立てて作成されている。

サービス事業は、図書館の根幹をなすものである。本図書館では、資料の検索や情報提供のための端末機器の増設等によるサービスの充実に努めて来た。今後は、資料・情報の利用法、利用技術に関する支援を他の機関とも連携して、ニーズに応えた迅速・的確で誠実なサービスをさらに進めていく必要があると考えている。その一環として本図書館では情報リテラシーの育成に取り組んでおり、本年度は全学の 1 年次を対象とする情報関係の共通教育「情報基礎」へ授業参加し、大変好評を得た。図書館が大学の中で教育及び研究の中心的機関としての機能を果たすためには、このような働きかけを積極的に行い利用を促すことが必要であろう。電子図書館的機能と関連して、電子ジャーナルの利用支援は本図書館の重要な機能である。本年度も「情報基礎」や利用ガイダンス等を通じて利用者支援を行った結果、電子ジャーナルへの関心が高まっている。ところで、本大学の留学生は約 450 名に達し、全学生の約 5% を占めるにいたった。本図書館では、資料選定委員会委員として、留学生センター教官に参加してもらい図書資料の充実をはかるとともに、海外衛星放送受信設備を設置した「海外情報の広場」を設置した。本大学にとって国際的な学術・教育交流は今後益々重要であり、本図書館も留学生にたいする研究・教育支援のために、資料の充実、利用方法の改善に努めたい。以上のような努力にもかかわらず、今回実施したアンケートにおいて図書館員のサービスに対する不満が比率として高かったことは残念であった。アンケートの内容を真摯に受け止めて今後サービスの改善に努めていきたい。

附属図書館の全蔵書数は、約 75 万冊であるが、その内、相当数は各部局の研究室等に保管されている。図書館保管の図書資料を学生のニーズに合ったきめ細かい内容にするために、本年度に図書館資料選定委員会を設置し大きな成果をあげることができた。一方、かつて平成 11 年度の「埼玉大学自己点検・評価報告書」の中でも指摘されている「同規模大学との比較」上の資料の不十分さは現在も課題として残されており、今回実施した利用アンケートにおいても「蔵書が少ない」「利用したい本を揃えてほしい」という強い要望が出されている。本図書館では、図書資料購入経費の確保に努力しながら、教官、学生の共同利用をすすめるため、資料の集中化を継続的におこない、そのた

めの書庫内における資料の配置・配架の見直しを行っている。あわせて、アンケートで「研究室にある図書が利用しづらい」との意見が出されているように、研究室備付け図書の共同利用を促進する必要がある、そのため資料の集中化を図書館組織としてすすめるべく、各学部研究室備付け資料を各学部ごとにまとめて保管・管理・提供する「分室」構想を、法人化後の中期目標・中期計画に盛り込んだ。また、資料としての電子ジャーナルとその利用は、電子図書館的機能の充実のための基礎である。平成13年度以降、図書館委員会及び電子ジャーナル検討委員会において、利用電子ジャーナル誌及び利用経費確保・負担の方法についてさまざまな検討を重ねてきた結果、全学的視点から共通経費等の方式を追求する必要があるとの結論に達した。図書館として強く主張したいことは、電子ジャーナルがこれからの競争的環境の中での研究における必須の材料であり、学術研究の基盤的資料であること、これの整備充実が魅力ある研究・教育環境としての大学のために必要不可欠であること、この2点を学内の共通認識してもらい、そのための安定的経費確保の方式を全学規模で確立していただきたいことである。

大学図書館は、電子図書館的機能の充実によって、図書館事業の質と内容を飛躍的に拡大しつつあり、その方向はIT、情報システムの発展に伴って社会的にも強く要請されているところである。本図書館でも、これまでの電子図書館的機能を深めるために、21世紀総合研究機構の中に「電子図書館プロジェクト」を設け、「生産原論文庫」データベースを始めとする本図書館の資料・学術情報の処理・発信提供を行うための準備を進めている。

近年とりわけ強く求められている社会的な貢献については、学外者への図書館利用サービスを継続的に行ってきたが、本年度から図書館にある図書の貸出サービスも開始した。また、大学の公開講座に参加する高校生へのガイダンス、中学生の社会体験事業への協力、ボランティアによる「大学情報発信プラザ」の活動等、全学の事業の一環として事業をすすめた。特に「大学情報発信プラザ」のボランティアによる運営は、大学と地域市民との交流という点で大きな意味をもったと考えている。一方、今後の課題として、公共図書館との連携等を通じたサービスの充実等が残されている。

以上のような本図書館の事業、機能の自己点検・評価の特質の他に、図書館の役割を効果的に果たしていくための建物、施設の問題がある。総じて1号館の建物と施設の老朽化および全体の狭隘化が深刻であり、資料の集中化と資料収容能力の確保、閲覧席数の増設、学習・研究スペース、アメニティ空間の確保等により、利用者の多様なニーズに応えるため、学問的・文化的雰囲気を持った図書館としての環境整備が大きな課題である。そのため、今後も継続的に増改築を要求する必要がある。

本年4月より、埼玉大学は国立大学法人として新たな一步を踏み出す。図書館においても、事務部の大幅な再編成、館長の理事兼任、運営委員会の発足、情報センターとの関係など進行する大学改革の中で、ここに述べた多くの課題に取り組み、新しいニーズに答えられる充実した図書館を構築するために今後さらに一層の努力が必要となろう。

業 務 統 計 (平成 10～14 年度)

施設・設備

(1) 施設

区分	延面積	用途別内訳				付帯設備
		書庫	閲覧室	事務室	その他	
1号館	4,196 m ²	1,210 m ²	1,152 m ²	541 m ²	1,293 m ²	エレベータ (2基) リフト(1基)
2号館	2,639	944	1,090	475	130	
合計	6,835	2,154	2,242	1,016	1,423	空調設備

(2) 設備

書架

区分	棚板延長	収容可能冊数
1号館	8,183m	204,575冊
2号館	21,021	606,647
合計	29,204	811,222

閲覧席

区分	閲覧席数
1号館 参考図書室 第3閲覧室 自由閲覧室 海外情報の広場	84席 138 222 12
2号館 第1閲覧室 第2閲覧室	100 80
合計	634

学生数と附属図書館閲覧室座席数

年度	学生数	座席数	基準座席数	備考
43	4,446	148	445	
44	4,340	420	434	1号館新築
45	4,691	420	469	
46	4,786	420	479	
47	4,974	420	497	
48	5,092	420	509	
49	5,255	420	526	
50	5,480	420	548	
51	5,668	420	567	
52	5,805	504	581	
53	5,951	504	595	
54	5,981	521	598	
55	6,139	645	614	2号館増築
56	6,215	580*	622	
57	6,392	580	639	
58	6,413	584	641	
59	6,453	584	645	
60	6,552	584	565	
61	6,680	584	668	
62	6,830	584	683	
63	6,932	584	693	
元	7,022	584	702	
2	7,147	584	714	
3	7,323	584	732	
4	7,580	584	758	
5	7,812	584	781	
6	8,222	584	822	
7	8,469	584	847	
8	8,753	604	875	
9	8,789	604	879	
10	8,736	604	874	
11	8,444	604	844	
12	8,422	612**	842	
13	8,445	612	845	
14	8,334	612	833	
15	8,355	634	835	

・学生数は『埼玉大学五十年史』による。ただし、11年度～13年度は『埼玉大学概要』による。

・座席数は『大学図書館実態調査』による。

* 昭和56年度『大学図書館実態調査』に「計画変更により減少」との注記あり。

** 「地域と大学の情報交流プラザ」の12席を含む。

蔵書（平成15年3月31日現在）

(1) 図書

区 分	冊 数
和 書	497,051
洋 書	254,813
合 計	751,864

(2) 雑誌

区 分	種 類 数
和 雑 誌	13,165
洋 雑 誌	4,779
合 計	17,944

(3) AV (Audio Visual) 資料、電子的資料

区 分	タイトル数
マイクロフィルム	85
マイクロフィッシュ	6
ビデオテープ	417
レーザーディスク	442
DVD	242
CD-ROM	178
電子ブック	13
合 計	1,013

分野別蔵書構成

区 分	和 書	洋 書	合 計
総 記	48,213	12,584	60,797
哲 学	26,799	20,235	47,034
歴 史	54,528	11,858	66,386
社会科学	145,387	63,008	208,395
自然科学	62,408	78,267	140,675
工 学	39,575	16,873	56,448
産 業	22,238	4,853	27,091
芸 術	26,346	7,495	33,841
語 学	19,014	10,904	29,918
文 学	52,543	28,736	81,279
合 計	497,051	254,813	751,864

受入状況

(1) 図書

区分	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14
	冊	冊	冊	冊	冊
和書	9,040	9,416	9,463	12,156	14,337
洋書	5,154	4,248	4,083	3,744	5,735
合計	14,194	13,664	13,546	15,900	20,072

(2) 雑誌

区分	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14
	種	種	種	種	種
和雑誌	3,730	3,773	3,697	2,524	3,617
洋雑誌	1,735	1,760	1,748	2,572	1,345
合計	5,465	5,533	5,445	5,096	4,962

利用状況

(1) 利用対象者数

区分	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14
	人	人	人	人	人
学生	7,675	7,466	7,404	7,355	7,361
院生	1,134	961	1,004	1,090	973
留学生	397	423	452	442	458
教職員	766	747	753	761	744
合計	9,972	9,597	9,613	9,648	9,536

(2) 開館日数及び入館者数

区 分	平成 1 0	平成 1 1	平成 1 2	平成 1 3	平成 1 4
開館日数	299 日	289 日	292 日	292 日	299 日
入館者数	392,801 人	460,771 人	466,460 人	418,132 人	382,368 人

(3) 館外貸出数

区 分		平成 1 0	平成 1 1	平成 1 2	平成 1 3	平成 1 4
学 生 数	人 数	37,412 人	37,390 人	37,476 人	35,805 人	34,441 人
	冊 数	71,899 冊	70,376 冊	70,546 冊	69,122 冊	64,271 冊
教 職 員	人 数	677 人	730 人	851 人	899 人	994 人
	冊 数	1,601 冊	1,680 冊	1,846 冊	2,033 冊	2,326 冊
合 計	人 数	38,089 人	38,120 人	38,327 人	36,704 人	35,435 人
	冊 数	73,500 冊	72,056 冊	72,392 冊	71,155 冊	66,597 冊

(4) 研究室図書

区 分	平成 1 0	平成 1 1	平成 1 2	平成 1 3	平成 1 4
備え付け	6,961	5,832	5,643	8,754	6,323
返 却	7,826	10,477	4,620	6,016	7,460

(5) 参考質問件数

区 分	平成 1 0	平成 1 1	平成 1 2	平成 1 3	平成 1 4
	件	件	件	件	件
所蔵調査	4,787	1,595	1,752	4,927	7,313
事項調査	169	235	350	490	947
利用指導	2,104	2,705	3,504	3,796	1,036
合 計	7,060	4,535	5,606	9,213	9,296

(6) 図書館間相互利用 (ILL)

区 分		平成 1 0	平成 1 1	平成 1 2	平成 1 3	平成 1 4
		冊	冊	冊	冊	冊
相 互 貸 借	受 付	393	450	652	729	894
	貸 出	244	297	510	458	509
	謝 絶	149	153	142	271	385
	借 入	438	459	649	435	385
文 献 複 写	受 付	2,127	2,270	2,324	2,654	3,089
	実 施	1,845	1,976	2,090	2,182	2,393
	謝 絶	282	294	234	472	696
	依 頼	3,779	3,980	3,619	4,158	3,004

(7) AV (Audio Visual) 資料、CD-ROM 利用件数

区 分	平成 1 0	平成 1 1	平成 1 2	平成 1 3	平成 1 4
	件	件	件	件	件
レーザーディスク	2,843	1,763	1,168	770	458
ビデオ		426	307	205	192
DVD					565
CD(ネットワーク)		10,843	14,108	2,976	10,355
CD(スタンドアロン)	337	163	82	87	120

情報リテラシー教育支援活動等の実施状況（平成 15 年度）

1. 授業参加

(1) 目的

平成 14 年度から開設された「知的探求への扉」に継続参加し、大学での学習における図書館の使い方を、知的探求の意義、図書館の歴史等を交えて説明した。

また、新入生向け情報リテラシー教育として共通教育カリキュラムに設定されている「情報基礎」に参加し、オリエンテーションにおいて資料を探す方法として紹介した OPAC、データベース及び電子ジャーナルについて、より詳細な説明及び端末実習を行うことによって、体験的に知識を得てもらうとともに、図書館利用の促進を図った。

(2) 「情報基礎」の内容

内 容	備 考
1. 情報・情報ニーズ・情報探索 2. Web による情報探索 3. 学術情報のサイクル 4. 文献検索とは 5. 附属図書館のホームページ 6. 埼玉大学 OPAC (実習) 7. 他機関の OPAC NACSIS-Webcat (実習), 国立国会図書館 8. データベース オンラインデータベース, CD-ROM データベース 9. 電子ジャーナル 学内で利用できる海外, 国内の電子ジャーナル 10. 文献検索と入手 11. 図書館資料と著作権	実習には担当教員 及び教員補助者と 協同で当たる

(3) 日程

日 時	授業名 (対象)	場 所	参加人数	備 考
4 月 11, 18 日 8:40 ~ 10:10	「知的探求への扉」 知的探求と大学図書館 (1) 情報と知的探求 (2) 探求の道具としての図書館	共 通 教 育 棟 C302	78 名	
4 月 17 ~ 22 日 5 月 8, 9 日 10:20 ~ 11:50	経済学部プレゼミ 情報検索講習会	経済学部 情報教育教室	合計 6 回 280 名	必修科目
4 月 22 日 8:40 ~ 10:10	情報基礎 - 文献検索入門 - (工学部 建設)	総合情報処理 センター教育 実習室 3・4	85 名	3 年目
4 月 28 日 10:20 ~ 11:50 14:20 ~ 15:50	情報基礎 - 文献検索入門 - (教育学部 数・英) (教育学部 音・生涯)	共通研究棟 情報教育室	130 名	
4 月 30 日 14:20 ~ 15:50	情報基礎 - 文献検索入門 - (教育学部 国)	共通研究棟 情報教育室	55 名	
5 月 1 日 8:40 ~ 10:10	情報基礎 - 文献検索入門 - (工学部 機械)	総合情報処理 センター教育 実習室 3・4	105 名	
5 月 1, 2 日 10:20 ~ 11:50	情報基礎 - 文献検索入門 - (理学部 物理, 基化)	共通研究棟 情報教育室	91 名	
5 月 7 日 18:00 ~ 19:30	情報基礎 - 文献検索入門 - (経済学部夜間主)	共通研究棟 情報教育室	60 名	

5月13日 10:20～11:50 12:40～14:10 14:20～15:50	情報基礎 - 文献検索入門 - (教養学部)	共通研究棟 情報教育室	180名	
6月3日 14:20～15:50	情報基礎 - 文献検索入門 - (工学部 情報)	情報科棟 3F 端末演習室	70名	
6月27日 14:20～15:50	情報基礎 - 文献検索入門 - (工学部 電気電子)	電気電子科棟 41番講義室	95名	
前期計			1151名	
10月16日 14:20～15:50	情報基礎 - 文献検索入門 - (工学部 応用化学)	総合情報処理 センター教育 実習室 3・4	75名	
10月22日 12:40～14:10 14:20～15:50	情報基礎 - 文献検索入門 - (教育学部 社会) (教育学部 保健・家政)	共通研究棟 情報教育室	100名	
11月6日 10:20～11:50 12:40～14:10	情報基礎 - 文献検索入門 - (理学部 数学) (理学部 分子生物)	共通研究棟 情報教育室	86名	
11月7日 10:20～11:50	情報基礎 - 文献検索入門 - (理学部 生体制御)	共通研究棟 情報教育室	42名	
11月10日 10:20～11:50 14:20～15:50	情報基礎 - 文献検索入門 - (教育学部 総教・人間) (教育学部 美・障・生涯 etc)	共通研究棟 情報教育室	118名	
11月11日 12:40～14:10 14:20～15:50	情報基礎 - 文献検索入門 - (教育学部 理科・技術) (教育学部 臨床・教心・幼)	共通研究棟 情報教育室	120名	
11月11日 18:00～19:30	情報基礎 - 文献検索入門 - (工学部 機能材料)	共通研究棟 情報教育室	55名	
後期計			596名	
合計			1747名	

2. 新入生向けオリエンテーション

(1) 目的

図書館の概要紹介，利用方法の説明及び館内見学を行うことによって，図書館についての初歩的な知識を得てもらおうとともに，図書館利用の促進を図る。

(2) 内容

事項	内容	時間	備考
概要	(1) 図書館とは(学術情報の窓口 , 教育研究支援) (2) 授業とのつながり (シラバス掲載図書) (3) 教養の場 (情報端末 , AV ブース , 衛星放送)	5分	
利用方法	(1) 利用にあたって (開館時間 , マナー) (2) 資料の探し方 (OPAC , カード目録) (3) オンライン情報源 (電子ジャーナル , DB) (4) 閲覧 (閲覧室 , 資料の配置 , 書架の見方) (5) 貸出 (手続き , 返却 , 督促) (6) 文献複写 (館内 , 学外依頼 , 著作権)	35分	
館内見学	3F 2Fロビー カウンター前 参考図書室 第1閲覧室 雑誌室 第2閲覧室 第3閲覧室	20分	希望者のみ 多数の場合 , 班編成

(3) 日程

日 時		対象及び場所	参加人数	備 考
4月8日(火)	16:30~17:30 17:30~18:30	大学院経済科学研究科 (経済学部)	50名	サテライトキャン パス利用者主体
4月9日(水)	13:30~14:30 15:00~16:00 16:30~17:30	全学 (附属図書館 3F 自由閲覧室)	920名	9日は学部生優先 10日18:00~は経 済学部夜間主コー ス向け
4月10日(木)	9:30~10:30 15:00~16:00 16:30~17:30 18:00~19:00			
4月11日(金)	13:30~14:30 15:00~16:00 16:30~17:30			
4月14日(月)	9:30~10:30 16:30~17:30			
4月15日(火)	13:30~14:30 15:00~16:00 16:30~17:30			
4月16日(水)	9:30~10:30 16:30~17:30			
4月24日(木)	16:30~17:30			

3. テーマ別オリエンテーション

日 時	オリエンテーション名	場 所	参加人数	備 考
5月22日 13:30~14:50 15:00~16:30	データベース講習会 Academic Search Elite 有価証券報告書	附属図書館 2F 端末コーナー	35名	院生, 教職 員対象 各社の担当 者が説明
10月28日 16:30~17:30	留学生オリエンテーション	附属図書館 3F 会議室	18名	留学生, 日 本 語 研 修 生, 大学院 留学生対象
11月27日 12:40~14:10	卒論・修論準備: 文献検索 基 礎編 - 検索資料の使い方と実習 -	総合情報処理 センター3F 教 育実習室 3	35名	学部3・4年 生, 院生対 象
12月10日 14:20~15:50	卒論・修論準備: 文献検索 応 用編 - 検索資料の使い方と実習 -	総合情報処理 センター3F 教 育実習室 3	28名	主に学部 3・4年生, 院生対象
2月19日 13:00~15:30	市民のための情報講座 家庭でできる本や資料の探 しかた	総合情報処理 センター3F 教 育実習室 3	6名	さいたま市 近郊在住者

日 誌 (平成15年度)

- 4月 8日 オリエンテーション (経済科学研究科)
9-16日 オリエンテーション (学部生、院生)
23日 埼玉県大学・短大図書館協議会14年度第4回幹事会 (東洋大)
24日 第59回関東地区国立大学図書館協議会総会 (山梨大)
24日 オリエンテーション (留学生)
- 5月 27日 15年度第1回図書館委員会
28日 15年度国立大学附属図書館事務部課長会議 (東京医科歯科大)
30日 15年度埼玉県図書館協会理事会 (埼玉会館)
- 6月 4日 15年度埼玉県大学・短大図書館協議会総会
5日 新任教官説明会
9日 15年度第1回図書館資料選定委員会
13日 第16回埼玉県図書館協会総会 (埼玉教育会館)
25-26日 国立大学図書館協議会第50回記念総会
- 7月 17日 埼玉県大学・短大図書館協議会第1回幹事会 (東洋大)
- 8月 6-7日 種図書館学受験者説明会
- 9月 24日 大学見学会
25日 15年度埼玉県図書館協会常任理事会 (埼玉会館)
26日 大学説明会
30日 図書館見学 (東農大三高)
- 10月 3日 埼玉県大学・短大図書館協議会第2回幹事会 (東洋大)
23-24日 第37回関東地区国立大学図書館職員研修会
28日 オリエンテーション (留学生)
- 11月 5日 15年度第2回図書館資料選定委員会
6日 埼玉県大学・短大図書館協議会第15回実務担当者研修会 (跡見女大)
12日 第36回関東地区国立大学図書館事務部課長会議 (宇都宮大)
- 12月 2日 電子ジャーナルの取扱いに関する担当者会議 (NII)
3日 15年度第1回附属図書館自己評価等実施委員会
3日 15年度第2回図書館委員会
22日 衛生推進者講習会
- 1月 9日 館長懇談会 (東大)
22日 15年度国立大学附属図書館事務部長会議 (富山大)
- 2月 3日 15年度第3回図書館委員会
19日 市民のための情報講座
16日 第1回事務長懇談会
- 3月 1日 第2回事務長懇談会
10日 15年度第2回附属図書館自己評価等実施委員会
19日 15年度第4回図書館委員会

埼玉大学附属図書館自己評価等実施委員会内規

(設置)

第1条 埼玉大学自己評価等実施委員会規程第7条に基づき、埼玉大学附属図書館(以下「図書館」という。)に、埼玉大学附属図書館自己評価等実施委員会(以下「委員会」という。)をおく。

(任務)

第2条 委員会は、図書館の自己点検・評価を円滑に実施するため、次の各号に掲げる事項を行う。

- (1) 点検項目の設定に関すること。
- (2) 実施計画に関すること。
- (3) 実施に関すること。
- (4) 報告に関すること
- (5) その他

2 委員会は、実施結果について図書館委員会の議を経て公開することができる。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 館長
- (2) 図書館委員の中から5名
- (3) 図書館の事務部長、課長及び専門員

2 前項第2号に掲げる委員は館長が委嘱し、任期は1年とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、委員長は館長をもって充てる。

2 委員長は委員会を召集し、議長となる。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名する委員、または委員会が選出する委員がその職務を代行する。

(会議)

第5条 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。

(委員以外の出席)

第6条 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、説明または意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は情報管理課総務係において処理する。

附 則

この内規は、平成5年4月 1日から施行する。

附 則

この内規は、平成9年4月 1日から施行する。

附 則

この内規は、平成13年7月18日から施行する。

平成 15 年度埼玉大学附属図書館自己評価等 実 施 委 員 会 名 簿

(1 6 年 3 月 現 在)

議 長	学 部 名	職 名	氏 名
	館 長	教 授	檜 山 哲 夫
	教養学部	教 授	高 山 巖
	教育学部	助教授	戸 田 功
	経済学部	教 授	岩 見 良太郎
	理 学 部	助教授	紺 谷 浩
	工 学 部	教 授	三 島 健 稔
	附属図書館	事務部長	長 津 俊
	"	情報管理課長	猪 瀬 一 夫
	"	情報サービス課長	酒 井 清 彦
	"	専 門 員	永 井 康 友

「埼玉大学附属図書館利用に関するアンケート」について

1. 目的

本学図書館では、平成7年度に学生を対象とする利用アンケートを実施した後、平成12年度に入館者調査を行い利用実態の把握は行ったが、利用者の意識調査は行ってこなかった。

平成16年4月からの国立大学法人化を控え、これからの図書館サービスのあり方、図書館の進むべき方向などを検討決定していく際の参考資料とするため、図書館の利用に関する学生・教職員・学外利用者の生の声を収集することを第一の目的として、今回のアンケート調査を実施した。

また、平成7年当時と現在とでは、ネットワーク環境など技術面で大きな状況の違いが見られるので、そのような学習環境の変化に伴い、学生の図書館に対する意識がどのように変化してきているかを把握し、今後の学習・教育・研究の支援に役立てることも目的とした。

2. 実施時期

平成15年12月9日(火)から12月24日(水)

3. 実施方法

- (1) 来館者に対するアンケート用紙の配布・回収
- (2) 各講義でのアンケート用紙の配布・回収
- (3) 教職員に対するアンケート用紙の配布・回収

4. 実施結果

(1) 回収状況

配布総数 5,825 (各講義 4,088, 来館者 800, 教職員 937)

回収総数 1,804 (各講義 1,118, 来館者 362, 教職員 324) 回収率 31.0%

学部別回収率

教養学部 17.5% 教育学部 15.4% 経済学部 14.5% 理学部 32.2% 工学部 19.8%

(2) 集計結果

各質問項目の回答を単純集計し、グラフに実数を明記した。

回答選択肢によっては、具体的な理由や事項を記述させるものがある。これらについては同内容のものを取りまとめ、共通的な記述で表記した。一つの回答で複数事項を記述しているものはそれぞれに仕分けして表記した。末尾に付したカッコつき数字は意見の数を表している。

埼玉大学附属図書館利用に関するアンケート

皆さんが日頃お使いになっている埼玉大学附属図書館について、いくつか質問をさせていただきます。該当するそれぞれの項目に○印を付け、必要な箇所に記入してください。また、ご要望・ご意見も併せて記入してください。回答できない質問についてはそのままでも結構です。

皆さんの埼玉大学附属図書館をより良くしていくために、是非ともご協力ください。

I. 回答いただくあなたについておたずねします。

1. あなたの所属はどれですか。

- (1) 教養学部 (2) 教育学部 (3) 経済学部 (4) 理学部 (5) 工学部 (6) 大学院文化科学研究科
(7) 大学院教育科学研究科 (8) 大学院経済科学研究科 (9) 大学院理工学研究科 (10) 留学生センター
(12) 事務局等 (13) 他の大学・短期大学 (14) 他の国公立試験研究機関 (15) 民間試験研究機関
(16) その他

2. あなたの身分はどれですか。

- (1) 学部 1 年次 (2) 学部 2 年次 (3) 学部 3 年次 (4) 学部 4 年次以上 (5) 大学院修士 1 年次
(6) 大学院修士 2 年次以上 (7) 大学院博士 1 年次 (8) 大学院博士 2 年次以上 (9) 科目等履修生
(10) 専攻科生 (11) 教員 (12) 職員 (13) 研究生 (14) 日本語研修生 (15) その他

3. あなたは外国人留学生ですか。

- (1) 国費留学生 (2) 私費留学生 (3) 留学生ではない

4. 本学入学時に図書館オリエンテーションに参加しましたか。(本学学生(研究生等を含む)のみ。)

- (1) 参加した (2) 参加しなかった

II. 利用の実態についておたずねします。

1. 平日には図書館をどれくらいの頻度で利用していますか。

- (1) ほぼ毎日 (2) 週に 2~3 回以上 (3) 週に 1 回程度 (4) 月に 1~2 回程度
(5) 試験期・レポート作成時期のみ (6) 年に数回程度 (7) 今回初めて (8) 利用したことがない

2. 休日(土日祝日)には図書館をどれくらいの頻度で利用していますか。

- (1) ほぼ毎回 (2) 週に 1 回程度 (3) 月に 1~2 回程度 (4) 試験期・レポート作成時期のみ
(5) 年に数回程度 (6) 今回初めて (7) 利用したことがない

3. 一番多く利用する時間帯はどれですか。

- (1) 午前 (2) 午後(18時まで) (3) 夜間(18時以降)

4. 図書館にいる時間は平均してどれくらいですか。

- (1) 30 分以下 (2) 30 分から 1 時間程度 (3) 1~3 時間程度 (4) 3 時間以上

5. 図書館を利用する目的は何ですか。多いもの 3 つを選んでください。

- (1) 事項の調査 (2) 館内での読書 (3) 図書の借出し (4) ビデオ等の視聴 (5) インターネットの利用
(6) 文献複写の依頼 (7) 座席のみの利用 (8) その他(具体的に)

6. 図書館を利用して目的は達成されることが多いですか。

- (1) 達成されることが多い (2) まあまあ達成される (3) ほとんど達成されなかった

7. 図書館の中でいつも利用する場所はどこですか。多いものから順に書いてください。

- (1) 第1 閲覧室(2 階) (2) 第2 閲覧室(3 階) (3) 第3 閲覧室(3 階) (4) 参考図書室 (5) 情報端末コーナー
(6) 新着雑誌コーナー (7) 雑誌室(1 階) (8) 雑誌室(2階) (9) 雑誌室(3 階) (10) 書庫 (11) AV 視聴コーナー
(12) 新聞コーナー (13) 自由閲覧室 (14) 海外情報の広場

--	--	--	--	--

8. 図書館の中でいつも利用する資料は何ですか。多いものから順に書いてください。

- (1) 2, 3 階の閲覧室にある図書 (2) 参考図書 (3) 新着雑誌(1 年以内の雑誌) (4) 新着図書 (5) シラバス掲載図書 (6) 留学生用図書 (7) 教官寄贈図書 (8) 雑誌室の雑誌 (9) 書庫内図書 (10) AV 資料 (11) 新聞

--	--	--	--	--

9. 1.で5~8 及び2.で4~7 と答えた方へ質問です。図書館を利用しない理由は何ですか。(複数回答可です。)

- (1) 利用しなくても差し支えない (2) 利用したい図書・雑誌がない (3) 座席が空いていない
(4) 利用したい時間に開いていない (5) 他の図書館を利用する (6) インターネットの検索で用が済む
(7) 必要な図書・雑誌は自分で購入する (8) その他(具体的に)

III. 本学附属図書館で提供している資料についておたずねします。

1-1. 第1 閲覧室と第2 閲覧室の図書(約8 万冊)を利用したことがありますか。 (1) ある (2) ない

1-2. これらの図書についてどう思いますか。

- (1) 満足 (2) だいたい満足 (3) 不満(理由:具体的に)

2-1. シラバス掲載図書を利用したことがありますか。 (1) ある (2) ない

2-2. シラバス掲載図書は共同で利用するため貸出禁止としています。これについてどう思いますか。

- (1) 適当 (2) 不適當(理由:) (3) わからない

2-3. シラバス掲載図書についてどう思いますか。

- (1) 満足 (2) だいたい満足 (3) 不満(理由:具体的に)

3-1. 教官寄贈図書を利用したことがありますか。 (1) ある (2) ない

3-2. 教官寄贈図書についてどう思いますか。

- (1) 満足 (2) だいたい満足 (3) 不満(理由:具体的に)

4-1. 留学生用図書を利用したことがありますか。 (1) ある (2) ない

4-2. 留学生用図書についてどう思いますか。

- (1) 満足 (2) だいたい満足 (3) 不満(理由:具体的に)

5-1. 参考図書を利用したことがありますか。 (1) ある (2) ない

5-2. 参考図書についてどう思いますか。

- (1) 満足 (2) だいたい満足 (3) 不満(理由:具体的に)

6-1. 書庫内図書を利用したことがありますか。 (1) ある (2) ない

6-2. 書庫内図書についてどう思いますか。

- (1) 満足 (2) だいたい満足 (3) 不満(理由:具体的に)

7-1. 雑誌を利用したことがありますか。 (1) ある (2) ない

7-2. 雑誌についてどう思いますか。

(1) 満足 (2) だいたい満足 (3) 不満(理由:具体的に)

8-1. 電子ジャーナルを利用したことがありますか。(学外の方は回答不要です。) (1) ある (2) ない

8-2. よく利用する電子ジャーナルは次のどれですか。

(1) Science Direct(Elsevier 社) (2) Academic Search Elite(EBSCO 社) (3) LINK(Springer 社) (4) JSTOR
(5) OUP (6) その他()

8-3. 電子ジャーナルについてどう思いますか。

(1) 満足 (2) だいたい満足 (3) 不満(理由:具体的に)

9-1. データベースを利用したことがありますか。(学外の方は回答不要です。) (1) ある (2) ない

9-2. よく利用するデータベースは次のどれですか。

(1) NACSIS-IR(NII) (2) 雑誌記事索引(国立国会図書館) (3) 研究紀要ポータル(NII)
(4) Academic Search Elite(EBSCO 社) (5) SciFinder Scholar (6) OCLC FirstSearch
(7) その他()

9-3. データベースについてどう思いますか。

(1) 満足 (2) だいたい満足 (3) 不満(理由:具体的に)

10-1. 新聞を利用したことがありますか。 (1) ある (2) ない

10-2. 新聞の配置場所(当日:ロビー, 1週間分:参考フロア, それ以前:1階雑誌室)についてどう思いますか。

(1) 適当 (2) 不適当(理由:) (3) わからない

10-3. 新聞についてどう思いますか。

(1) 満足 (2) だいたい満足 (3) 不満(理由:具体的に)

11. 今後図書館に整備充実してほしい図書・雑誌はどのようなものですか。(複数回答可です。)

(1) 授業に関連する図書 (2) 授業に関連しない専門図書 (3) 教養書 (4) 実用書 (5) 辞書・事典類
(6) AV 資料 (7) 専門雑誌 (8) 一般雑誌 (9) 電子ジャーナル (10) CD-ROM データベース (11) 新聞
(12) その他(具体的に)

IV. 本学附属図書館で提供しているサービスについてお伺いします。

1-1. 現在の開館日についてどう思いますか。

(1) 適当 (2) 不適当(理由:) (3) わからない

1-2. 現在の開館時間についてどう思いますか。

(1) 適当 (2) 不適当(理由:) (3) わからない

2-1. 図書の貸出を受けたことがありますか。 (1) ある (2) ない

2-2. 貸出冊数(学部生 5 冊, 院生 10 冊, 教員 20 冊, 学外者 3 冊)についてどう思いますか。

(1) 適当 (2) 不適当(理由:) (3) わからない

2-3. 貸出期間(学部生 2 週間, 院生 1 ヶ月, 教員 3 ヶ月, 学外者 2 週間)についてどう思いますか。

(1) 適当 (2) 不適当(理由:) (3) わからない

2-4. 貸出対象図書の範囲(参考図書, 雑誌, ビデオは対象外)についてどう思いますか。

(1) 適当 (2) 不適当(理由:) (3) わからない

2-5. 貸出手続きについてどう思いますか。

(1) 適当 (2) 不適当(理由:) (3) わからない

3-1. 貸出中の図書の貸出予約をしたことがありますか。 (1) ある (2) ない

3-2. 予約手続きについてどう思いますか。

(1) 適当 (2) 不適当(理由:) (3) わからない

3-3. 予約サービスについてどう思いますか。

(1) 満足 (2) だいたい満足 (3) 不満(理由:具体的に)

4-1. 読みたい図書の購入希望を出したことがありますか。(学外の方は回答不要です。) (1) ある (2) ない

4-2. 図書購入希望手続きについてどう思いますか。

(1) 適当 (2) 不適当(理由:) (3) わからない

4-3. 図書購入希望受付サービスについてどう思いますか。

(1) 満足 (2) だいたい満足 (3) 不満(理由:具体的に)

5-1. 図書館や資料の利用相談に応じるレファレンスサービスを受けたことがありますか。 (1) ある (2) ない

5-2. どんなレファレンスサービスを受けましたか。(複数回答可です。)

(1) 所在調査 (2) 事項調査 (3) 参考図書利用 (4) CD-ROM データベース利用 (5) OPAC 利用
(6) 情報端末利用 (7) そのほか図書館利用 (8) その他()

5-3. レファレンスサービスについてどう思いますか。

(1) 満足 (2) だいたい満足 (3) 不満(理由:具体的に)

6-1. 本学にない資料を取り寄せる ILL サービスをご存知ですか。(学外の方は回答不要です。)

(1) 知っている (2) 知らない

6-2. ILL サービスを受けたことがありますか。 (1) ある (2) ない

6-3. どの ILL サービスを受けましたか。 (1) 文献複写だけ (2) 現物貸借だけ (3) 両方

6-4. ILL サービスについてどう思いますか。

(1) 満足 (2) だいたい満足 (3) 不満(理由:具体的に)

7-1. 海外(英国・米国)への ILL サービスをご存知ですか。(教員, 院生以外の方は回答不要です。)

(1) 知っている (2) 知らなかった

7-2. 海外への ILL サービスを利用したことがありますか。 (1) ある (2) ない

7-3. 国内に必要な文献がない場合, 海外への ILL サービスを利用しますか。

(1) 利用する (2) 利用しない(理由:)

7-4. 英国・米国以外で利用したい又は利用することが想定される国はどこですか。

(1) ドイツ (2) フランス (3) 中国 (4) その他()

8-1. OPAC システムをご存知ですか。 (1) 知っている (2) 知らない

8-2. OPAC システムを利用したことがありますか。 (1) ある (2) ない

8-3. OPAC システムで必要な情報は入手できましたか。

(1) できた (2) できなかった(理由:)

8-4. OPAC システムで見つからなかった場合、どうしましたか。

(1) あきらめた (2) 目録カードを探した (3) 図書館員に相談した (4) その他()

8-5. OPAC システムで所蔵場所が「研究室」と表示されたとき、どうしましたか。

(1) 図書館員に相談した (2) 知人に相談した (3) あきらめた (4) その他()

8-6. OPAC システムで分からなかったことは何ですか。(複数回答可です。)

(1) 検索手順 (2) 検索語の選定 (3) 検索項目の意味 (4) 結果表示の意味 (5) 絞込み方法
(6) 配架場所の意味 (7) その他(具体的に)

9-1. 図書館で開催した電子ジャーナル講習会に参加したことがありますか。 (1) ある (2) ない

9-2. 図書館で開催したデータベース講習会に参加したことがありますか。 (1) ある (2) ない

9-3. 図書館で開催したその他の講習会に参加したことがありますか。 (1) ある (2) ない

9-4. 講習会は役立ちましたか。

(1) 満足 (2) だいたい満足 (3) 不満(理由:具体的に)

9-5. 講習会の実施方法はどうでしたか。

(1) 適当 (2) 不適當(理由:) (3) わからない

9-6. 講習会のお知らせはどうでしたか。

(1) 適当 (2) 不適當(理由:) (3) わからない

10-1. 図書館のホームページをご覧になったことがありますか。 (1) ある (2) ない

10-2. 図書館のホームページではどこをよくご覧になりますか。(複数回答可です。)

(1) お知らせ (2) 利用案内 (3) カレンダー (4) 所蔵情報の検索ツール類 (5) 図書館関連情報
(6) その他()

10-3. 図書館のホームページは役立ちましたか。

(1) 満足 (2) だいたい満足 (3) 不満(理由:具体的に)

10-4. 図書館のホームページに入れてほしい内容はありますか。

(1) ある(具体的に:) (2) 特にない

10-5. 図書館の掲示板をご覧になったことがありますか。 (1) ある (2) ない

10-6. 図書館報をご覧になったことがありますか。 (1) ある(紙媒体・電子媒体・両方) (2) ない

10-7. 図書館からのお知らせについてどう思いますか。

(1) 適当 (2) 不適當(理由:) (3) わからない

11-1. 図書館員のサービスについてどう思いますか。

(1) 満足 (2) だいたい満足 (3) 不満(理由:具体的に)

11-2. 上記で「不満」とお答えになった方にお聞きます。どのように改善すべきですか。

[]

V. 本学附属図書館で提供している設備についておたずねします。個々の設備についてのご意見・ご感想は余白に記入してください。

1-1. インターネットやレポート作成に自由に使える情報端末を 18 台用意していますが、利用しましたか。

(1) 利用したことがある(月平均して 回くらい) (2) 利用したことはない

1-2. 主にどんなことに利用しましたか。(複数回答可です。)

(1) インターネット利用 (2) ワードソフト利用 (3) 表計算ソフト利用 (4) 電子メール利用

1-3. 利用の際に順番待ちの経験がありますか。 (1) ある(月平均 回) (2) ない

1-4. 利用したことがない方におたずねします。利用しない理由は何ですか。(学外の方は回答不要です。)

(1) 知らなかった (2) 必要がない (3) 混雑のため (4) 使い方が不明 (5) 自分のPCを使うから

2-1. 自分のパソコンの持込み利用ができる情報コンセントが閲覧室に 104 口ありますが、利用しましたか。

(1) 利用したことがある(月平均して 回くらい) (2) 利用したことはない

2-2. 主にどんなことに利用しましたか。(複数回答可です。)

(1) インターネット利用 (2) ワードソフト利用 (3) 表計算ソフト利用 (4) 電子メール利用

2-3. 利用したことがない方におたずねします。利用しない理由は何ですか。(学外の方は回答不要です。)

(1) 知らなかった (2) 自分のパソコンを持っていない (3) 使い方が分からなかった

3-1. 埼玉大学で所蔵する資料を探すために OPAC 端末を 9 台用意していますが、利用しましたか。

(1) 利用したことがある(月平均して 回くらい) (2) 利用したことはない

3-2. 利用の際に順番待ちの経験がありますか。 (1) ある(月平均 回) (2) ない

3-3. 利用したことがない方におたずねします。利用しない理由は何ですか。

(1) 知らなかった (2) 必要がない (3) 混雑のため (4) 使い方が不明

4-1. CD-ROM で提供される各種データベースを検索する専用の端末を用意していますが、利用しましたか。

(1) 利用したことがある(月平均して 回くらい) (2) 利用したことはない

4-2. 利用した際、検索結果をプリントしたことがありますか。 (1) ある(月平均 回) (2) ない

4-3. 利用したことがない方におたずねします。利用しない理由は何ですか。(学外の方は回答不要です。)

(1) 知らなかった (2) 必要がない (3) 混雑のため (4) 使い方が不明 (5) 自分のPCを使うから

5-1. ビデオ等の視聴覚資料を利用するために AV 機器を用意していますが、利用しましたか。

(1) 利用したことがある(月平均して 回くらい) (2) 利用したことはない

5-2. 利用したのは何ですか。(複数回答可です。) (1) DVD (2) VHS ビデオ (3) レーザーディスク

5-3. 利用の際に順番待ちをした経験がありますか。 (1) ある(月平均 回) (2) ない

5-4. 利用したことがない方におたずねします。利用しない理由は何ですか。(学外の方は回答不要です。)

(1) 知らなかった (2) 必要がない (3) 混雑のため (4) 使い方が不明

6-1. 利用者が自分で図書の貸出手続きができる図書自動貸出装置を 1 台設置していますが、利用しましたか。

(1) 利用したことがある (2) 利用したことはない

6-2. 利用してみてどうでしたか。 (1) 使いやすかった (2) 使いにくかった

6-3. 利用したことがない方におたずねします。利用しない理由は何ですか。

(1) 知らなかった (2) 利用できるカードを持っていない (3) 利用できる図書がない (4) 使い方が不明

7-1. 図書館の資料を複写するためにセルフ式コピー機を設置していますが、利用しましたか。

(1) 利用したことがある(月平均して 回くらい) (2) 利用したことはない

7-2. 利用したことがある方におたずねします。主に利用したのは何ですか。

(1) 図書の複写 (2) 雑誌の複写 (3) 新聞の複写 (4) その他()

7-3. 利用する際に順番待ちの経験がありますか。

(1) ある(月平均 回) (2) ない

7-4. 利用したことがない方におたずねします。利用しない理由は何ですか。

(1) 知らなかった (2) 必要がない (3) 混雑のため (4) 使い方が不明

8-1. 図書館の利用環境全体についてどう思いますか。

(1) 満足 (2) だいたい満足 (3) 不満(理由:具体的に)

8-2. 上記で「不満」とお答えになった方にお聞きします。どのように改善すべきですか。

[]

VI. 本学附属図書館に設けてほしい施設・設備, 実施してほしいサービス, 図書館の活性化策など, 図書館を利用しやすくするためのご意見・ご要望をお書きください。

[]

VII. 他の機関で行っているサービスでよく利用しているものがありますか。ありましたらご紹介ください。

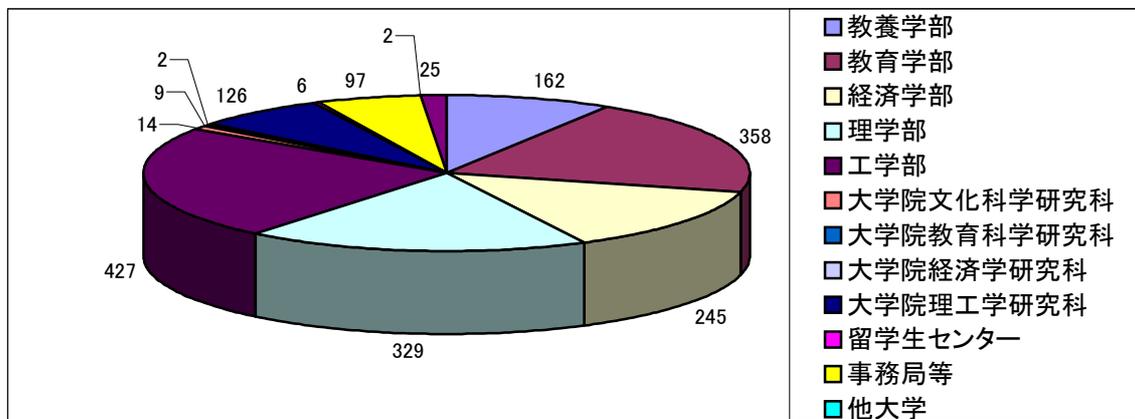
[]

ご協力, まことにありがとうございました。

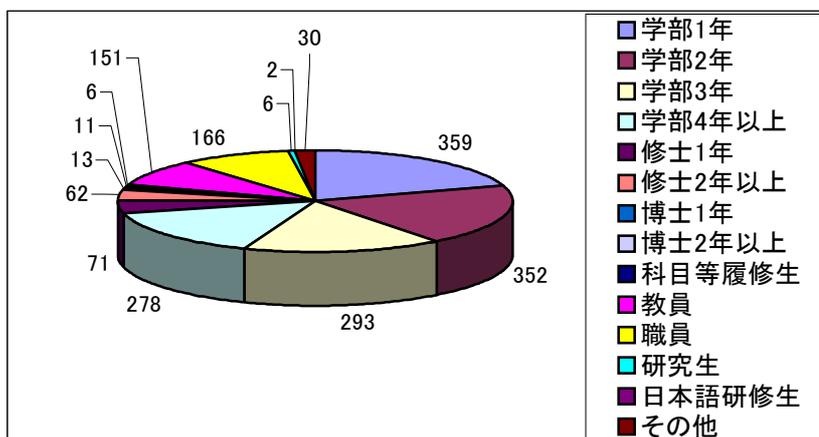
埼玉大学附属図書館利用に関するアンケート集計結果

I. 回答いただくあなたについておたずねします。

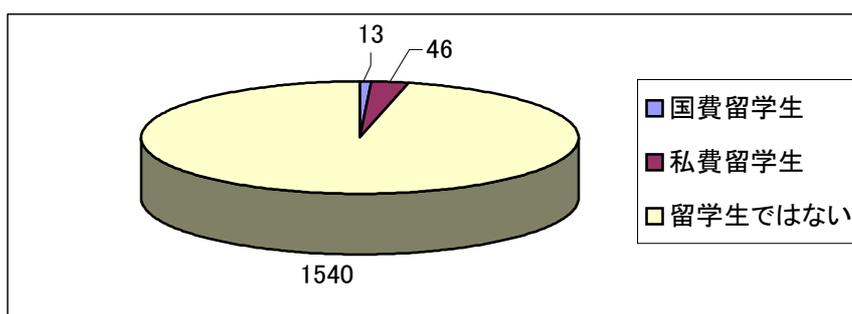
1. あなたの所属はどれですか。



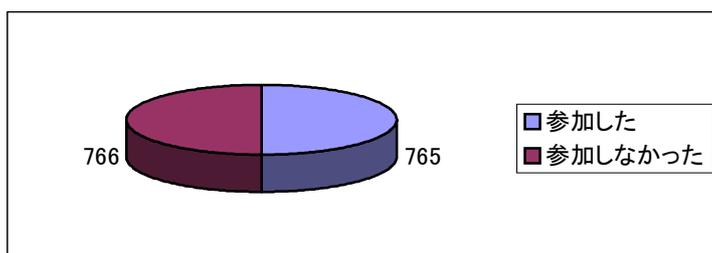
2. あなたの身分はどれですか。



3. あなたは外国人留学生ですか。

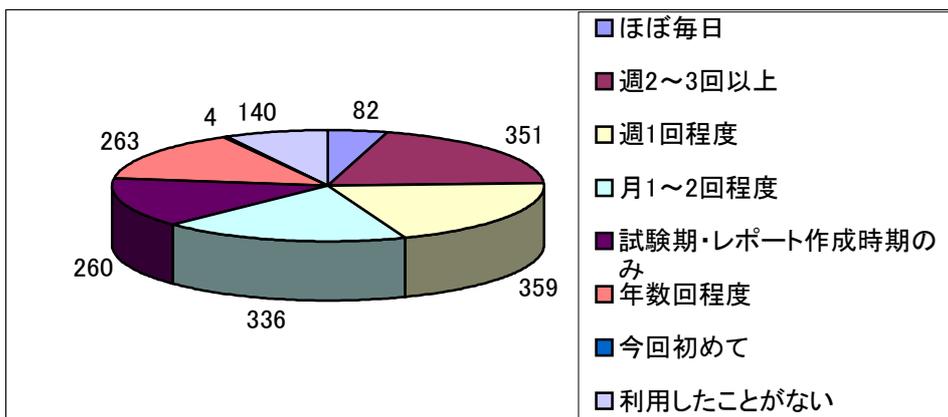


4. 本学入学時に図書館オリエンテーションに参加しましたか。(本学学生(研究生等を含む)のみ。)

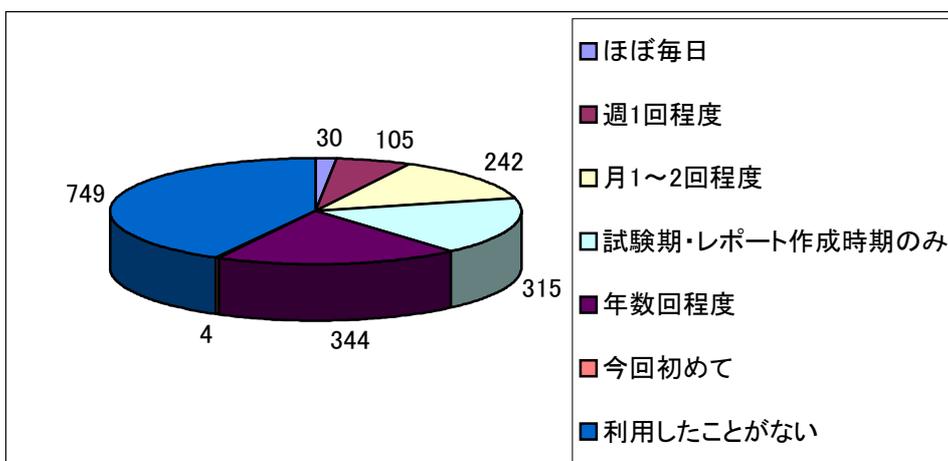


II. 利用の実態についておたずねします。

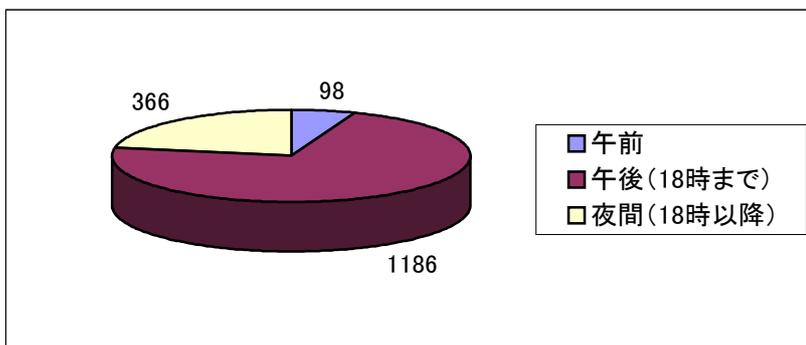
1. 平日には図書館をどれくらいの頻度で利用していますか。



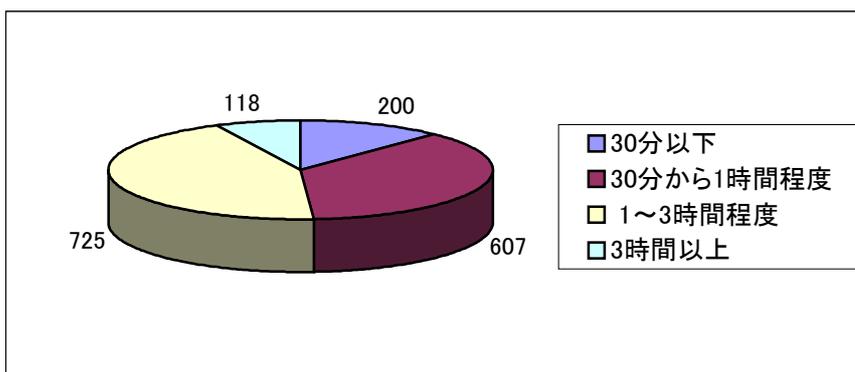
2. 休日(土日祝日)には図書館をどれくらいの頻度で利用していますか。



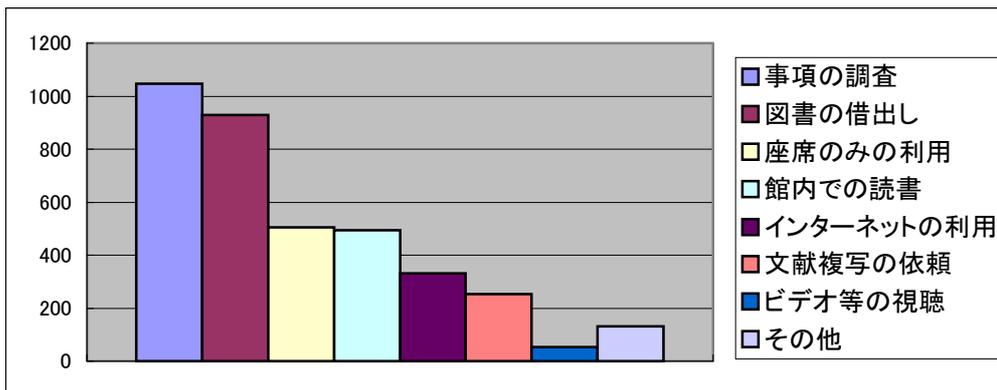
3. 一番多く利用する時間帯はどれですか。



4. 図書館にいる時間は平均してどれくらいですか。



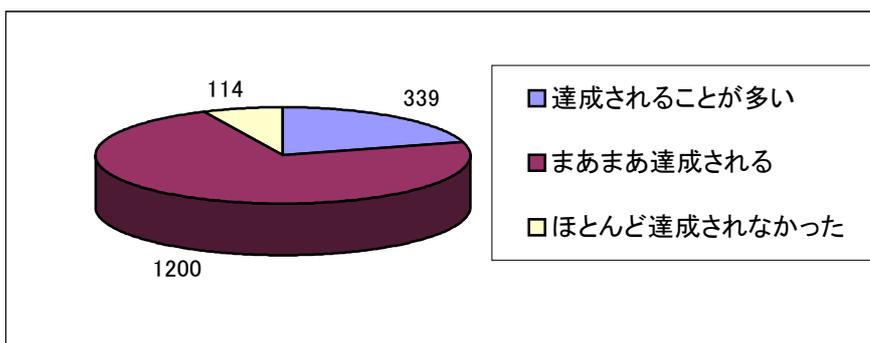
5. 図書館を利用する目的は何ですか。多いもの3つを選んでください。



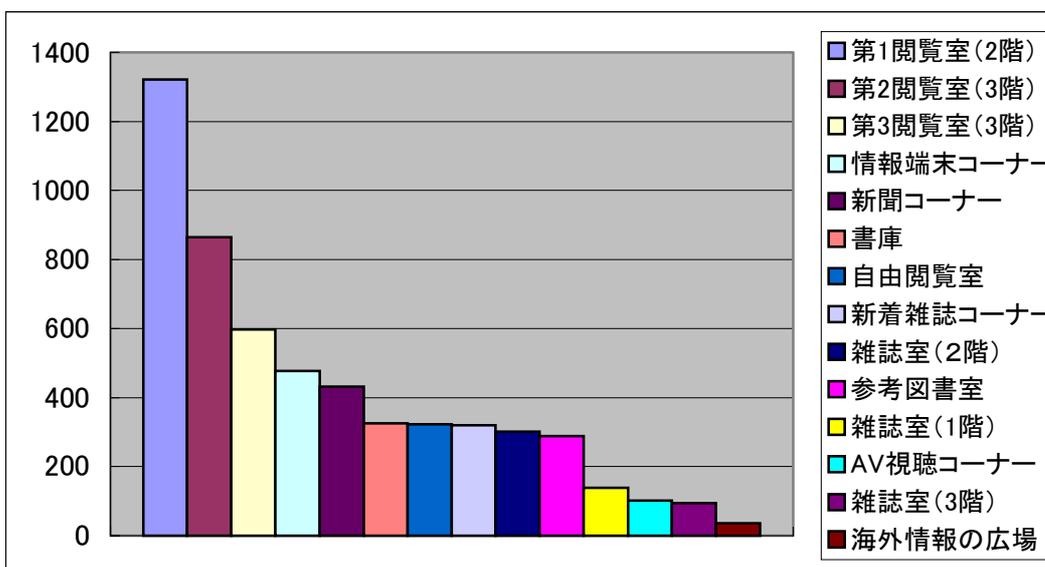
その他の内容

勉強 (46) 新聞 (19) コピー (18) レポート作成 (15) 試験勉強 (13)
 文献探し (6) 卒論 (4) 雑誌閲覧 (4) 相互貸出, 紹介状の依頼 (2)
 空き時間の暇つぶし (2)

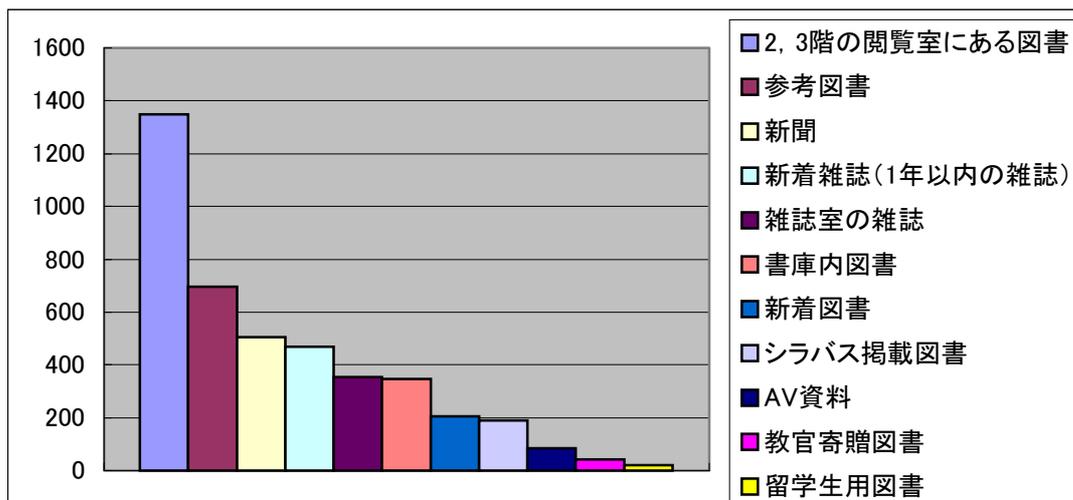
6. 図書館を利用して目的は達成されることが多いですか。



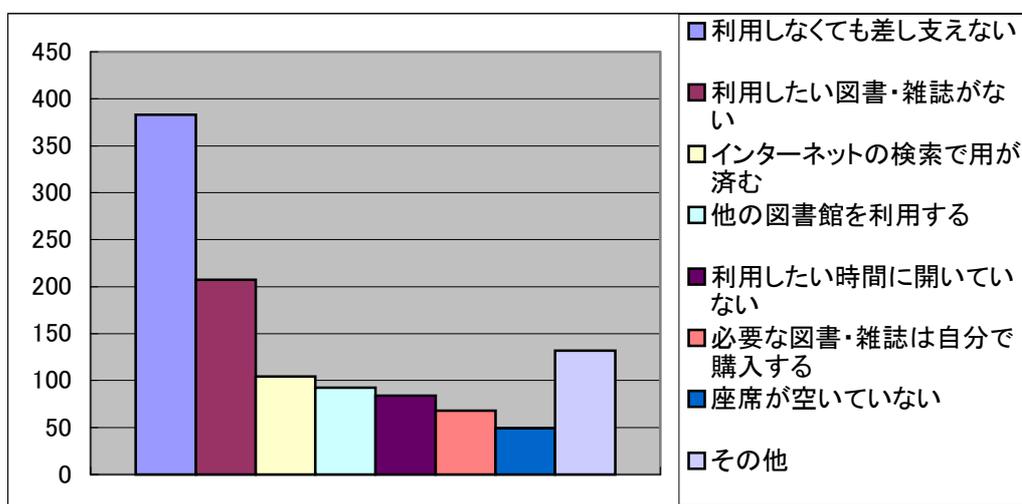
7. 図書館の中でいつも利用する場所はどこですか。多いものから順に書いてください。



8. 図書館の中でいつも利用する資料は何ですか。多いものから順に書いてください。



9. 1.で5~8 及び 2.で4~7 と答えた方へ質問です。図書館を利用しない理由は何ですか。(複数回答可です。)

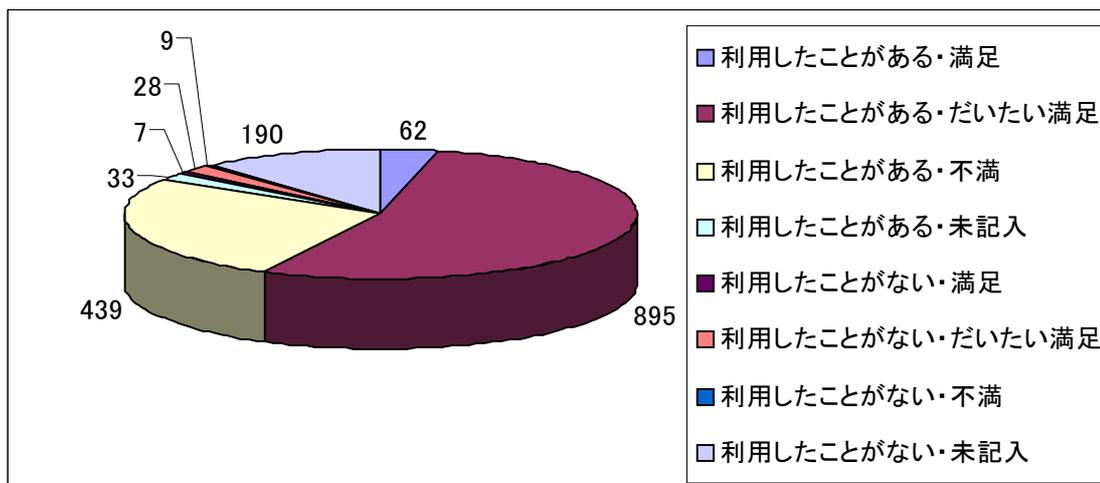


その他の内容

自宅が遠いので休日は学校に来ない (74) 勤務地から遠い (8) 必要な図書や情報が少ない (8) 時間的余裕がないから (5) 館員の態度が悪い (5) 学科図書室などを利用 (4) 利用方法がよく分からない (3) 重苦しい雰囲気がかえって勉強しにくい (3)

Ⅲ. 本学附属図書館で提供している資料についておたずねします。

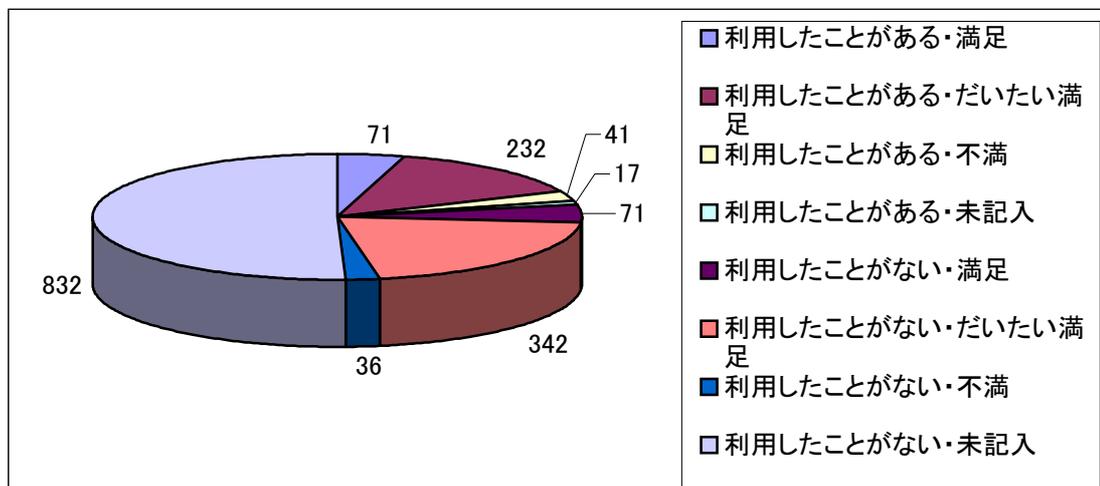
1-1. 第1閲覧室と第2閲覧室の図書(約8万冊)



不満の具体的内容

図書が少ない (177) 新しい図書が少ない。資料が古い (126) 利用したい図書がない (70) 研究に必要な専門書が不十分 (26) 必要な本が貸出されていることが多い (20) 小説が少ない (11) きたない。傷みがある。書込みがある (10) 授業で参考資料に指定された本がない (9) 閲覧室にあるはずの本がないときがある (7) 内容に偏りがあると思う (5)

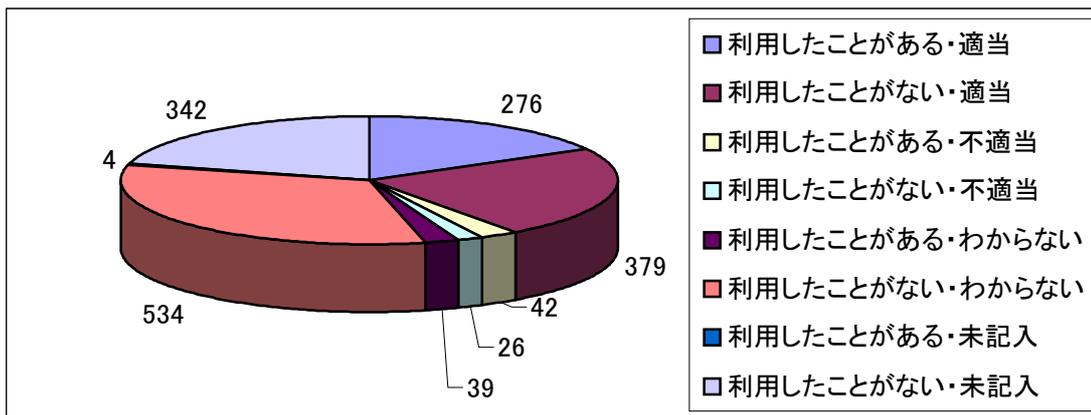
2-1. シラバス掲載図書



不満の具体的内容

1冊ずつでは足りないと思います (27) シラバス掲載図書が入っていないことが多い (14) 借りられないから (6) シラバス掲載図書を知らない (5) 講義名とリンクしてほしい。学部学科別にまとめてほしい (4) 置いてある意味がない (2) 時々高価で購入したくないので揃えていただければうれしいです (2) 掲載しているくせにあまり使わない (2)

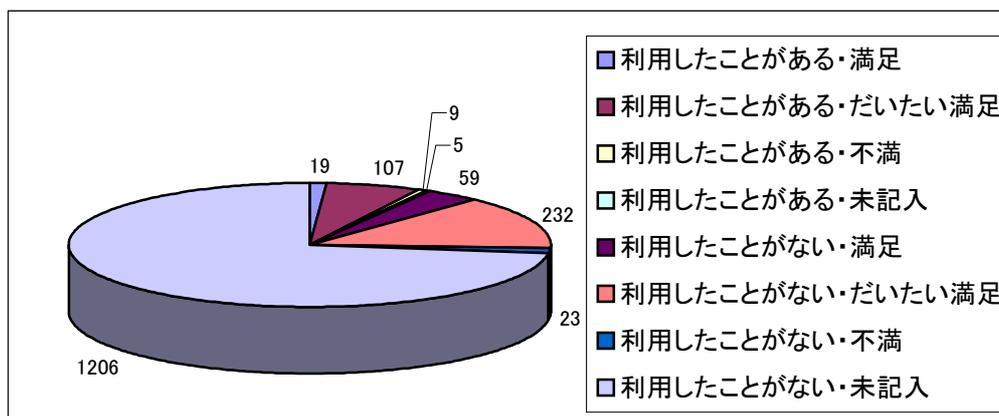
2-2. シラバス掲載図書は共同で利用するため貸出禁止としています。これについてどう思いますか。



不適當の具体的内容

家でじっくり検討したいので (22) 部数を増やして一部貸出, 一部貸出禁止にすべき (17) なぜ貸出禁止なのかその理由が分からない。他の図書も共同利用するもの (6) 貸出期間を短めにして貸出してほしいです (4) レポートなどに利用したい場合不便 (4) コピーしてもお金がかかる (3) 教科書は買うと高い (2)

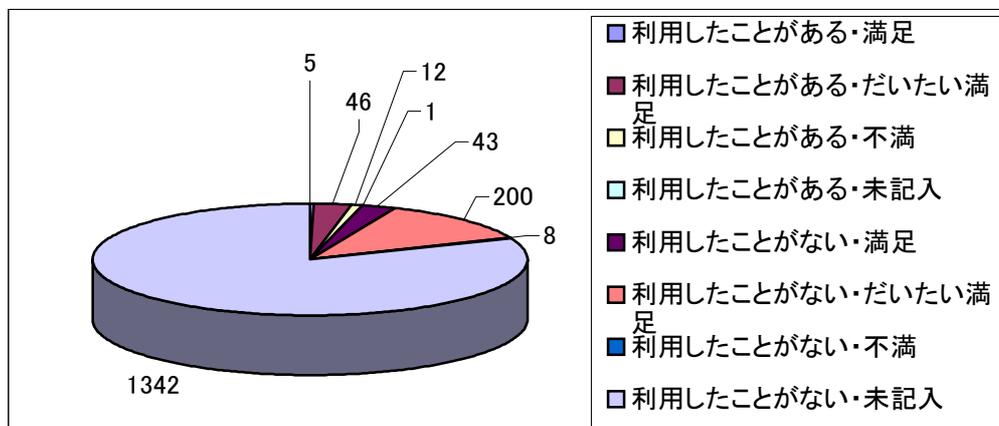
3-1. 教官寄贈図書



不満の具体的内容

もっと網羅的に精力的に収集してもらいたい (12) 存在を知らない (5) 読みたいものがない (3) 古い。新版になったらその都度おいてほしい (3)

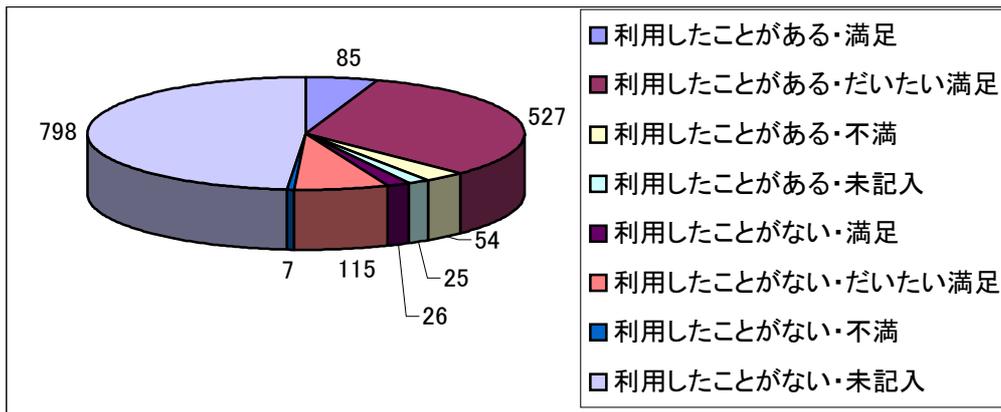
4-1. 留学生用図書



不満の具体的内容

数が非常に少ない (7) 存在を知らなかった (3) 古すぎて読みたい図書がない (3)

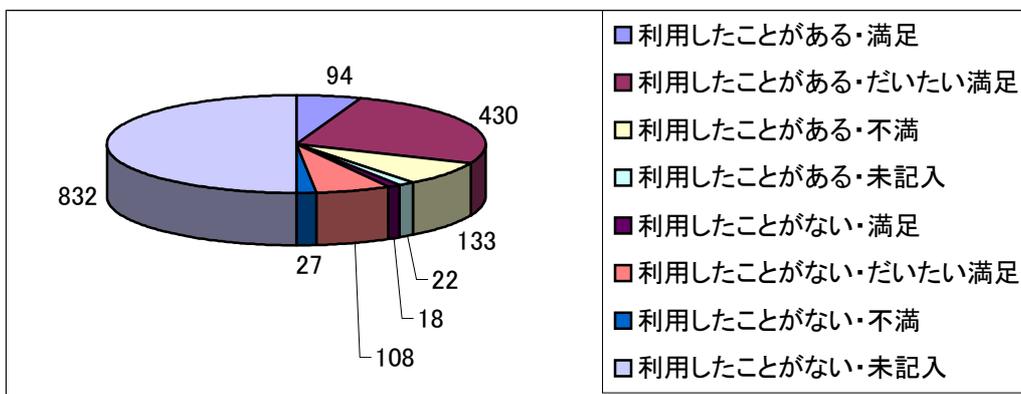
5-1. 参考図書



不満の具体的内容

数・種類が少ない (33) 内容の古いものが多い (12) 参考図書が分からない (5)
 配置をわかりやすく (5) 貸出禁止が多い (4) 利用する気にならない (2)

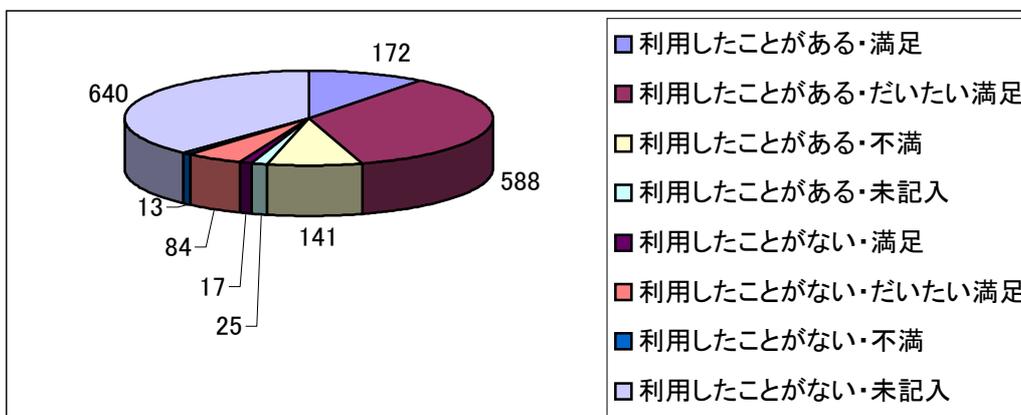
6-1. 書庫内図書



不満の具体的内容

ほしい文献がないときが多々ある (42) 資料のある場所が探しにくい (26)
 利用時間が限られている (23) 資料が少ない (18) 暗い (17) 古い (15)
 書庫の使用法がわかりづらい (12) 利用しにくい雰囲気がある (10)
 あるべき場所にないことが多い (8) 荷物を預けるのが面倒 (7)

7-1. 雑誌

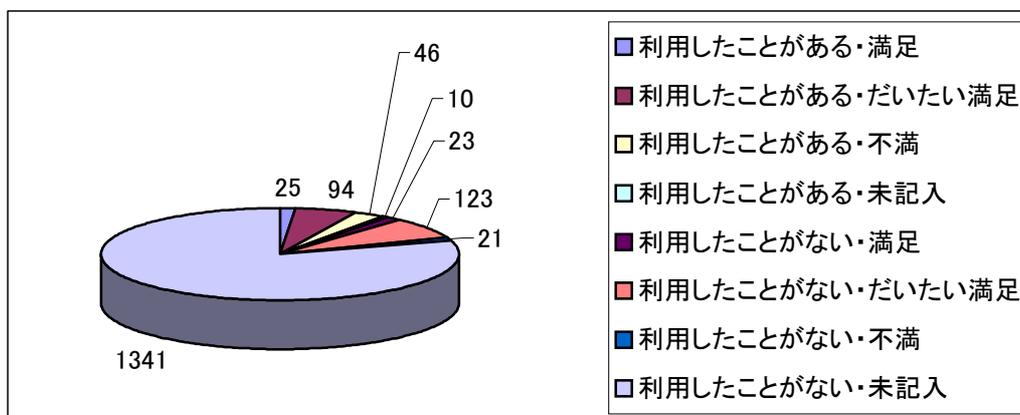


不満の具体的内容

購入雑誌の種類が少ない (71) 必要な雑誌がない (14)

バックナンバーが揃っていない (11) 借りられない (10) 配置が分かりづらい (7)
 更新が遅い (6) 古い (6) 固いものばかりではなく、もっと柔軟な雑誌をおくべき (5)
 需要が少ないものばかり置いてある気がする (4)

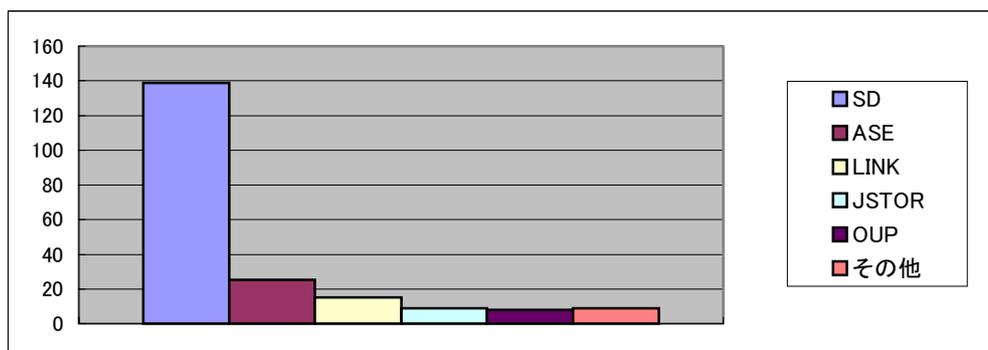
8-1. 電子ジャーナル



不満の具体的内容

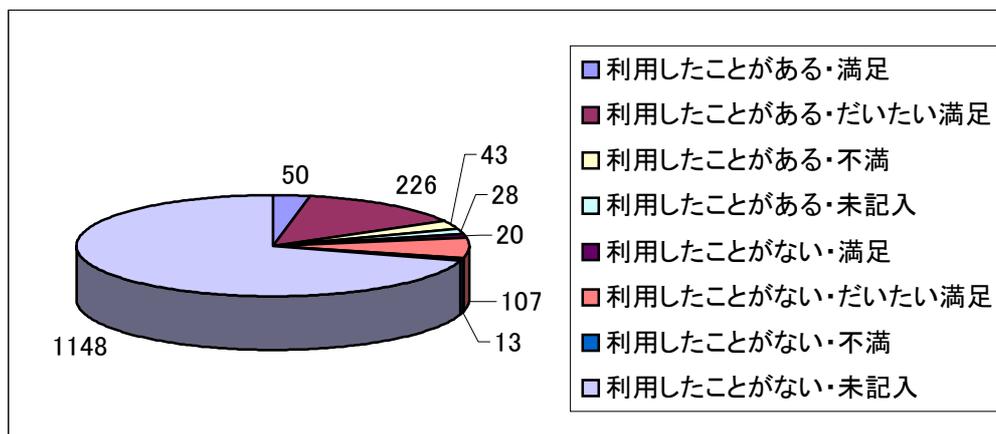
full text で閲覧できる雑誌の数を増やしてほしい (30) よく分からない (9)
 使い方がよく分からない (3) 利用の多いものを中心に契約すべき (2)
 必要な雑誌が会社毎に分散していて分かりにくい。雑誌名検索機能等を作ってほしい (2)
 ホームページの表示速度が遅い (2)

8-2. よく利用する電子ジャーナルは次のどれですか。



その他の内訳 ASME (2) APS(Physical review) Chem Port, Journal of Materials Chemistry
 IEICE, IEEE EURASID PRL, PRB, JPSJ, Nature

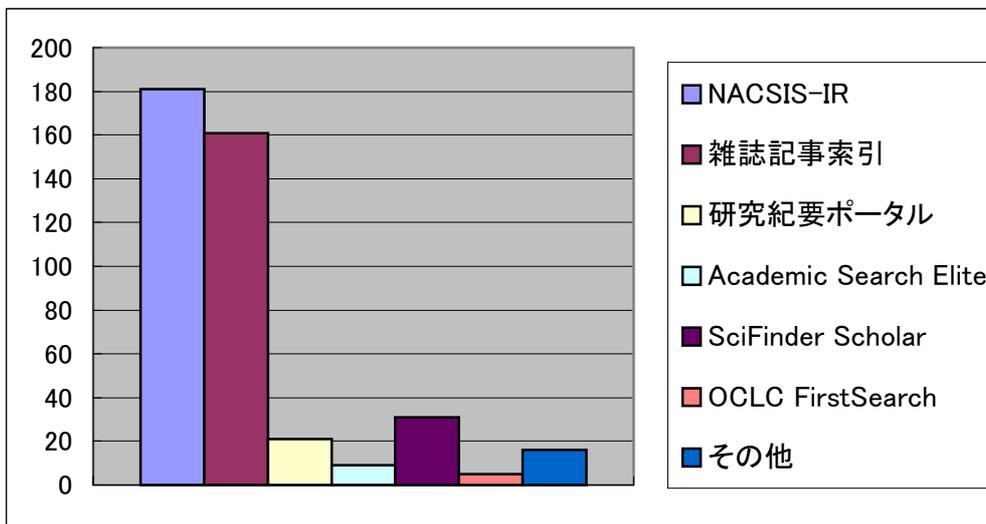
9-1. データベース



不満の具体的内容

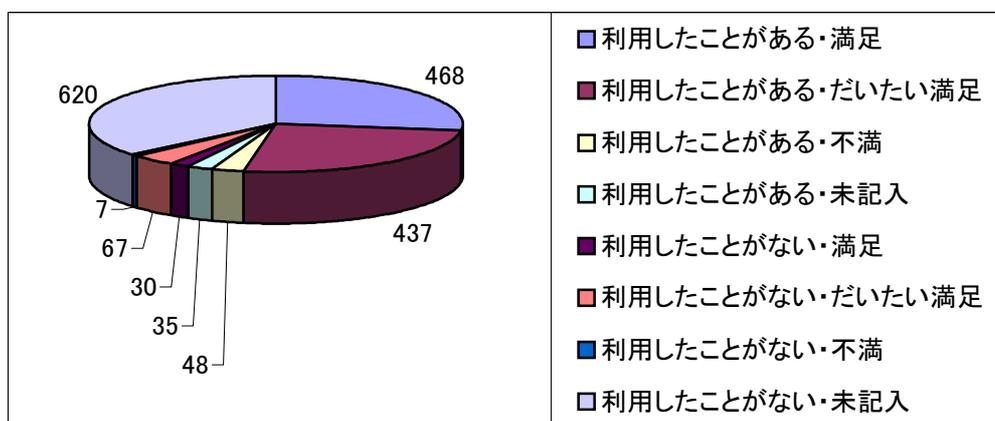
- 使い方がよく分からない (18) よく使うデータベースがない (9)
- 複数ユーザ登録が望ましい (4) 検索の仕方がなかなか覚えられない (4)
- 検索機能が弱い。遅い (3) 種類が少ない (2) あの場で印刷したい (2)
- 情報が古い (2)

9-2. よく利用するデータベースは次のどれですか。



その他の内訳 CA on CD IEEE explore MLA Bibliography PubMed
科学年鑑 家政学会データベース 法律判例文献情報

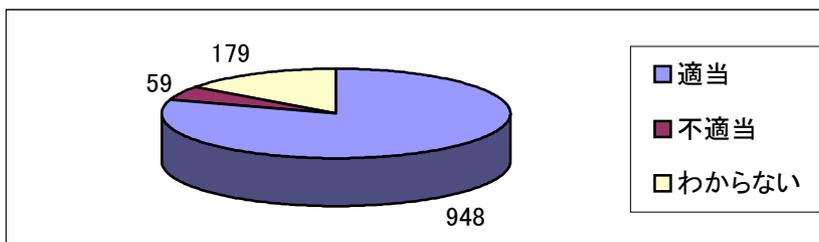
10-1. 新聞を利用したことがありますか。



不満の具体的内容

- 種類が少ない (17) スポーツ紙もほしい (11)
- 朝刊を一日中置いておいてほしい (5) 当日分を座って読めるようにしてほしい (4)
- 閉館 40 分前に片づけしないで。しかも片付け方が雑で感じ悪い (4)
- 海外の新聞も取り寄せてほしい (3) どこに置いてあるかが不明 (2)

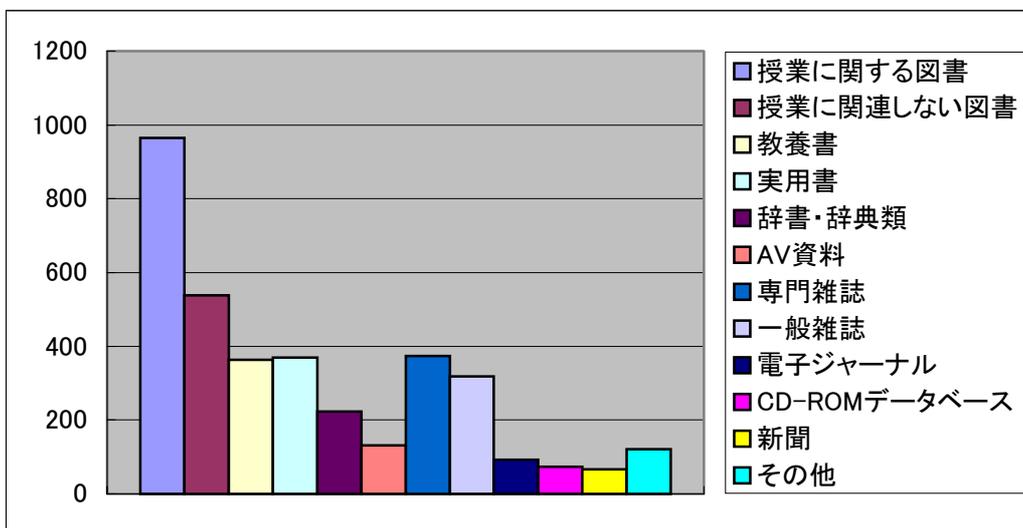
10-2. 新聞の配置場所(当日:ロビー, 1週間分:参考フロア, それ以前:1階雑誌室)についてどう思いますか。



不適当の内訳

- 寒い (25) 座って読むことができない (6) 利用しやすい場所に置いてほしい (5)
- 暗い (4) 狭い (3) 当日以外の分がどこにあるのかわからなかった (3)
- 朝刊を一日中ロビーに置いてほしい (2)
- 1週間以内のものは図書館の真ん中, コピーできる場所の近くが好ましいと思う (2)
- 空気が悪い(タバコ臭い) (2) 人の出入りが激しく落ち着いて読めないから (2)

11. 今後図書館に整備充実してほしい図書・雑誌はどのようなものですか。(複数回答可です。)

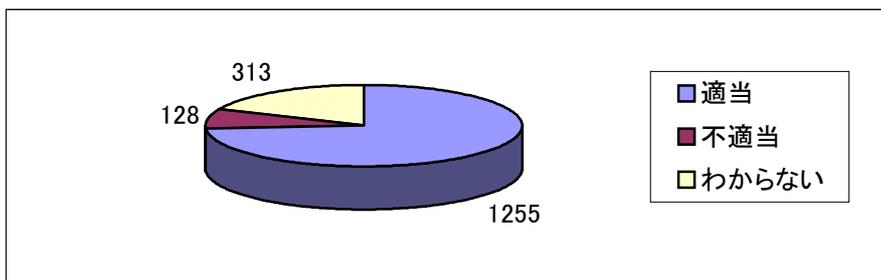


その他の内訳

- 一般文芸書 (53) 絵本 (8) 専門書 (5) 辞書・辞典類 (5) 英語文献 (5)
- 図書の数を増やしてほしい (4) コンピュータの本。時代遅れになっているので (3)
- 紀要類 (3) ビデオ, DVD (3) 資格試験対策集や業界地図, 院試に関するもの (3)

IV. 本学附属図書館で提供しているサービスについてお伺いします。

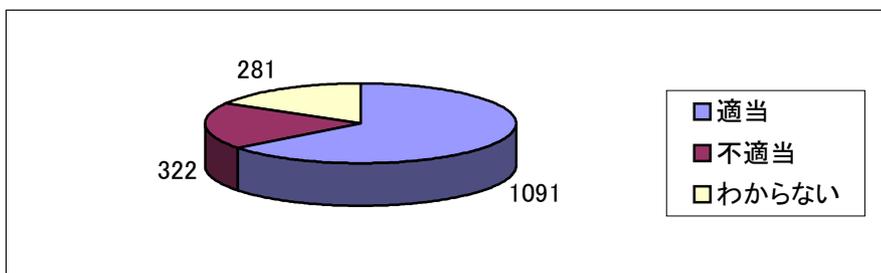
1-1. 現在の開館日についてどう思いますか。



不適當の内訳

休業期間中の土日も開けてほしい (34) 閉館日が多すぎる (30)
館内内整理日を土日祝日にしてほしい (16) 年中無休にしてほしい (9)
夏休みが長い (4) 休館日がランダムで分かりづらい (2)

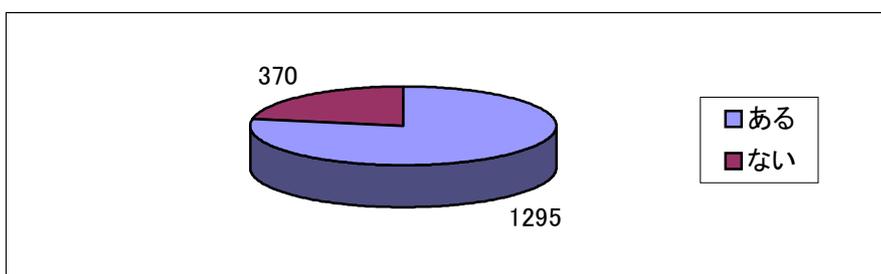
1-2. 現在の開館時間についてどう思いますか。



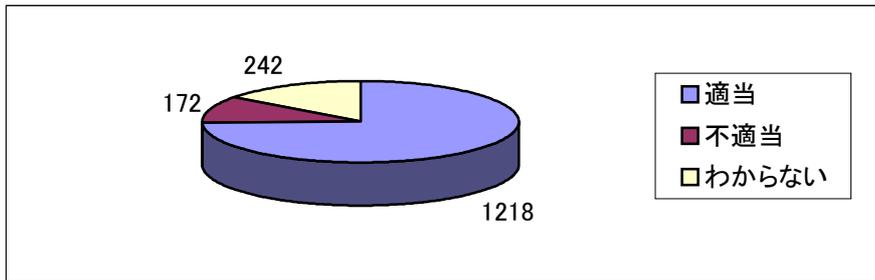
不適當の内訳

休日の 17:00 閉館は早すぎ (142) 21:30 閉館は早すぎる (102)
1・2 限は 8:40 から始まるのに、図書館が 9:00 からしか開けないのはおかしいと思う (54)
24 時間開館すべき (21) 時間が短い (13) 自由閲覧室の利用時間延長 (5)

2-1. 図書の貸出を受けましたことがありますか。



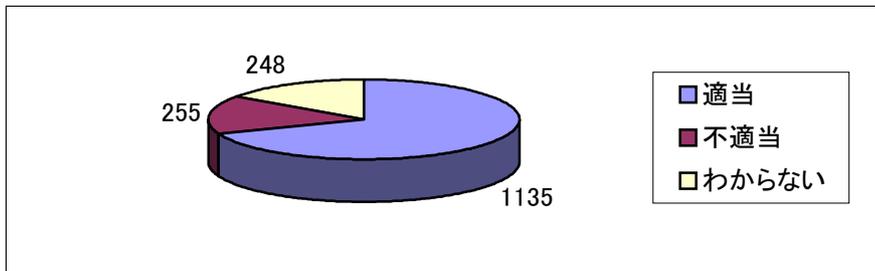
2-2. 貸出冊数(学部生 5 冊, 院生 10 冊, 教員 20 冊, 学外者 3 冊)についてどう思いますか。



不适当の内訳

- 5 冊では少ない (161) 差をつける必要があるのがよく分からない (8)
- 卒論のためには 5 冊は少ないので特例措置がほしい (5)
- 教員の数が多すぎる (5) 夏休みなどは増やしてほしい (2)

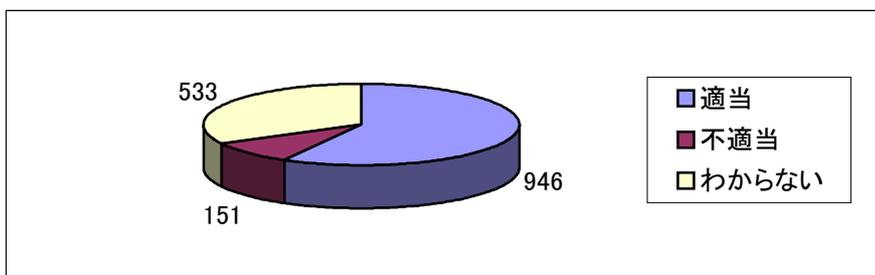
2-3. 貸出期間(学部生 2 週間, 院生 1 ヶ月, 教員 3 ヶ月, 学外者 2 週間)についてどう思いますか。



不适当の内訳

- 2 週間では短い (166) 卒論のために 1 ヶ月ほしい (7) 教員 3 ヶ月は長すぎる (7)
- 期間が長いと借りたい本が貸出中なことが多く、もっと短くていいと思う (6)
- 期間の差別化は不公平 (5) 院生 1 ヶ月じゃ短い (5) 予約がないなら何回でも延長できるようにしてほしい (3) 学部生と学外者が同じ扱いは不公平だ (2)
- 2 週間でよいが、延長が簡単なようにしてほしい (2)

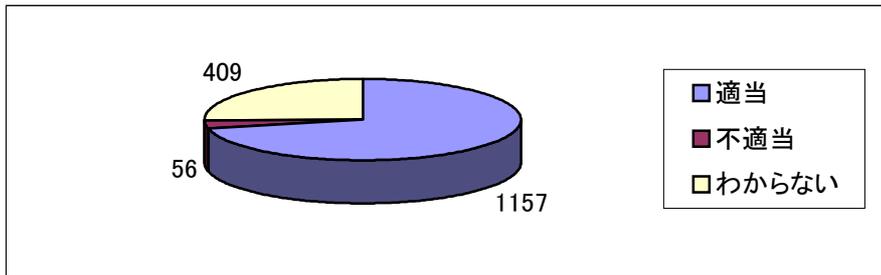
2-4. 貸出対象図書の範囲(参考図書, 雑誌, ビデオは対象外)についてどう思いますか。



不适当の内訳

- ビデオ, DVD 類も貸出してほしい (43) 雑誌も貸出してほしい (40)
- 全てのものを貸出対象に入れる (23) 参考図書を貸出してほしい (11)

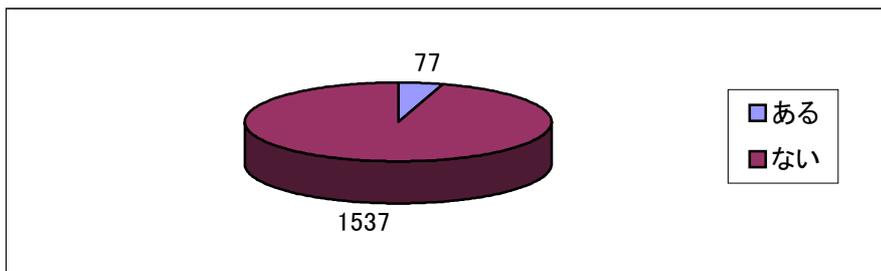
2-5. 貸出手続きについてどう思いますか。



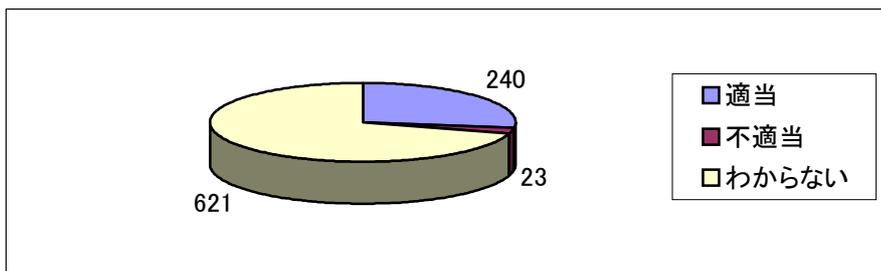
不适当の内訳

職員の態度が悪い (17) 日付印を押すのが面倒 (12) 3, 4年生もカードを換えてほしい (6) 古い図書と新しい図書の手続が違うので、分かりにくい (4) 受付に誰もいないのに機械を使ってと言われた (3) 機械の台数が少ない。すぐに列になってしまう (3) 自動貸出機が面倒くさい (2) 分かりにくい (2)

3-1. 貸出中の図書の貸出予約をしたことがありますか。



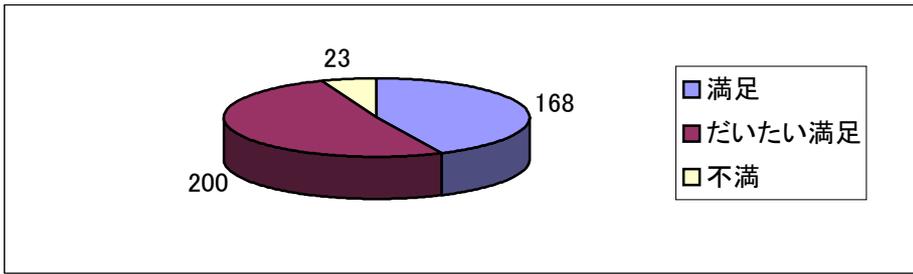
3-2. 予約手続きについてどう思いますか。



不适当の内訳

貸出予約の存在を知らなかった (5) 自分の予約順位を知りたい (3) 予約しても返却されないので借りられない。期限を過ぎていたらすぐに返させてほしい (3) 独占できなくなるからよい (2) 面倒くさい (2)

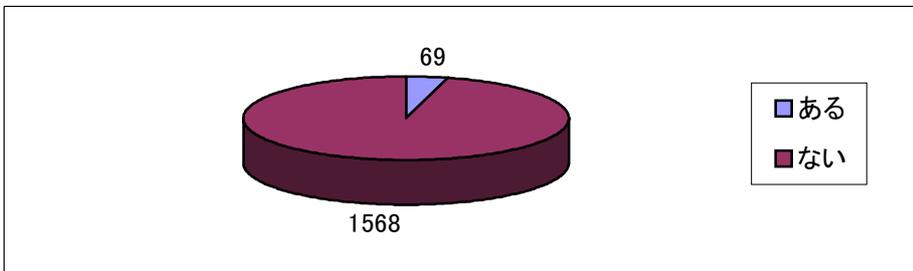
3-3. 予約サービスについてどう思いますか。



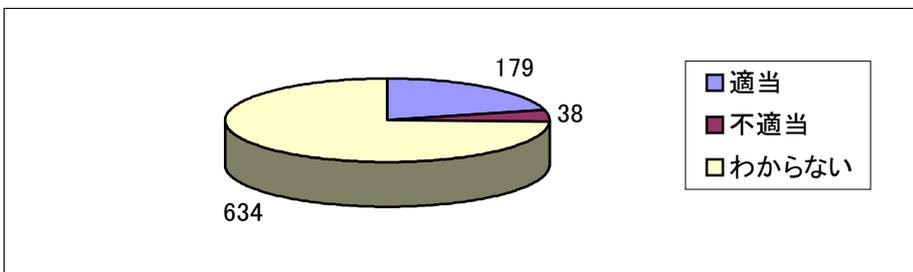
不満の内訳

知らなかった (7) 予約しても返却されないので借りられない (2)
 ほしい時に借りられなかった。もう必要がない時に来た (2)

4-1. 読みたい図書の購入希望を出したことがありますか。(学外の方は回答不要です。)



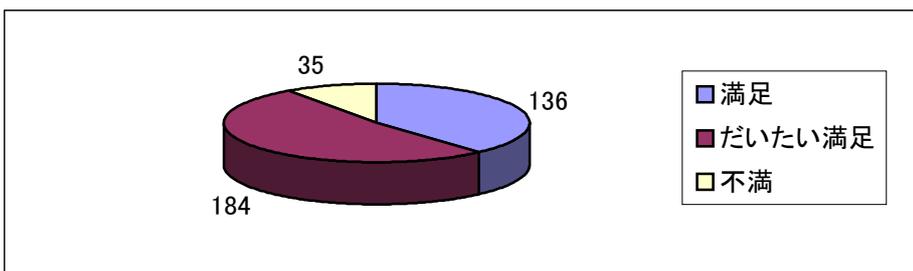
4-2. 図書購入希望手続きについてどう思いますか。



不適当の内訳

利用方法がよく分からない (10) 購入決定が遅い (7) 面倒 (4) ホームページからも
 手続きできるようにしてほしい (3) 存在が知られていない (3) 随時受付けてほしい (2)

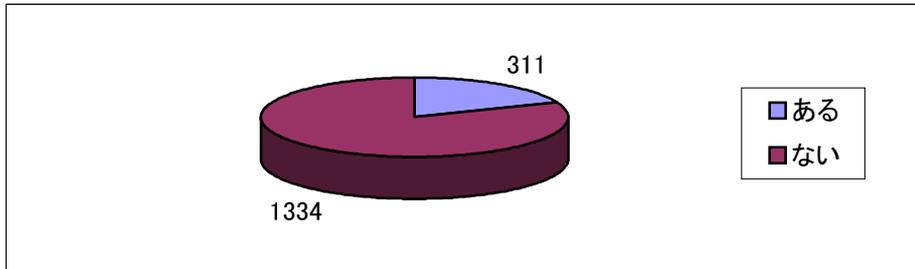
4-3. 図書購入希望受付サービスについてどう思いますか。



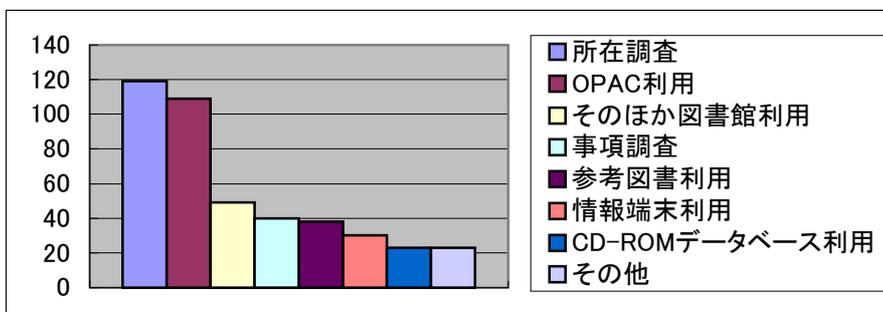
不満の内訳

知らなかった (12) 購入決定が遅い (5) ネットからも受付してほしい (3)
気軽に希望が出せない (2) 使ってみようと思った (2) どうせ希望は通らない (2)

5-1. 図書館や資料の利用相談に応じるレファレンスサービスを受けたことがありますか。

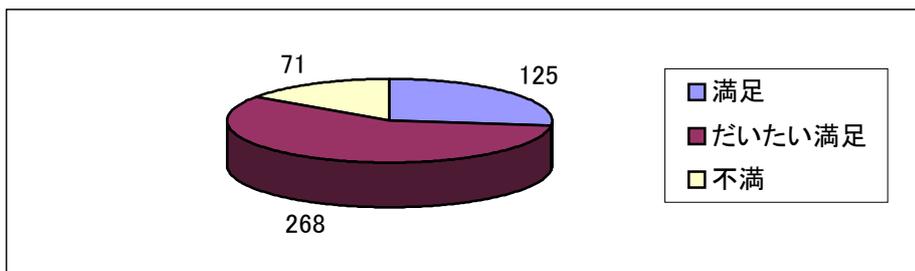


5-2. どんなレファレンスサービスを受けましたか。(複数回答可です。)



その他の内訳 文献複写依頼 (12) 資料の取寄せ (8) など

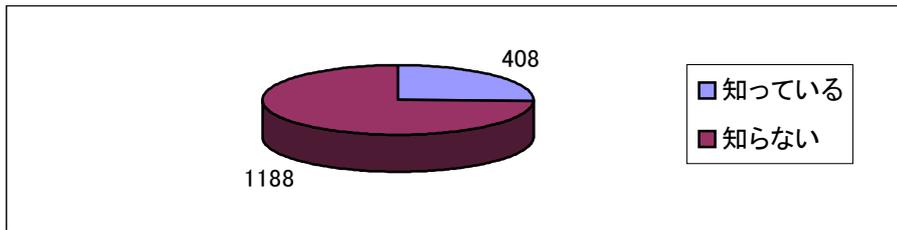
5-3. レファレンスサービスについてどう思いますか。



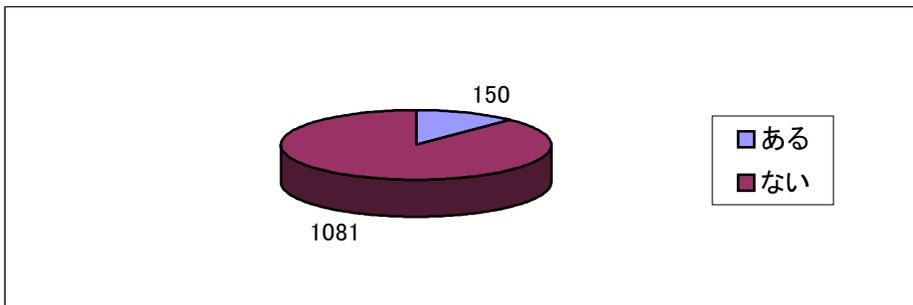
不満の内訳

対応が不親切・態度が悪い (33) 時間が5時まででは授業があって利用できない (6)
知らなかった (5) 探しにくい (5) 学生に対するときの対応がちがう (4)
説明が分かりにくい (4) 資料入手に時間が掛かる。Email 連絡が着かないことがある (3)
質問に答えてもらえない、あまり調べてくれない (2)

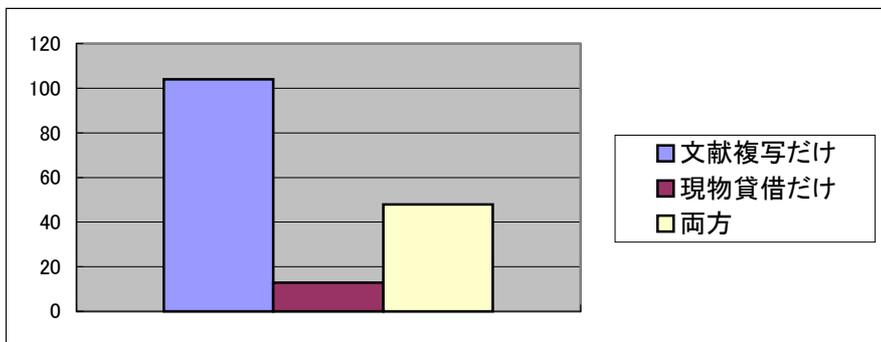
6-1. 本学には資料を取り寄せるILLサービスをご存知ですか。(学外の方は回答不要です。)



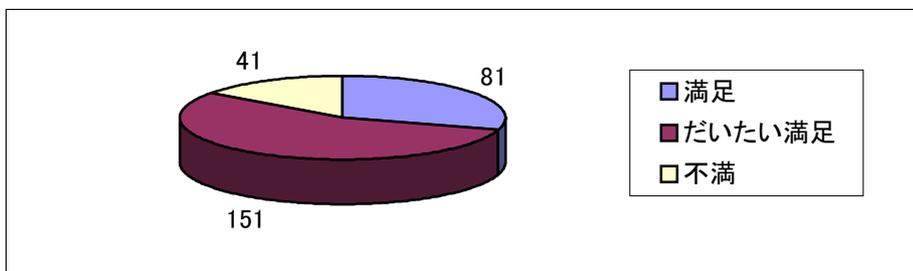
6-2. ILLサービスを受けたことがありますか。



6-3. どのILLサービスを受けましたか。



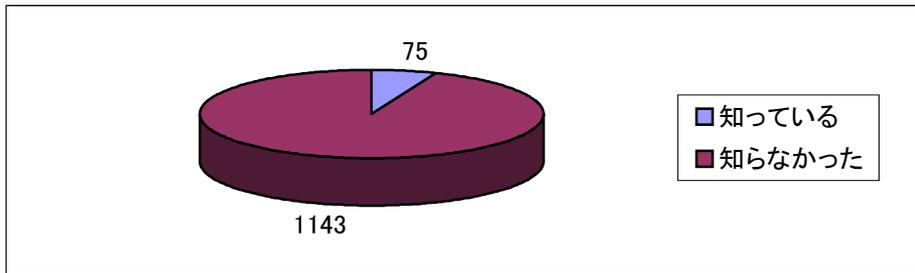
6-4. ILLサービスについてどう思いますか。



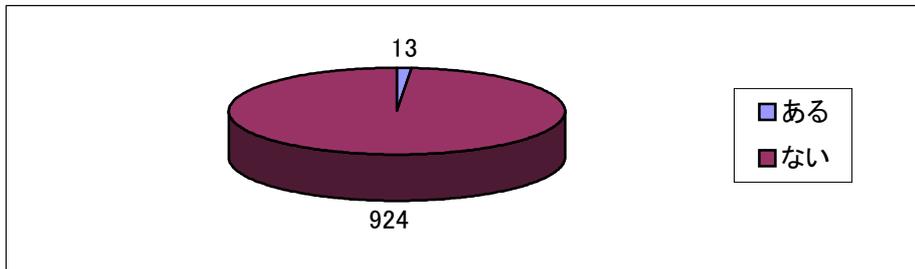
不満の内容

- お金がかかる (8)
- 知らなかった (6)
- 使い方が分からない (5)
- 取り寄せに時間が掛かりすぎる。手続きが多い (5)
- 対応が不親切 (4)
- 文献複写依頼の受付を e-mail で行ってほしい (3)
- 利用時間が短い。5時以降も対応してほしい (2)

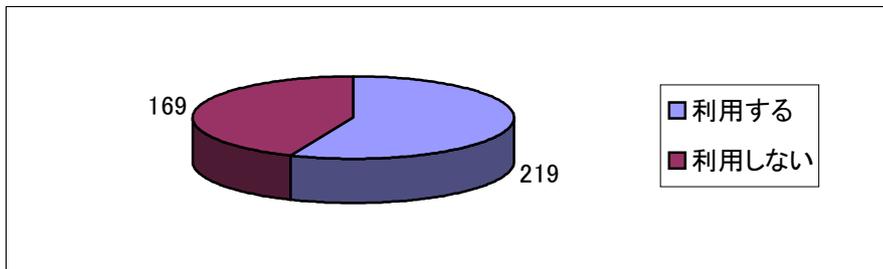
7-1. 海外(英国・米国)への ILL サービスをご存知ですか。(教員, 院生以外の方は回答不要です。)



7-2. 海外への ILL サービスを利用したことがありますか。



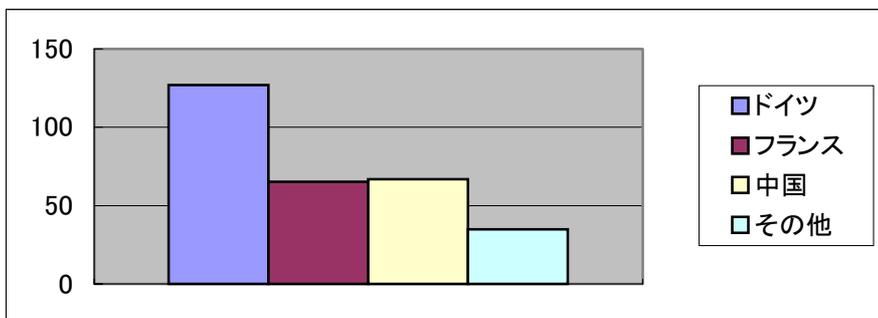
7-3. 国内に必要な文献がない場合, 海外への ILL サービスを利用しますか。



利用しない理由

やり方が分からない (13) 手続きが面倒 (11) さらにお金が掛かりそう (8)
 時間が掛かりそう (6) 外国語だったら読めない (4) 必要ない (3)

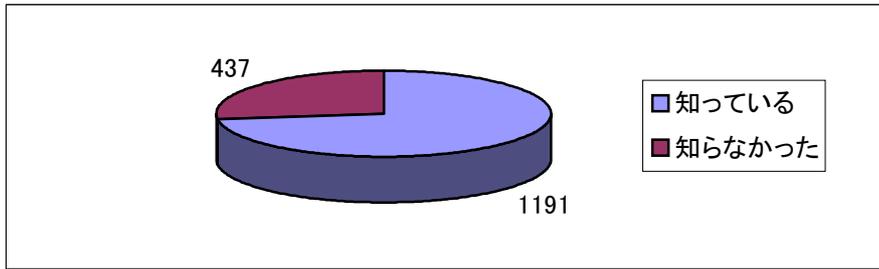
7-4. 英国・米国以外で利用したい又は利用することが想定される国はどこですか。



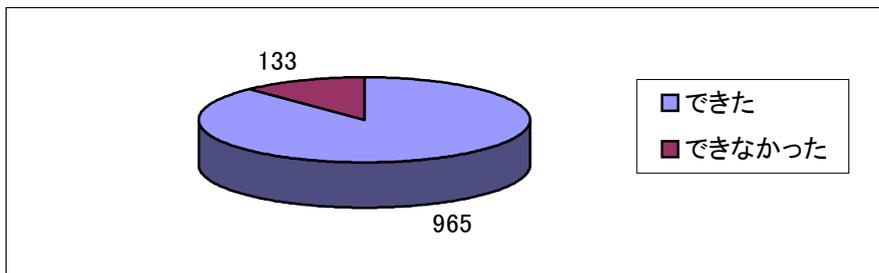
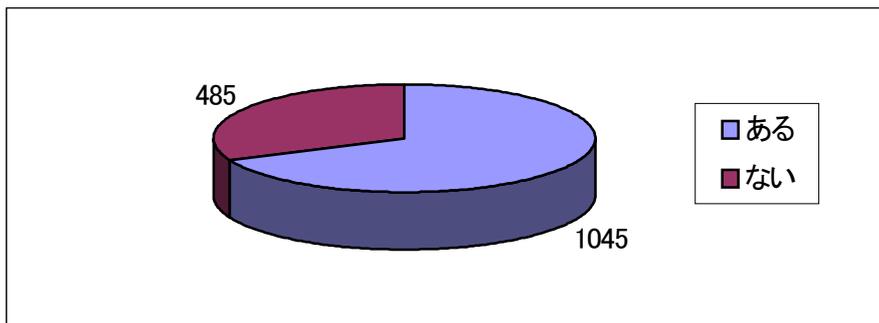
その他の内訳

韓国 (10) ロシア (10) タイ (3) イタリア (3) カナダ (2) アジア系の国 (2)

8-1. OPACシステムをご存知ですか。



8-2. OPACシステムを利用したことがありますか。

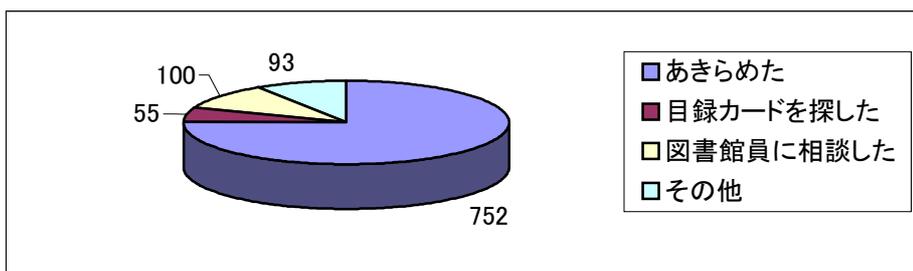


8-3. OPACシステムで必要な情報は入手できましたか。

できなかった理由

埼大にはなかった (18) キーワードで検索してもでない (14) 使い方がよく分からなかった, 難しかった (14) 古い図書が(DB化されていないので)検索できない (11) その場に本がなかった (6) 専門書すぎた (3) 内容についての検索ができない (3)

8-4. OPACシステムで見つからなかった場合, どうしましたか。

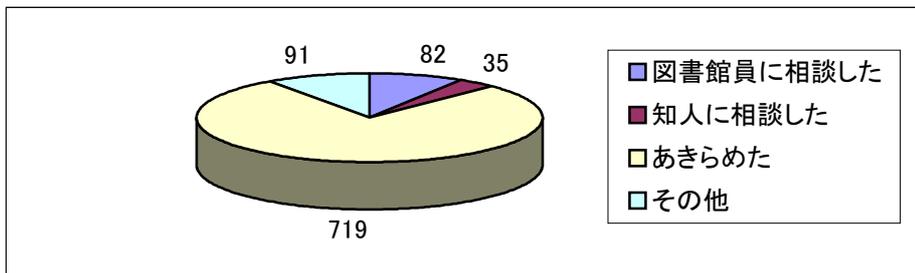


その他の内訳

直接書架を探した (28) 他の図書館で探した (22) NACSIS-Webcat で探した (10)

他大学・図書館の検索システムで探した (8) インターネットで検索した (5)
見つけられなかったことはない (4) 本屋に行った (3) 複写を依頼 (2)

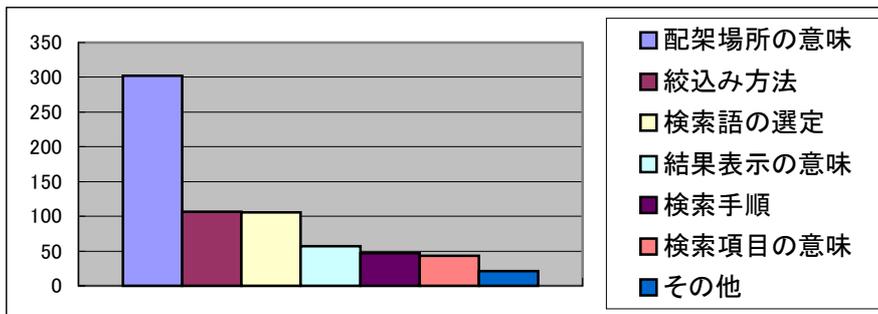
8-5. OPACシステムで所蔵場所が「研究室」と表示されたとき、どうしましたか。



その他の内訳

研究室に行った (36) 表示されることがない (28) 学科の事務室などに相談に行った (4) 教官に相談した (4) 閲覧室にある本で探した (2)

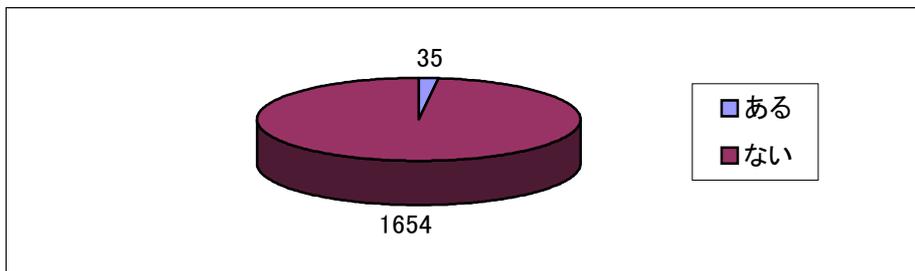
8-6. OPACシステムで分からなかったことは何ですか。(複数回答可です。)



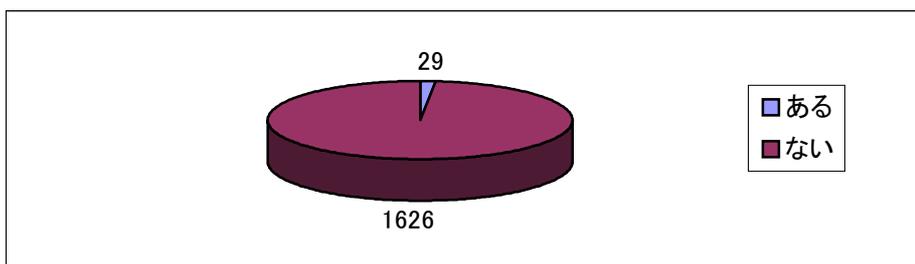
その他の内訳

配架場所へのアクセス方法 (8) 配架場所になかった (4) 研究室の本をどうやって借りたらいいか (4) 書名あるいは著者名だけで検索できないことがある (2)

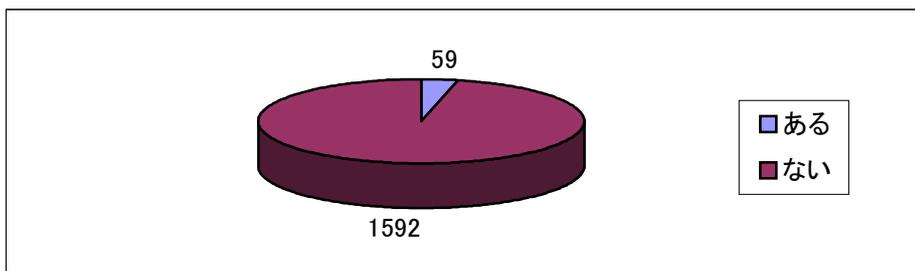
9-1. 図書館で開催した電子ジャーナル講習会に参加したことがありますか。



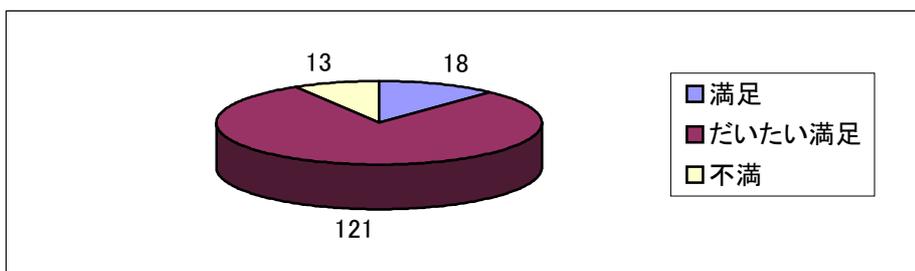
9-2. 図書館で開催したデータベース講習会に参加したことがありますか。



9-3. 図書館で開催したその他の講習会に参加したことがありますか。

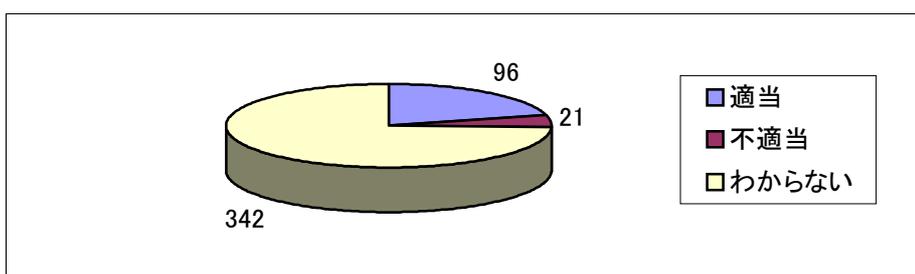


9-4. 講習会は役立ちましたか。



不満の内容 よく分からなかった (2)

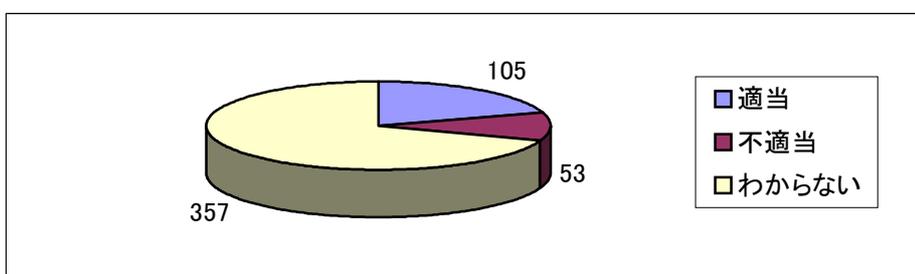
9-5. 講習会の実施方法はどうでしたか。



不適當の内容

授業のない時間帯に実施してほしい (5) いつやっているのか分からない (3)
回数を増やしてほしい 卒論文献検索の講習会は時期が遅い

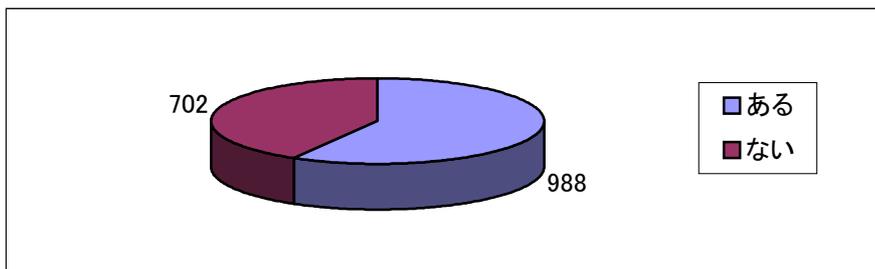
9-6. 講習会のお知らせはどうでしたか。



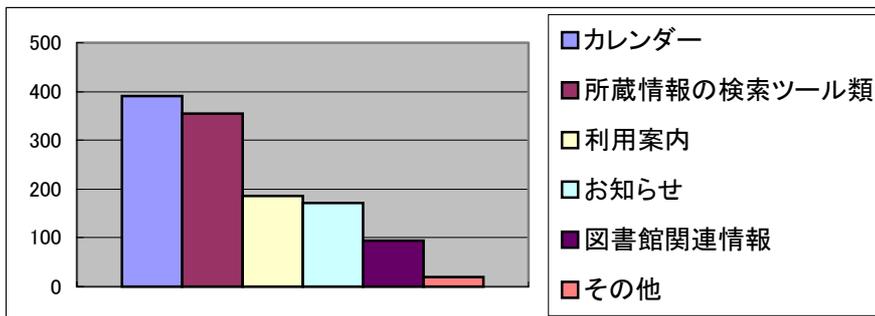
不適當の内容

講習会があることを知らなかった (37) 案内の規模が小さかった (3)
当日になって初めて知った (2) よく伝わっていた

10-1. 図書館のホームページをご覧になったことがありますか。



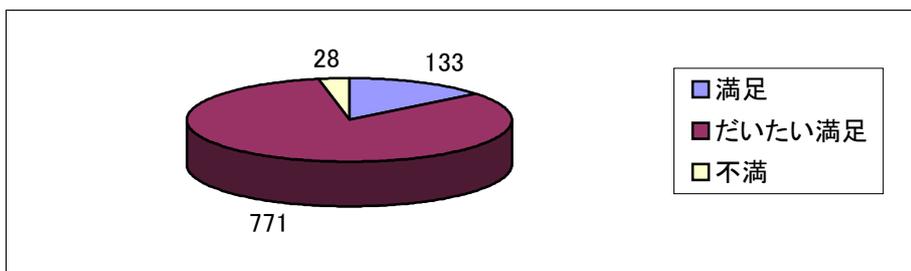
10-2. 図書館のホームページではどこをよくご覧になりますか。(複数回答可です。)



その他の内訳

電子ジャーナル (7) 見ただけであまり使わない (5) ほとんど見ない (4)
 埼大の HP に飛ぶ (2)

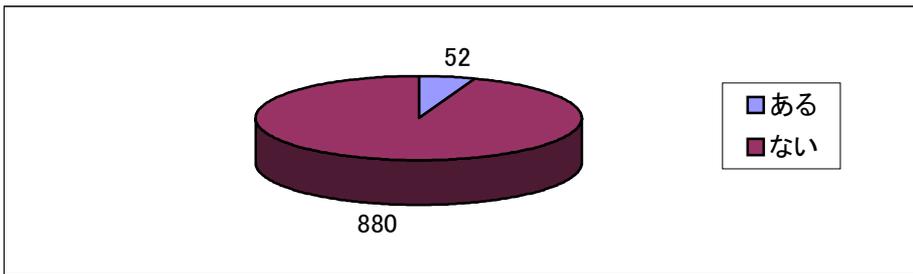
10-3. 図書館のホームページは役立ちましたか。



不満の内容

何の役にも立ちたくない (4) よく分からない (2) 情報更新が遅い デザインが古い
 検索ツールが大きくトップにあるべき

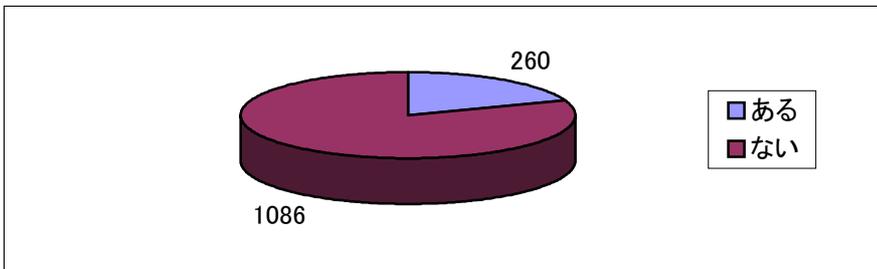
10-4. 図書館のホームページに入れてほしい内容がありますか。



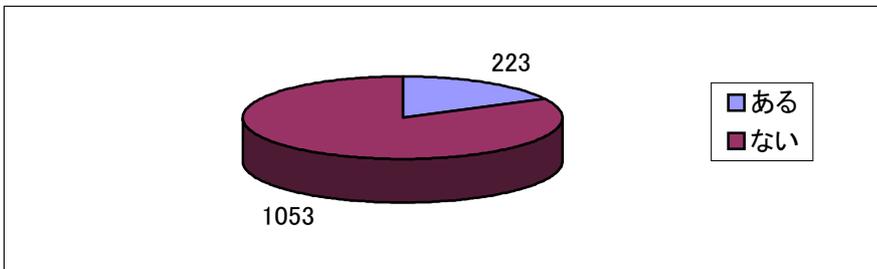
具体的な内容

新着図書情報 (8) 購入希望受付フォーム(オンラインリクエスト) (5)
 貸出し状況 (4) 電子ジャーナル一覧がほしい (4) 図書の予約フォーム (3)
 検索エンジン等へ直接つながるリンク (3)

10-5. 図書館の掲示板をご覧になったことがありますか。

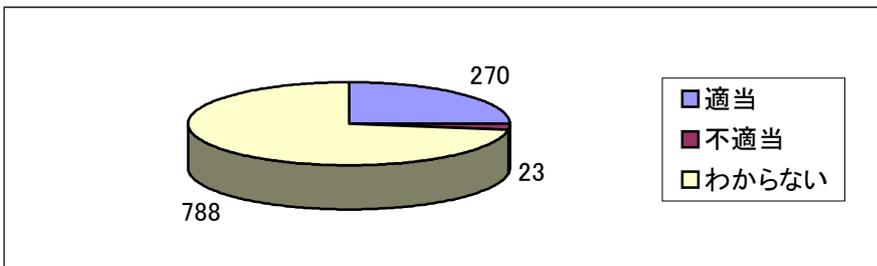


10-6. 図書館報をご覧になったことがありますか。



あるの内訳 紙媒体 (73) 電子媒体 (16) 両方 (23)

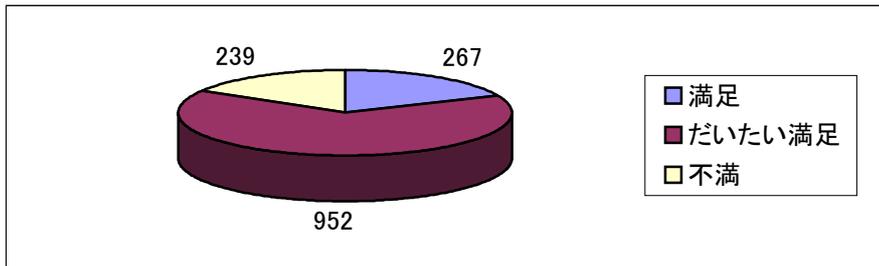
10-7. 図書館からのお知らせについてどう思いますか。



不適當の内訳

目立たない。しっかりお知らせしてほしい (8) 内容が分かりにくい (2) MLを使用すべき
 学部・学科の掲示板に掲示してほしい 講習会とか変更点等はずっと大きく知らせてほしい

11-1. 図書館員のサービスについてどう思いますか。



不満の内訳

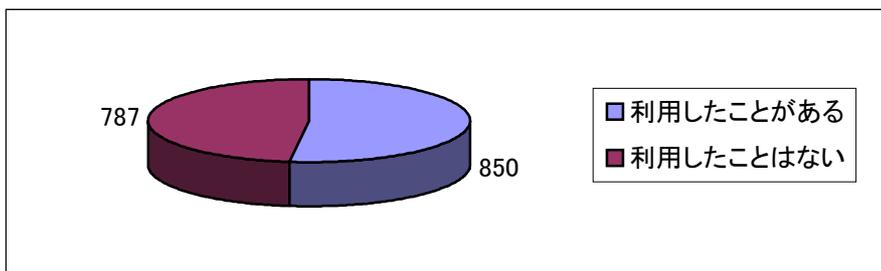
職員の態度・愛想が悪い。個人差がある (163) レファレンスサービスが不親切だった (6)
返したはずの本を返却していないと言われた。図書館側のミスだったのに謝りもしなかった (5)
図書館員が平気で大きな声で話している。うるさい学生に注意をしない (5) バイトと思われる
人の態度が非常に悪い (3) 閉館時間が近づくと追い出すような態度の人がいる (3)
適当に扱われていると感じることがある (2) いろいろと聞きにくい(尋ねにくい) (2)
サービスを受けたことがない (2)

11-2. 上記で「不満」とお答えになった方にお聞きします。どのように改善すべきですか。

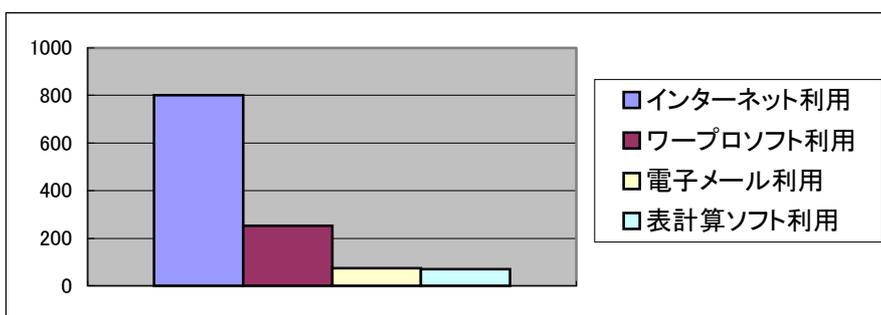
利用者の立場になって親身になってほしい (51) サービス業・接客業であることを
意識させる職場教育・勉強会をする (40) 愛想をよくする (22)
カウンターの対応の質の向上を図ってほしい (9) 態度を改めてほしい (8)
窓口業務から外すか、クビにする (7) 相談しやすい雰囲気にしてほしい (6)
丁寧に應對してほしい (5) 図書館側のミスは謝罪すべき (6)
閉館 10 分前になると追い出そうとする態度はやめてほしい (3)
静かにしてもらいたい (3) 資料をもっと充実してほしい (3)
私語がうるさい利用者にはしっかりと注意してほしい (2) 最低限の対応をしてほしい (2)
私立大学の図書館を見習ったらよい (2)

V. 本学附属図書館で提供している設備についておたずねします。

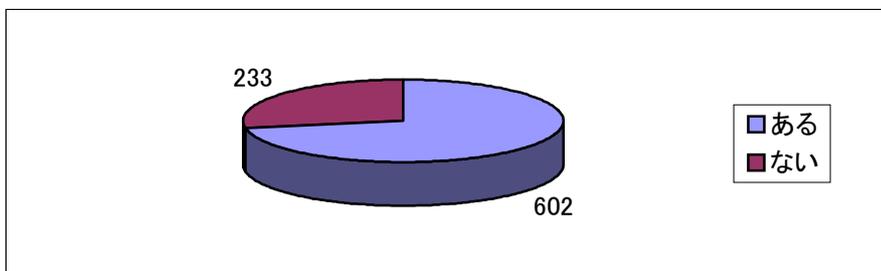
1-1. インターネットやレポート作成に自由に使える情報端末を 18 台用意していますが, 利用しましたか。



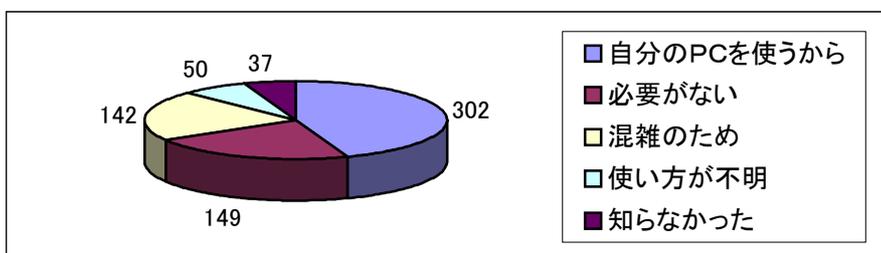
1-2. 主にどんなことに利用しましたか。(複数回答可です。)



1-3. 利用の際に順番待ちの経験がありますか。



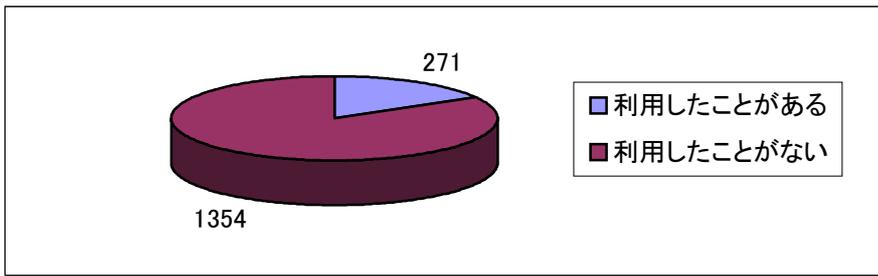
1-4. 利用したことがない方におたずねします。利用しない理由は何ですか。(学外の方は回答不要です。)



その他の理由

空いてなかったら帰る (2) 自分の使いたいソフトがインストールされていないから
 総合情報センターを利用 PC 遅すぎ パソコンが古いので新しいのがいい

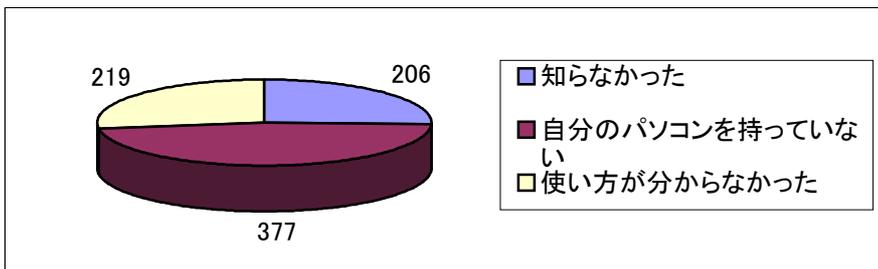
2-1. 自分のパソコンの持込み利用ができる情報コンセントが閲覧室に 104 口ありますが, 利用しましたか。



2-2. 主にどんなことに利用しましたか。(複数回答可です。)



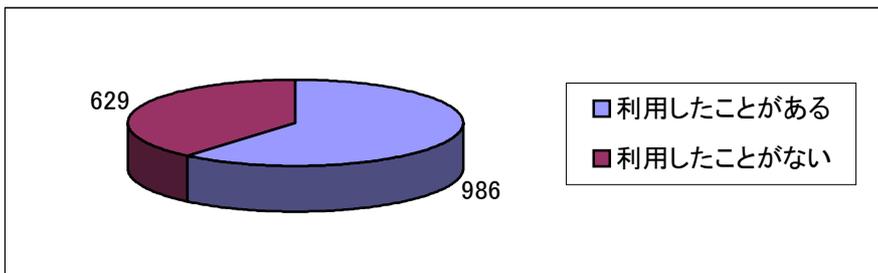
2-3. 利用したことがない方におたずねします。利用しない理由は何ですか。(学外の方は回答不要です。)



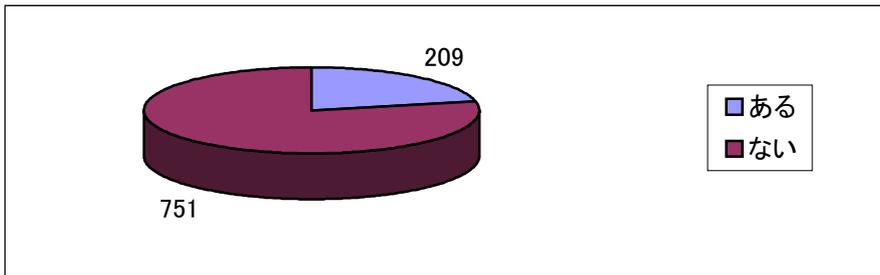
その他の理由

PCを持ってくるのが大変 (54) 使う必要がない (37) 家でできるから (7)
 研究室で利用 (6) 講義棟に PC がある

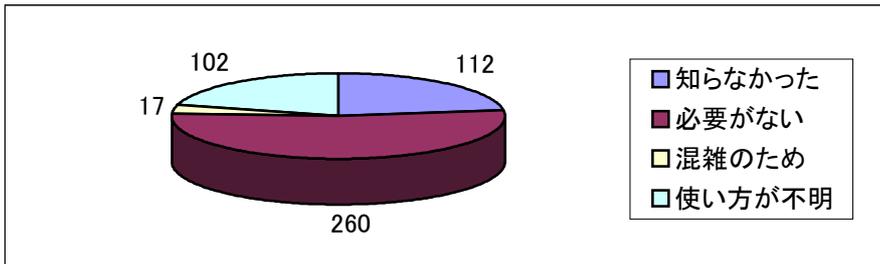
3-1. 埼玉大学で所蔵する資料を探すために OPAC 端末を 9 台用意していますが, 利用しましたか。



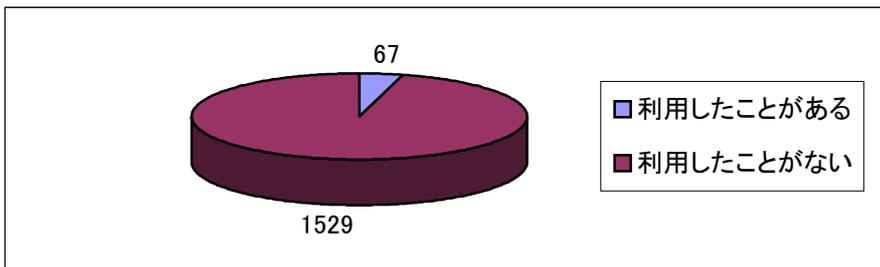
3-2. 利用の際に順番待ちの経験がありますか。



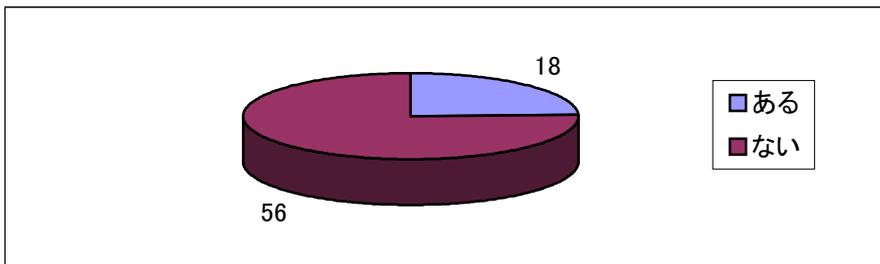
3-3. 利用したことがない方におたずねします。利用しない理由は何ですか。



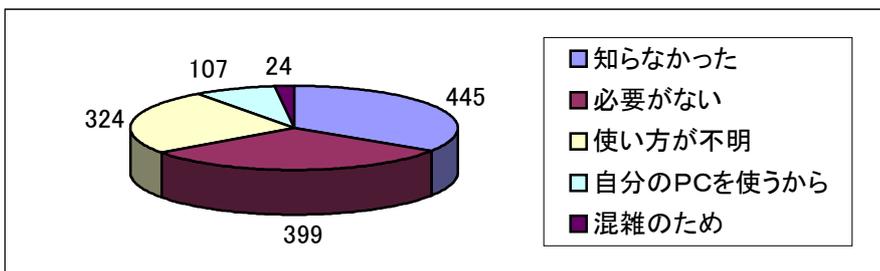
4-1. CD-ROMで提供される各種データベースを検索する専用の端末を用意していますが、利用しましたか。



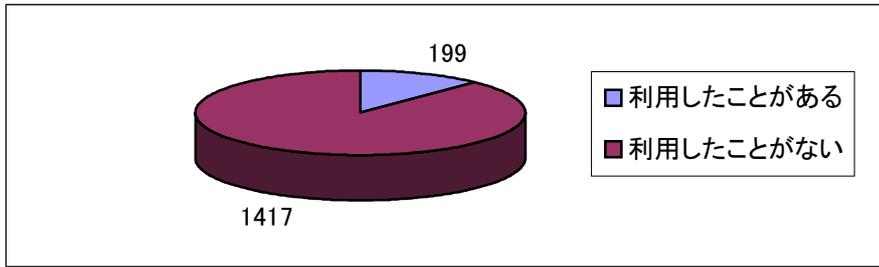
4-2. 利用した際、検索結果をプリントしたことがありますか。



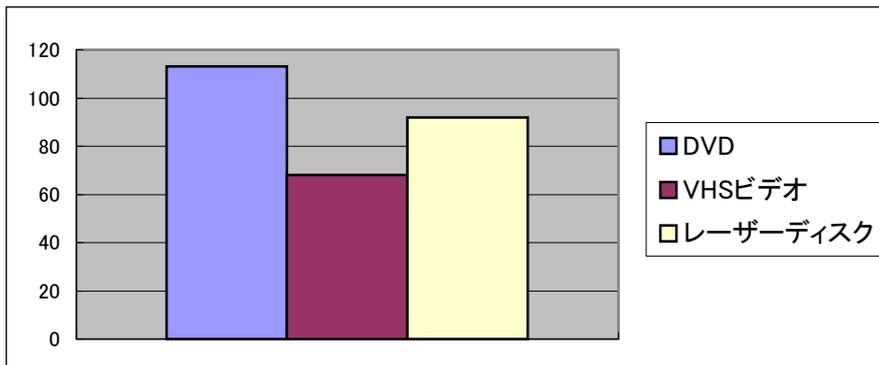
4-3. 利用したことがない方におたずねします。利用しない理由は何ですか。(学外の方は回答不要です。)



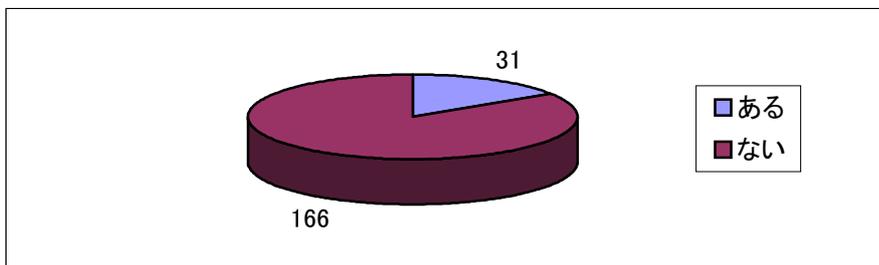
5-1. ビデオ等の視聴覚資料を利用するためにAV機器を用意していますが、利用しましたか。



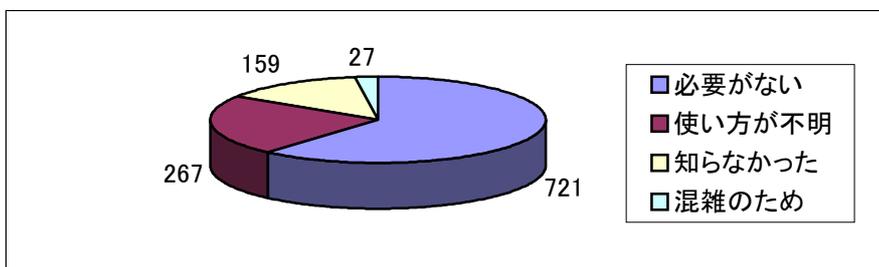
5-2. 利用したのは何ですか。(複数回答可です。)



5-3. 利用の際に順番待ちをした経験がありますか。



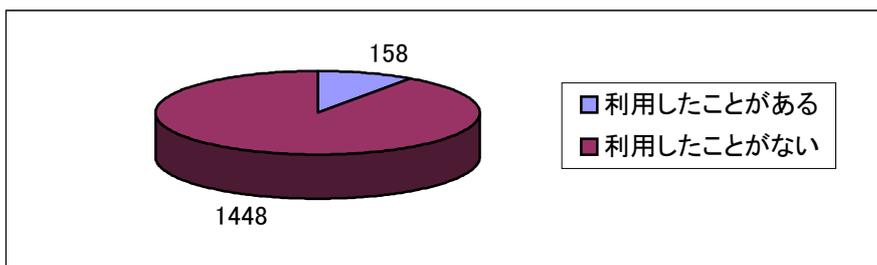
5-4. 利用したことがない方におたずねします。利用しない理由は何ですか。(学外の方は回答不要です。)



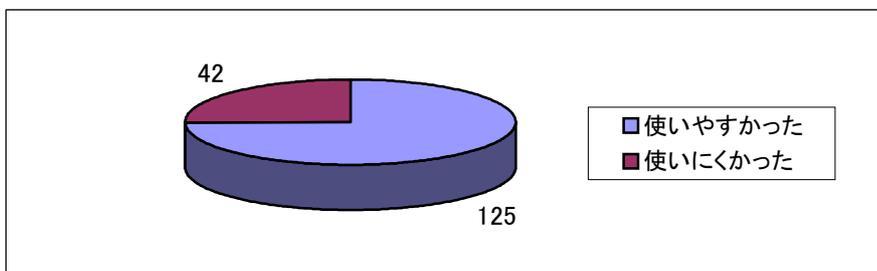
その他の理由

時間がない (5) 17:00以降は利用できないため (4) 手続きが面倒くさい (2)
 貸出しだけでなく、そこで見ないとダメだとのことだったので 魅力がない
 環境が嫌だから。声を出せない、圧迫感がある

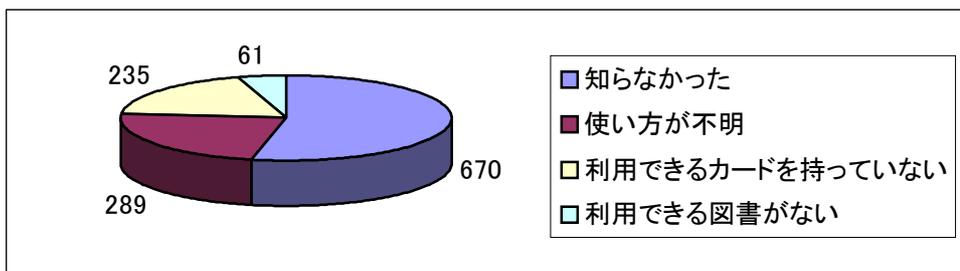
6-1. 利用者が自分で図書の貸出手続きができる図書自動貸出装置を1台設置していますが、利用しましたか。



6-2. 利用してみてどうでしたか。



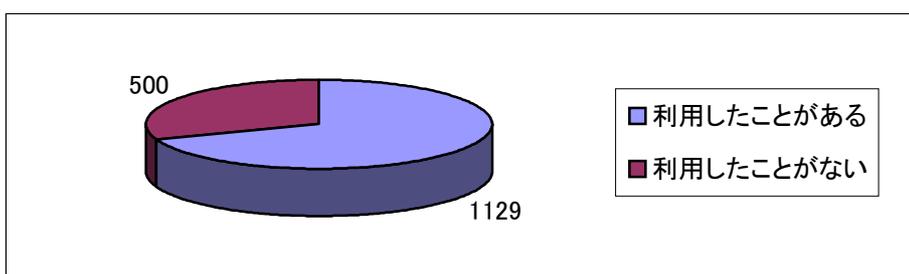
6-3. 利用したことがない方におたずねします。利用しない理由は何ですか。



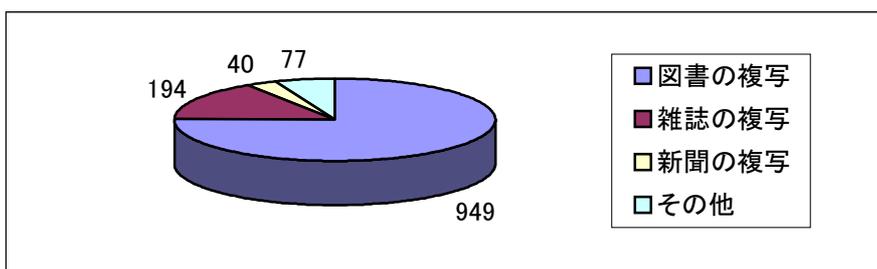
その他の理由

カウンターを利用したから (4) 必要がない (3) 設置後図書館を利用していない (2)

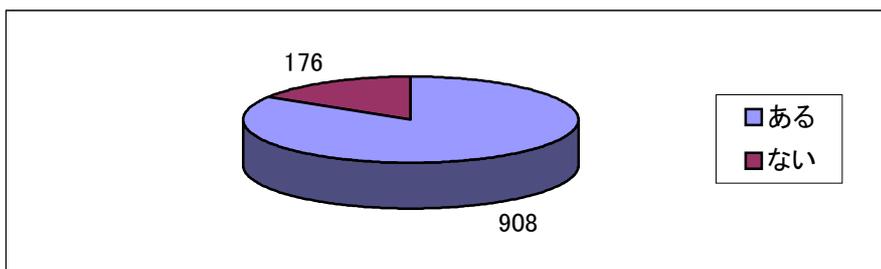
7-1. 図書館の資料を複写するためにセルフ式コピー機を設置していますが、利用しましたか。



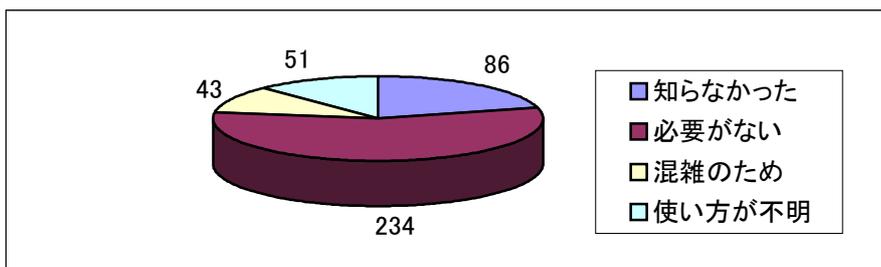
7-2. 利用したことがある方におたずねします。主に利用したのは何ですか。



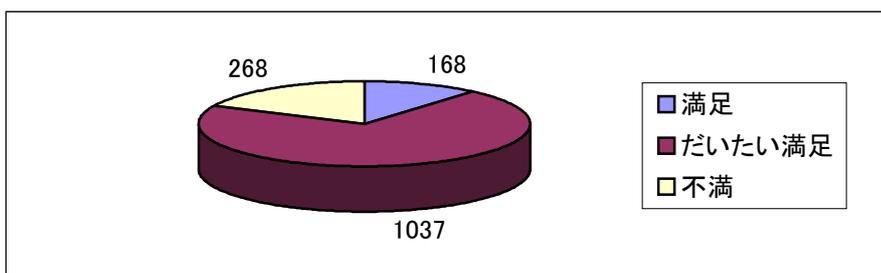
7-3. 利用する際に順番待ちの経験がありますか。



7-4. 利用したことがない方におたずねします。利用しない理由は何ですか。



8-1. 図書館の利用環境全体についてどう思いますか。



不満の内容

蔵書数が少ない (48) 温度(室温)の管理 (38) パソコンが少ない。古く、使いづらい (20) コピー機が少ない (18) 閲覧室の座席が少ない (13) 開館日が少ない。開館時間・利用時間が短い (11) うるさい。私語が多い (9) トイレが汚い。1箇所しかない (7) 施設・設備が古い (7) 職員の態度が悪い (7) 空気悪い (6) インターネット環境がよく不調になる (4) 落ち着いて勉強できない (4) もっと大きな図書館にしてほしい (4) 本棚が分かりにくい (3) 本が古すぎる (3) どの図書館よりも静かで落ち着いて勉強に励めます (2)

8-2. 「不満」とお答えになった方、どのように改善すべきですか。

蔵書の強化 (79) 温度調節をしてほしい (49) コピー機を増やしてほしい (33) 図書館増改築が必要 (28) 新しいパソコンをたくさん導入する (24) 開館時間を長くし、休館日を減らす (22) 館員の態度が悪い。再教育すべき (13) 設備の更新, 充実 (12) 利用者一人一人が自覚を持って行動する。職員の見回りの強化 (11) 席を増やす (10) 閲覧室のテーブルの一つ一つに仕切をつける (6) 専門雑誌の種類を増やしてほしい(特に電子ジャーナル) (6) 広報の充実 (5) サーバ及び回線の安定性向上, 設定の適切化 (4) 各学部・学科・研究室の本を利用したいときに、手間が掛かる。研究室に置かないでほしい (4) バリアフリー 入り口は1階に (3) パソコンにプリンタを設置する (3) コピーカードを販売してほしい (3) 自動貸出機を利用できるカードを全学生に作ってほしい (3)

図書選定のガイドラインの設定, 方法の効率化(新刊リストのメール送信による選定など) (3)
資料の配置・保存の適切化 (3) データベースの充実 (2)
単なる閲覧室とパソコンが利用できる場所をはっきりと分けるべきだと思う (2)

VI 図書館に設けてほしい施設・設備, 実施してほしいサービス, 図書館活性化策など

蔵書を増やす (102) コピー機の増設 (71) パソコンを増やしてほしい (45)
室温管理・冷暖房完備 (38) パソコンの更新・性能向上 (35) トイレの増改築・整備 (26)
開館時間を延ばしてほしい (23) 活発な利用案内・情報提供をしてほしい (22)
一般向け図書(小説, 文庫など)を入れてほしい (20) 施設の利用時間延長。休日利用 (19)
カフェテリア・喫茶, 軽食コーナー (19) パソコンにプリンタを設置してほしい (17)
新しい本を入れてほしい (14) 職員の態度の改善。意識改革 (12) 座席の増加 (12)
個人用座席の増設 (11) CD, DVD 等の貸出 (11) 雑誌の種類を増やす (10)
CD, DVD をもっと充実してほしい (9) 図書館の増改築 (9) ネットで予約, 貸出状況・延長,
購入希望, ILL 等できるようにしてほしい (7) インターネットの接続環境が良くない (7)
電子ジャーナルの充実 (7) 休憩コーナー, 仮眠コーナー (7) 24時間営業 (6)
研究室図書の利用に便宜を図ってほしい (6) 学科, 研究室にある図書を集中してほしい (6)
利用度が高い図書は複数用意し, 1冊は貸出不可にしてほしい (6) 照明を明るくする (5)
学生, 教官が手持ちの不要図書を登録して, 必要な人が手に入れることのできるサービス (5)
教授が参考として挙げる本をきちんとそろえる (5) 自動貸出装置のカードを配布する (5)
AV 施設の充実 (4) 入り口を1階にする (4) 延滞罰則の緩和 (4) 今もままでいい (4)
入口の階段部分に屋根をつける方がいい。雨の日は階段が滑りやすく危険です (3)
レファレンスが17時で閉まるのをもう少し長くしてほしい (3) グループ学習室 (3)
案内図, 資料配置図を多くつけてほしい (3) 3階閲覧室にも情報コンセントがほしい (3)

VII 他の機関のサービスで利用しているものは

DVD, CD などの貸出し (14) パソコンや携帯から図書の予約, 所蔵情報, 貸出状況確認,
リクエストができるサービス (10) 検索サービスで結果をプリントアウトしてほしい (2)
図書検索で図書のある位置を図で示されているもの (2) 最新号以外の雑誌の貸出 (2)
冷水機みたいな水飲み場がほしい (2) ファッション雑誌閲覧 (2)